

< | + + + + + + + + + < | 男女共同参画推進センター報告書 | >

> | > > > | 平成 27 年

27

京都大学

男女共同参画推進センター報告書

平成28年3月

## 目 次

|                                |           |
|--------------------------------|-----------|
| ご挨拶                            | 1         |
| 運営体制                           | 2         |
| <b>I 「広報・相談・社会連携」事業</b>        | <b>3</b>  |
| 1) 日仏討論会「男女間の不平等との闘い」          | 4         |
| 2) エネルギー科学研究科 男女共同参画推進講演会      | 6         |
| 3) Women and Wish フォーラム 2      | 7         |
| 4) 京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）         | 11        |
| 5) 講義・ゼミ                       | 17        |
| 6) 女子高生・車座フォーラム 2015           | 18        |
| 7) 第 10 回女子中高生のための関西科学塾        | 25        |
| 8) 出前講義                        | 27        |
| 9) 冊子「未来に繋がる青いリボンのエトセトラ」Vol.3  | 28        |
| 10) 男女共同参画推進センターNewsletter     | 31        |
| <b>II 「育児・介護支援」事業</b>          | <b>51</b> |
| 1) 平成 27 年度「保育園入園待機乳児のための保育施設」 | 52        |
| 2) おむかえ保育                      | 55        |
| 3) ベビーシッター育児利用支援               | 57        |
| <b>III 「病児保育」事業</b>            | <b>59</b> |
| 1) 病児保育室「こもも」                  | 60        |
| <b>IV 「就労支援」事業</b>             | <b>75</b> |
| 1) 研究・実験補助者雇用制度                | 76        |
| <b>資料</b>                      |           |
| 1) 男女共同参画推進センター関係者名簿           | 83        |
| 2) 男女共同参画推進センター会議議事            | 84        |
| 3) 京都大学の教員・学生数                 | 87        |
| 4) 京都大学の女性研究者・女子学生の状況          | 89        |



## ご挨拶

理事・副学長

京都大学男女共同参画推進センター長

生命科学研究所教授 稲葉カヨ

平成 18 年に科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」の下で設立された女性研究者支援の活動も 10 年目の節目を終えようとしています。既に昨年度からは、「女性研究者支援センター」を発展的に改組し、男女共同参画推進本部のもとに設置された男女共同参画推進センターで行っています。そのため、支援の対象も女性研究者のみならず教職員・学生へと広がってきつつあります。

平成 27 年 4 月には、アクション・プラン（2015 年度～2020 年度）を公表しました。その中には、「男女共同参画推進本部・推進センターを軸にして、基盤整備の拡充を進めると共に、女性リーダーの育成、家庭生活との両立支援、次世代育成支援という 3 つの目標を設定し、本学における男女共同参画の一歩の進化を進める」としています。また、6 月に山極総長から「WINDOW 構想」が発表されました。末尾の W は“Women and Wish”であり、「男女共同参画推進アクション・プランに基づき明るい希望を持てる環境を整備します」と明記されました。

それを裏付けるように、昨年度 7 月に思修館の学寮「船哲房」の 1 階に入居したセンターでは、以前より多くの待機乳児を受け入れることができるようになっただけでなく、これまでの 9 月からの受け入れを改め 4 月初旬からとし、利用者の利便性の向上に努めています。

今年度は 5 回発行したニューズレターでは、多くの方々に楽しみにしていただいている「連載：研究者になる！」も 55 人目の教員に登場していただきました。教養教育では、ポケットゼミ「ジェンダーと科学」に加えて、「偏見・差別・人権」でもジェンダーの視点においては本センターの運営に関与する教員が講義を担当しています。また、年末の押し迫った時期に開催した「女子高生・車座フォーラム 2015（第 10 回）」は京都大学進学を目指す 116 名の女子高校生と保護者 53 名の参加を得、保護者の皆様にも京大生との交流会で有意義な時間を過ごしていただくことができました。さらに、女子高校生向けに、あなたの未来の姿をイメージしてみませんか？と題した“未来に繋がる青いリボンのエトセトラ”という冊子の第 3 号を刊行しました。

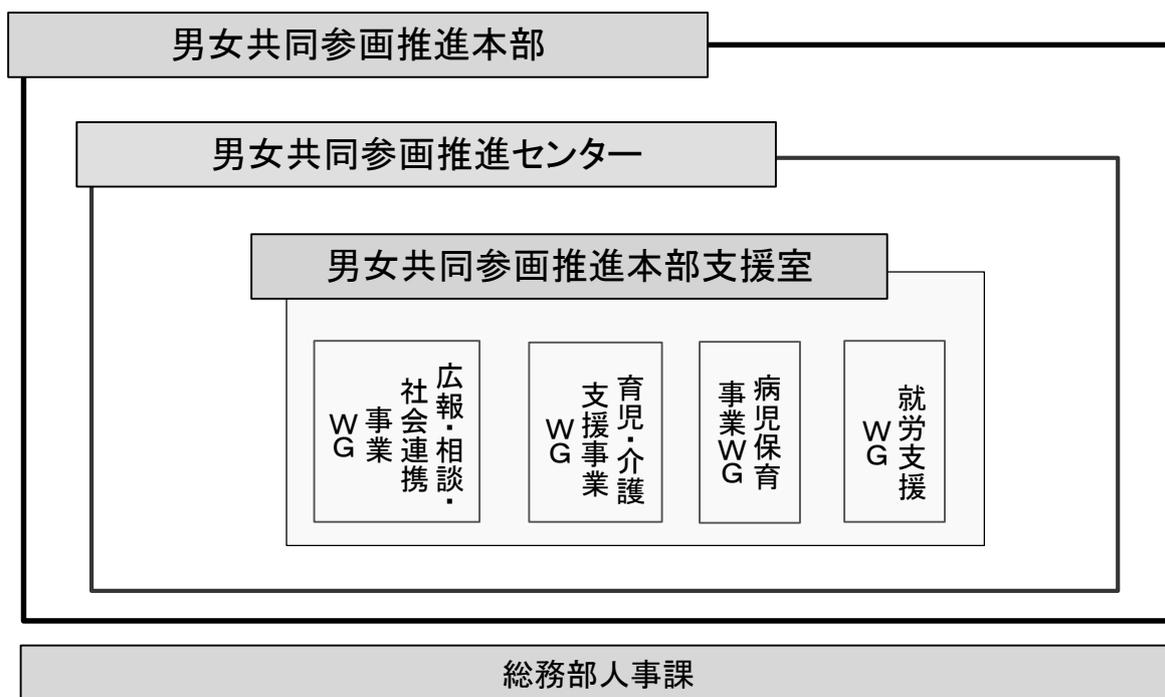
センターにとって最も有意義なイベントは、山極壽一総長の出席の元に開催できた第 2 回目の“Women and Wish”フォーラムです。今年度は女性教員懇話会との共催で、多くの出席者を得ることができました。

現在、来年度からのセンター 11 年目に向けて、さらに多くの方々に事業を知り、理解頂けるよう、ホームページの刷新に取り組んでおりますので、どうかご期待下さい。

最後になりますが、運営費交付金の減額や組織改革推進など、大学運営の厳しさも増している状況の中、今後もなお一層のご理解、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

## 運営体制

男女共同参画推進本部のもと、京都大学の男女共同参画を推進するために、男女共同参画推進センターが設置されています。本センターには男女共同参画推進本部支援室をおき、そのもとに学内教員を委員とする4つのワーキンググループを設置して、それぞれの事業を企画・運営しています。



| 役職                      | 氏名                 |
|-------------------------|--------------------|
| 男女共同参画推進センター長           | 稲葉 カヨ (理事・副学長)     |
| 男女共同参画推進本部支援室長          | 伊藤 公雄 (文学研究科)      |
| 広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ主査 | 山末 英嗣 (エネルギー科学研究科) |
| 育児・介護支援事業ワーキンググループ主査    | 小西 由紀子 (理学研究科)     |
| 病児保育事業ワーキンググループ主査       | 足立 壯一 (医学研究科)      |
| 就労支援事業ワーキンググループ主査       | 佐藤 亨 (情報学研究科)      |

# I 「広報・相談・社会連携」事業

# 広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ活動報告

広報事業ではWomen and Wishフォーラム2「男女共同参画推進センターの実験研究補助者制度を利用して」を行った。前回と同じく総長との意見交流を主体とし、京都大学の Window 構想における本センターの重要性を再確認した。

社会連携事業としては、第10回女子中高生のための関西科学塾、女子高生・車座フォーラム2015を学内にて開催し、次世代育成のための活動を行なった。これからの社会を担う若い女子学生に対し、研究職に興味を持たせるような機会を提供するとともに、更なる工夫、改善の必要性を感じた。

そして、センターの活動について、ウェブサイトやニュースレターを通して、学内外に広報活動を行った。



広報・相談・社会連携事業WG主査 山末 英嗣

## ■活動記録

- |           |   |
|-----------|---|
| 4月25日(土)  | 京都女子高校にて大学進路講演会:浅井歩                                 |
| 5月9日(土)   | 日仏討論会「労働市場における男女間の不平等 袋小路から抜け出るには？」                 |
| 6月10日(水)  | ニュースレター「たちばな」第63号発行                                 |
| 10月30日(金) | ニュースレター「たちばな」第64号発行                                 |
| 11月15日(日) | 第10回女子中高生のための関西科学塾<D>を京都大学で実施                       |
| 12月11日(金) | エネルギー科学研究科 男女共同参画推進講演会                              |
| 12月26日(土) | 女子高生・車座フォーラム2015                                    |
| 1月15日(金)  | ニュースレター「たちばな」第65号発行                                 |
| 1月25日(月)  | ニュースレター「たちばな」第66号発行                                 |
| 2月12日(金)  | 滋賀医科大学にて男女共同参画推進のための講演会:稲葉カヨ                        |
| 2月22日(月)  | “Women and Wish”フォーラム2「男女共同参画推進センターの実験研究補助者制度を利用して」 |
| 3月11日(金)  | 京都府立洛北高等学校にて特別講義:稲葉カヨ                               |
| 3月20日(日)  | ニュースレター「たちばな」第67号発行                                 |
| 3月30日(水)  | 冊子「未来に繋がる青いリボンのエトセトラ」Vol.3 発行                       |



## 男女間の不平等との闘い

只小冊を抜け出すためのイニシアティブとは？

**LUTTE CONTRE LES INÉGALITÉS HOMMES-FEMMES :  
QUELLES INITIATIVES POUR SORTIR DE L'IMPASSE ?**

2015 / 5 / 7 土 15:30-18:00 @ 京都大学  
2015 / 5 / 28 木 16:00-17:30 @ アンスティチュ・フランセ関西・京都  
2015 / 5 / 29 金 17:30-19:30 @ 上智大学

samedi **9 mai** 2015 | 15h30-18h00 | UNIVERSITÉ de KYOTO  
jeudi **28 mai** 2015 | 16h00-17h30 | Institut français du Japon – Kansai / Kyoto  
vendredi **29 mai** 2015 | 17h30-19h30 | UNIVERSITÉ SOPHIA

主催 日仏文化交流センター (東京) / 日仏文化交流センター (京都) / アンスティチュ・フランセ関西・京都 / 上智大学  
後援 日仏文化交流センター (東京) / 日仏文化交流センター (京都) / アンスティチュ・フランセ関西・京都 / 上智大学



INSTITUT  
FRANÇAIS  
アンスティチュ・フランセ  
JAPON

## 労働市場における男女間の不平等 袋小路から抜け出るには？



5月9日(土)芝蘭会館(稲盛ホール)にて、日仏討論会「労働市場における男女間の不平等 袋小路から抜け出るには？」を開催しました。

この討論会は、「男女間の不平等との闘い 袋小路を抜け出すためのイニシアティブとは？」をテーマに、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、上智学院男女共同参画推進室、京都大学が共同で開催した討論会のひとつです。

竹村 登茂子氏(読売新聞)の司会進行で、はじめに、稲葉カヨ理事より、この討論会がフランスと日本のジェンダー平等をさらに加速、促進することを祈念して開会の辞が述べられました。

続いて、パネリストのフランソワーズ・ミレウスキ氏(パリ政治学院教授)、橋本 俊詔氏(京都大学名誉教授)、小酒部 さやか氏(マタハラ Net 代表)、小笠原 隆裕氏(アクサ生命保険株式会社 執行役)、ダニエル・ブスケ氏(フランス男女平等推進委員長)が各々のテーマに沿って冒頭発表の後、日本で女性が働く上での問題点や、それに対するフランスの現状などについて意見交換をし、今後日本が進むべき道筋について議論しました。

最後に、横山 美夏教授による総括の辞で、盛況のうちに討論会を締めくくりました。



## エネルギー科学研究科 男女共同参画推進講演会



12月11日(金)、エネルギー科学研究科主催、男女共同参画推進センター共催にて、男女共同参画推進講演会が開催されました。

石原慶一副研究科長の司会進行で、稲葉カヨ理事・副学長より挨拶があり、世界における日本の現状や、京都大学の現状、京都大学男女共同参画推進センターの取り組みなどについて説明がありました。

次に、豊橋技術科学大学男女共同参画推進室長、京都大学客員教授の中野裕美先生に、「ダイバーシティ社会に向けて～工学系でどう取り組むか、考えてみませんか?～」と題し、

講演をしていただきました。女性が活躍すると何が期待できるのか、なぜ女性研究者、女性リーダーが少ないのか、女性が活躍するにはどうしたらいいかなど、ご自身の体験を交えてわかりやすくお話していただきました。最後には、京都大学の工学系がリーダーシップを取り、他大学を牽引してほしいと期待のお言葉を頂きました。

質疑応答の時間には、参加者それぞれの視点から、質問や意見があり、中野先生が丁寧に回答されました。

最後に、塩路昌宏研究科長の挨拶で、講演会を締めくくりました。



## “Women and Wish”フォーラム2

\*\*\*  
京都大学男女共同参画推進センター

シリーズ “Women and Wish” フォーラム2



# 男女共同参画推進センターの 実験研究補助者制度を利用して



山極壽一京都大学第26代総長は六つの活動指針の頭文字をとった標語WINDOWを掲げています。その結びの“W”は、男女共同参画社会実現のための“Women and Wish”です。男女共同参画推進センターでは、昨年から新たにシリーズ「Women and Wish フォーラム」を企画しています。第1回は、山極総長と本学若手女性研究者によるトーク・セッションを行いました。第2回では、センターの「研究・実験補助者雇用制度」を利用された方を中心に登壇いただき、センターや総長への要望を伺うとともに女性研究者が直面している問題点、あるいは数値目標だけでは語りきれない目標の解決に向けたディスカッションを行いたいと思います。

- 日時 | 2016年2月22日(月)  
13:00 ~ 15:00 ※12:30 受付開始
- 場所 | 芝蘭会館別館(国際交流会館)2階 研修室2  
京都市左京区吉田牛ノ宮町11-1
- 対象者 | 京都大学に所属する  
教職員・学生 定員 | 60名(先着順)
- 申込 | 予約制 京都大学男女共同参画推進センター  
(<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>)のフォーラム  
申込入力フォームより、お申し込みください。



京都大学理事・副学長  
男女共同参画推進センター長  
稲葉 カヨ



京都大学総長  
山極 壽一

### 講演者等

基調講演 「男の器量」と育休：  
父として、教員として、夫として  
人間・環境学研究所 助教 東樹 宏和

制度を利用して  
医学研究科 助教 竹之内 沙弥香  
白眉センター 特定助教 小石 かつら

参加者の子どもの保育室を芝蘭会館別館にて開設いたします。

対象年齢は生後3か月から小学校3年生、保育時間は12時30分から16時00分です。保育料は無料です。保育をご希望の方は、2月12日(金)までにシンポジウム申し込み時に、お子様の名前(よみがな)・性別・年齢・連絡先をお知らせください。



問合せ先 **京都大学男女共同参画推進センター**

E-mail : [w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp)

URL : <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

Tel : 075-753-2437

主催 京都大学男女共同参画推進センター 共催 女性教員懇話会



## 男女共同参画推進センターの実験研究補助者制度を利用して

2月22日(月)、芝蘭会館別館研修室2にて“Women and Wish”フォーラム第2回「男女共同参画推進センターの実験研究補助者制度を利用して」を開催しました。

始めに、山末 英嗣広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ主査の司会で、稲葉 カヨ理事・副学長より開会の挨拶がありました。



ほしい、その際、トップダウンとボトムアップをうまくかみ合わせての活動が重要だとの見解を示しました。

次に、東樹 宏和先生(人間・環境学研究科)が『『男の器量』と育休:父として、教員として、夫として』と題し、



講演を行いました。東樹先生は1ヶ月間育児休暇を取得しましたが、直近2年での男性の育休利用としては唯一の利用者だったとのことで、育休だけが全てではないがもっと取得

率が上がってほしいと述べました。育児を通して家事、育児、仕事の両立の大変さを実感し、父親が育児をすることに行政やマスメディアを含めた世間の意識の低さなどを感じたそうで、感じたことなどは個人の情報に留めずに周囲に発信するようにしているとのこと。体のつくりの違いで母親にはどうしてもかなわない部分があることは確かなので、父性をどう積極的に利用するか考え、育休取得など個人の行動を介して社会の未来を変えていく努力をすることや、子供の思春期以降に社会との関わり方を伝える役目をしたいと語りました。また、子を持つ一人の科学者として子供たちに安心して暮らせる世界を残すための研究や活動に一層取り組みたいと話しました。また、京都大学には学生を社会に送り出す大学だからこそ先頭に立ってやっていって



次に、佐藤 亨就労支援事業ワーキンググループ主査より、実験補助者制度の現状について説明がありました。費用の限度があり、支給額を下げすぎたはいけないと思うと採択数を絞らざるを得ない状況で、採択数は応募の6割くらいの年30件ほどになっています。一時は、申請書類の準備が大変なこともあり、申請自体を諦めてしまう方がいたことは大変残念ですが、少しは改善してきており、国立大学のおかれる厳しい状況の中で頑張っています、と現状を説明し、今回は率直な意見をお聞きしたいと述べました。

その後、実験研究補助者制度の利用者を代表し、小石 かつら先生(白眉センター/人文科学研究所)と竹之内 沙弥香先生(医学研究科)より、お話がありました。



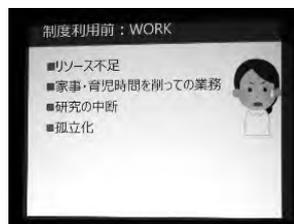
小石先生は、ある男性研究員の奥様が研究者を辞め、専業主婦になったお話を例に出し、本人や周囲も気づいていないかもしれないが、研究者として仕事を続けていく上で、いろいろな障害に心が折れてしまうということも考えられると

話されました。先生も実験研究補助者制度の申請の際は、ここまでしないといけないならやめたらいいじゃないか、という気持ちになったそうです。研究者を続けることでパートナーに制限をかけてしまう、迷惑をかけてしまう、保育所が見つからない、一方で私が仕事をしなくても周囲に反対する人はいない、制度を使うわけでもない、迷惑をかけるわけでもない、研究さえやめれば問題は解決してしまう。研究者として消えることにハードルはないが、続けることに関してはハードルがたくさんある。その中で、実験補助者制度はただ助かるという意味以上に、自分の研究に価値があると思わせてくれる、研究者としての存在そのものを支えてもらえる精神的にも有難いものであったし、今後も続けていってもらいたいと述べました。ただ、採択率6割の現状は悲しいことであるとし、諦めて申請しない人の気持ちもわかるので申請に対するサポートがあればいいと意見を述べました。



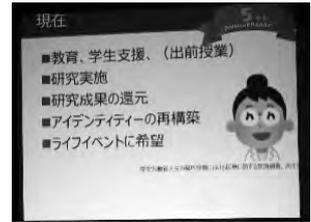
竹之内先生は、5年前に育児と介護に苦勞しながら実験補助者雇用制度に応募したものの、初めて応募した際は不採択だったそうです。申請書類を記入していると、この様な大変

な状況で働いても良いのかと辛い気持ちになったそうです。申請してもダメだろうと2回目の申請は諦めていたそうです。ところが、上司に推薦してもらい応募したところ採択され、以降3期に渡り利用されているとのこと。制度を利用する前は、育児や家事の時間を削って研究活動をしてても大幅に遅れるような状況、自分や家族の体調不良、周りに同じような状況で相談できる人もおらず、家族に大きく負担をかけ、常に罪悪感があり、母として、教員として、妻として、娘として、全ての立場で自分はダメだと感じ、自尊感情が著しく低下していたと思返されました。一転、制度を利用してからはデータ収集を補助者の方をお願いしたことで、保育園のお迎えはほぼ定刻通りに行け、家族の時間が持てるように



なり、子供、家族のストレスや負担も減りうまく回るようになったそうです。研究も

「これでいいのだ」とアイデンティティを再構築でき、効率的に教育や研究に取り組むことができるようになったとのことで、この制度なくして今の私はないというほどこの制度は大変有難かったとのこと。一方、経験から感じたこととして、搾乳場所がなくトイレで搾乳をした経験から環境がもっと整えばと感じたこと、教育と研究では研究が重視されるが、教育とバランスよく評価してほしいと思うこと、子育て中の方と繋がるネットワークがあればいいと思うこと、どれだけ説明しても実際に経験した人でないと理解してもらうことが難しいと感じること、ワークライフバランスを考慮した働き方の事例の紹介があればいいと思うこと、ワークライフバランスをとりながら頑張っている女性研究者が本制度や表彰のように、何らかの形で認めてもらえる機会が増えればさらに良いのではないかなど意見を述べました。



その後、女性教員懇話会を代表し、豊島 文子先生（ウイルス研究所）が懇話会について説明し、楯谷 智子先生（白眉センター）が懇話会からの実験研究補助者制度についての意見を述べました。「応募期間が短い」「申請書類を半年ごとに用意するのが大変」「雇用期間6ヶ月では短すぎて人を雇いにくい」「選考基準の明確化」「男性も利用しやすいようにホームページなどイラストや色など配慮してほしい」などの意見がありました。次に、王 柳蘭先生、鈴木 咲衣先生（白眉センター）が女性研究員の生きづらさを集めたボードを紹介し、意見にならない生きづらさの



その後、女性教員懇話会を代表し、豊島 文子先生（ウイルス研究所）が懇話会について説明し、楯谷 智子先生（白眉センター）が懇話会からの実験研究補助者制度についての意見を述べました。「応募期間が短い」「申請書類を半年ごとに用意するのが大変」「雇用期間6ヶ月では短すぎて人を雇いにくい」「選考基準の明確化」「男性も利用しやすいようにホームページなどイラストや色など配慮してほしい」などの意見がありました。次に、王 柳蘭先生、鈴木 咲衣先生（白眉センター）が女性研究員の生きづらさを集めたボードを紹介し、意見にならない生きづらさの



声に寄り添う制度作り、空気作りに活かしてほしいと述べました。

続いて、伊藤 公雄推進本部支援室長の進行で、山極 壽一総長からお話がありました。山極総長は日本社会の問題は、育児と家庭の問題は「その家庭の問題」としてしまふことだと述べ、公的に、地域社会、職場が口を出していかなければいけないのではないかの考えを示しました。総長も研究室で子育て中の女性と一緒に長らく働いていたそうですが、彼女にしかできないことがあるから続けてもらわないと困ると思ったし、彼女も周囲の期待があったから決心した。周囲がそのように持っていけないといけなると述べました。また、育児中には責任のある仕事を任せられないというが、責任ある仕事を責任持ってやるという社会のコンセンサスがあればサポート体制もできていくだろうし、本人も仕事を続けられると思うと述べました。ま



た、伝統的な常識を変えるには生物学的な特性を補いながらいろんなモデルを作って、個別性からある程度の普遍性へと舵を切らないといけなると語りました。そして、制度を変えていくためには個別的な意見をいっぱい集めてこれができる、これはできないとしたほうがうまくいくと思うので、今回のフォーラムは具体的な事例や要望を知る大変いい機会であると述べました。その後、参加者から多くの質問や意見を頂き、回答しました。

最後に、伊藤推進本部支援室長が、男女共同参画推進センターを活用してもらい、個別の事例やいろいろな課題を共有するしくみができればいいと思いますと締めくくり、フォーラムを終了しました。





# 応募者募集

# 京都大学 たちばな賞

## 第八回

この京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）は、優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰することによって、研究意欲を高め、我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成を目的として創設されました。



### 対象

人文・社会科学又は自然科学の分野において優れた研究成果をあげた本学に所属する39歳以下（昭和51年4月2日以降生まれ）の若手の女性研究者

※ただし、出産又は子の養育及び介護のために、研究時間の確保が困難な時期があった場合は、年齢制限を42歳以下（昭和48年4月2日以降生まれ）まで緩和。

※なお、学生においては、受賞年度の年度末時点において、大学院博士後期課程に在学中であること。

### 顕彰

- |                |                           |                |
|----------------|---------------------------|----------------|
| ● <b>たちばな賞</b> | 正賞：賞状<br>(研究者部門・学生部門 各1名) | 副賞：記念品及び賞金10万円 |
| ● <b>奨励賞</b>   | 正賞：賞状<br>(該当者がいた場合のみ)     | 副賞：記念品及び賞金8万円  |



### 応募受付期間

平成27年11月4日（水）～ 12月2日（水）

### 【協賛】

株式会社ワコール

### ●応募要領などの詳細について

京都大学のHPからダウンロードしてください。 <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/female>  
お問い合わせ先：総務部人事課職員掛 電話：075-753-2284

## 第8回京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）応募要領

### 1. 趣旨・目的

京都大学における若手の女性研究者の優れた研究成果を讃えるため、平成20年度に「たちばな賞（京都大学優秀女性研究者賞）」を創設しました。本制度は、人文・社会科学又は自然科学の各分野において、優れた研究成果を挙げた若手の女性研究者を顕彰することにより、当該若手女性研究者自身及びこれに続く多くの若手女性研究者の励みとし、ステップアップに繋がるよう研究意欲を高め、もって本学、さらには我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成等に資することを目的としています。

### 2. 応募条件

昭和51年4月2日以降生まれの本学に所属する女性の大学院生及び女性研究者（研究を職務に含んでいる者。ポストドク及び日本学術振興会特別研究員を含む。）のうち、学術上優れた研究成果を挙げたと認められる者で、以下の条件を満たす者としてします。ただし、出産又は子の養育及び介護のために、研究時間の確保が困難な時期があった場合は、年齢制限を昭和48年4月2日以降生まれまで緩和することができるものとします。なお、過去に学生部門でたちばな賞を授与された者も、研究者部門に応募することができます。

#### 【学生部門】

受賞年度の年度末時点において、大学院博士後期課程に在学中であること（医学研究科医学専攻及び薬学研究科薬学専攻にあっては博士課程、アジア・アフリカ地域研究研究科及び総合生存学館の博士課程にあっては後期に相当する課程を含む。休学中の者は除く。）

#### 【研究者部門】

博士の学位を取得（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含む）していること。

### 3. 顕彰

受賞者は、各部門1名ずつとし、表彰状と副賞（記念品及び賞金10万円）を授与します。また、該当者がある場合は、奨励賞として各部門原則1名ずつに表彰状と副賞（記念品及び賞金8万円）を授与します。（ただし、該当者がいない場合は、奨励賞の授与はありません。）

### 4. 提出書類

- ①応募調書（様式1／PDF）
- ②これまでの研究の概要（様式2／PDF）
- ③推薦状（様式3／PDF）
- ④業績目録（A4／形式自由／PDF）
- ⑤その他特記すべき事項（特許・書評・新聞記事などの参考資料（形式自由）／PDF）

⑥応募対象となった書籍、論文の別刷（主なものを学生は3編以内、研究者は5編以内／PDF）

上記③の推薦状については、応募者の研究をよく理解している、本学に所属する常勤の研究者が作成してください。③以外の書類については、応募者本人が作成してください。

### 5. 提出方法

- (1) 提出書類は、応募者が直接、下記連絡先にメールに添付して提出してください。
- (2) 提出書類①～⑥については、PDFにして提出してください。なお、⑥については、表紙、目次及び該当部分を抜粋したPDFを提出してください。PDF fileが大容量になる場合には、大容量文書にて提出もしくはCDに焼くかUSBメモリーに入れて学内便にて提出することも可とします。

### 6. 応募受付期間

平成27年11月4日（水）～平成27年12月2日（水）

### 7. 選考及び選考結果の通知

学内に設置された選考委員会において、書面審査による第一次選考を行います。第一次選考通過者にはヒアリング審査による第二次選考を行い、受賞者を決定します。

なお、ヒアリング審査は平成28年1月29日（金）に実施予定ですので、スケジュールの確保をお願いします。

また、第一次選考通過者には、平成27年12月末日までに第一次選考のご連絡及び第二次選考ヒアリング審査用の資料の提出を依頼いたしますので、よろしくお願ひいたします。

受賞決定の通知は、平成28年2月上旬頃に行い、学内外へ公表します。

### 8. 表彰式

平成28年3月3日（木）に行います。また、表彰式後に受賞対象となった研究成果の発表をしていただきます。日程等詳細については、別途、受賞者に通知します。

### 9. その他

- (1) 選考結果に対する問い合わせには応じかねます。
- (2) 受賞者の氏名、略歴及び受賞の対象となった研究業績等は公表されますので、予めご承知願ひします。
- (3) 提出書類に含まれる個人情報、厳重に管理し、本表彰の事業遂行のためのみに利用します。



第八回

京都大学

「たちばな賞」表彰式

〈受賞者による研究発表〉

たちばな賞  
優秀女性研究者賞 受賞者

学生部門

田辺 弘子

(人間・環境学研究科 博士課程3年)

「ヒトの立位制御メカニズムの包括的解明：  
人間の文化的身体運動と自然・社会環境の関連性」

研究者部門

井上 恵美子

(経済学研究科 講師)

「気候変動の影響下における企業行動」

日時.. 2016年3月3日(木) 午前10時~11時  
場所.. 京都大学楽友会館 2階会議・講演室

優秀女性研究者奨励賞 受賞者

学生部門

信川 久実子 (理学研究科)

プログラム

- 10:00~10:05 開会の挨拶 稲葉 カヨ (京都大学理事)
- 10:05~10:15 表彰式・ワコール賞贈呈
- 10:15~10:25 総長挨拶
- 10:25~10:35 来賓祝辞 安原 弘展 (株式会社ワコール代表取締役社長)
- 10:35~10:45 研究発表1 【学生部門】 田辺 弘子
- 10:45~10:55 研究発表2 【研究者部門】 井上 恵美子
- 10:55~11:00 閉会の挨拶 川添 信介 (京都大学理事)

表彰式は、山極総長より、表彰状と記念楯が授与されます。  
副賞として、(株)ワコール 安原代表取締役社長より、ワコール賞が授与されます。  
表彰式のあと、たちばな賞受賞者による研究発表を行います。

お問い合わせ先：総務部人事課職員掛 電話 075-753-2284

URL:<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/female>



## 2015 年度 京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式

### 京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞) 受賞者略歴



【学生部門】  
田辺 弘子

現 職: 人間・環境学研究科博士課程3年、日本学術振興会特別研究員(DC1)

専門分野: 運動制御・バイオメカニクス・生体工学・神経生理学

研究テーマ: ヒトの立位制御メカニズムの構成論的解明

(略 歴)

2011 年 3 月 京都大学総合人間学部 卒業

2013 年 3 月 京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程 修了

2013 年 4 月 日本学術振興会特別研究員 DC1

2016 年 3 月 京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程 修了見込

(受賞歴)

2012 年 京都体育学会第 141 回大会 若手研究奨励賞

2013 年 日本体育学会第 64 回大会 若手研究優秀賞

2014 年 第 19 回ヨーロッパスポーツ科学学会 YIA ファイナリスト(口頭)

2014 年 日本バイオメカニクス学会第 23 回大会 学会奨励賞

2015 年 第 20 回ヨーロッパスポーツ科学学会 YIA ファイナリスト(口頭)

2016 年 第 2 回運動科学国際スクール トラベルグラント

(研究概要)

ヒトはどのようにして二足立位姿勢を保持しているのか、神経-筋-骨格レベルでの制御メカニズムを解明することに取り組んできた。特に、不安定な立位課題を達成するためには間欠制御と呼ばれる戦略を中枢で行うことが必要であることをシミュレーションにより明らかにした。従来、ヒトの二足立位は連続制御を前提に議論されてきたが、間欠制御が二足立位の安定性・ロバスト性の観点から重要な制御則であることを世界で初めて示し、自然科学の学問領域に強烈なインパクトをもたらした。さらに近年では、この間欠制御メカニズムを実際の立位中の筋活動から定量し、これまで明示されていなかった立位中の非周期・非正常という複雑な身体動揺と筋活動の直接的関係性を実験的に視覚化することに成功した。これら数理的手法を用いたシミュレーション研究および生理学実験研究は、地球帰還直後の宇宙飛行士の立位制御およびその回復過程に関する研究としてアメリカ航空宇宙局(NASA)で実施されるなど、リハビリテーションの現場に対して立位安定性を評価するための基礎的知見を与えたという点でも大きく貢献した。この間欠制御則は「環境との相互作用をうまく使うことで身体を安定化する」ストラテジーであり、環境を友とすることが身体の安定化にも必要であることを示す研究成果である。現在はこうした環境の要素を身体制御モデルの中に想定し、歩行・走行時の身体の安定化メカニズム(自然環境と身体の相互作用)や芸術動作の制御メカニズム・学習プロセス(社会環境と身体の相互作用)の解明に取り組んでいる。



現 職： 経済学研究科 講師

専門分野： 環境経済学、環境政策

研究テーマ： 気候変動下における企業行動とイノベーション

(略 歴)

慶應義塾大学経済学部を卒業後、株式会社日立製作所に入社し、中華人民共和国向け高速鉄道プロジェクト等に関わる。その後、英国オックスフォード大学大学院へ留学(修士号)。2010年4月、京都大学大学院経済学研究科博士後期課程に進学し、2013年3月博士号(経済学)取得。日本学術振興会特別研究員(2011年4月～2013年3月)。2013年4月より、現職。

## 【研究者部門】

井上 恵美子

(受賞歴)

2015年度 環境経済・政策学会 奨励賞

(研究概要)

「経済発展」と「環境保全」の両立による「持続可能な発展」の実現のためにはどうしたらよいか、という大テーマを根幹に置き、研究を行ってきた。特に、近年では、気候変動下において重要な役割を担っている大企業が自主的に環境対応を実施していることに注目し、気候変動問題を解決するために有益な方策の一つであるイノベーションにどのような影響を与えているのか、分析を進めてきた。日本企業、欧州企業をそれぞれ対象にした複数の分析結果より、自主的に環境対応(例:環境マネジメントシステムを社内に定着させて更新し続ける、情報開示を進める、将来の環境政策に積極的に対応するために社内で先んじて戦略を検討する等)を実施する企業ほど、イノベーション活動に積極的であることを明らかにした。

また、そもそも企業がそのような自主的な環境対応を実施するインセンティブは何か、実証的アプローチだけでなく、理論や経済実験アプローチからも分析を進めており、将来の環境規制の脅威が自主的な環境対応のインセンティブを強める上で有益な役割を果たしている可能性があることを明らかにしつつある。

さらに、「持続可能な発展」の実現のために重要となる再生可能エネルギーに注目し、そのイノベーションを促進するための要因について分析を進めている。企業側からの促進要因を明らかにすることで、再生可能エネルギー関連イノベーションを促進するための政策的インプリケーションを導くことを目指している。

## 優秀女性研究者奨励賞 受賞者略歴



現 職: 理学研究科 博士後期課程 3 年

専門分野: 宇宙物理学

研究テーマ: 銀河面 X 線放射の観測的研究: 宇宙線の寄与の発見

(略 歴)

2011 年 3 月 京都大学理学部 卒業

2013 年 3 月 京都大学大学院理学研究科修士課程 修了

2013 年 4 月 日本学術振興会特別研究員 DC1

2016 年 3 月 京都大学大学院理学研究科博士後期課程 修了見込

(受賞歴)

第 2 回京都大学理学研究科竹腰賞

(研究概要)

可視光で見える「天の川」は、天の川銀河の円盤に沿った暗い星の集まりである。「天の川」は、実は X 線でも輝いている。「銀河面 X 線放射」と呼ばれるこの放射は、天の川銀河に何らかの高エネルギー現象が満ちている証拠である。しかしその正体は、50 年前に X 線天文学が始まって以来の謎であった。私は、日本の X 線天文衛星「すざく」を用いて観測し、高エネルギー荷電粒子(宇宙線)が冷たい分子雲に衝突して X 線が生じていることを突き止めた。この結果は、銀河面 X 線放射に真に広がった成分が存在することを示す初めての観測的証拠であるだけでなく、X 線観測を用いて宇宙線が測定できることを初めて実証した。本研究で測定した宇宙線の量は、従来考えられていたより数十倍多く、星間空間の既存の常識を覆す可能性がある。日本は 2016 年 2 月、新しい X 線天文衛星「ひとみ」を打ち上げた。「ひとみ」は「すざく」の 4 倍の広視野をもつ X 線 CCD を搭載している。私はその開発も行ってきた。これを用いて天の川銀河をより広く観測し、宇宙線の生成機構の全貌を解明したい。

【学生部門】

信川 久実子

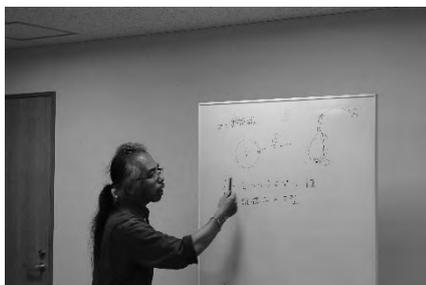
## 講義・ゼミ

### ■ポケット・ゼミ「ジェンダーと科学」

ポケット・ゼミ「ジェンダーと科学」では、1回生を対象に少人数での講義、討論などを通してジェンダーについての基礎知識や考え方を身につけました。講師4名で全13回の講義を行いました。

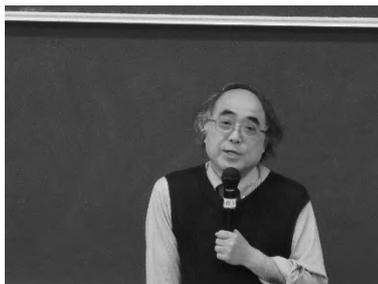
| 回  | 講義日   | 氏名(所属)                   | テーマ                      |
|----|-------|--------------------------|--------------------------|
| 1  | 4月21日 | 伊藤 公雄(文学研究科)             | オリエンテーションーポケゼミの目的と内容について |
| 2  | 4月28日 | 〃                        | ジェンダーと科学                 |
| 3  | 5月12日 | 山内 淳(生態学研究センター)          | 性の進化について(1)              |
| 4  | 5月19日 | 〃                        | 〃(2)                     |
| 5  | 5月26日 | 〃                        | 〃(3)                     |
| 6  | 6月2日  | 伊藤 公雄(文学研究科)             | 討論とワーク・ショップ              |
| 7  | 6月9日  | 林晶子(医学研究科・集学的がん診療学・寄附講座) | 医学とジェンダー(1)              |
| 8  | 6月16日 | 〃                        | 〃(2)                     |
| 9  | 6月23日 | 〃                        | 〃(3)                     |
| 10 | 6月30日 | 速水 洋子(東南アジア研究所)          | ジェンダーと文化人類学(1)           |
| 11 | 7月7日  | 〃                        | 〃(2)                     |
| 12 | 7月14日 | 〃                        | 〃(3)                     |
| 13 | 7月21日 | 伊藤 公雄(文学研究科)             | まとめ                      |

火曜日5限(16時30分～18時)、男女共同参画推進センター会議室にて



### ■全学共通科目「ジェンダー論」

伊藤 公雄先生の全学共通科目「ジェンダー論」では、ジェンダーについて主に人文社会科学の視点から考察することを通し、ジェンダーに敏感な視点を養いました。



京都大学の受験を目指す女子高校生の皆さん！  
受験の前に京大の教育・研究を知り、  
研究者や大学院生・学部学生と話をしませんか？



# 京都大学を知ろう 研究者と語ろう

女子高生・車座フォーラム 2015

日 程  
**2015年12月26日(土)**

時 間  
**10:00～17:00**

会 場  
**京都大学医学部第一臨床講堂、他**

募集定員  
**女子高校生80名程度(先着順)・保護者40名程度**

申し込み方法

男女共同参画推進センターホームページ  
(<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>)をご覧ください、  
期間内にお申し込みください。

申し込み期間：2015年9月25日(金)～11月25日(水)

参加費  
無料

申し込み・お問い合わせはこちら

T606-8303 京都市左京区古田福町 京都大学男女共同参画推進センター  
(mail)w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp  
(TEL)075-753-2437

主 催 京都大学男女共同参画推進センター

共 催 京都大学教育推進・学生支援部入試企画課

## プログラム

|             |   |                  |
|-------------|---|------------------|
| 10:00-10:30 | 京都大学医学部第一臨床講堂 受付                                      |                  |
| 10:30-10:35 | 開会の挨拶   | 理事・副学長 稲葉カヨ      |
| 10:35-10:55 | 京都大学の紹介   | 理事・副学長 川添信介      |
| 10:55-11:10 | 入試に関する説明  | 教育推進・学生支援部 入試企画課 |
| 11:10-11:30 | 女性研究者の講演「太陽研究の最前線」                                    | 宇宙総合学研究ユニット 浅井歩  |
| 11:30-13:00 | 昼休憩   |                  |
| 13:00-13:30 | 講師紹介・グループワークの説明                                       | エネルギー科学研究科 山末英嗣  |
| 13:30-13:50 | 移動(休憩)  |                  |
| 13:50-15:00 | グループワーク「車座になって話そう」<br>高校生:講師・京大生とのグループワーク、保護者:京大生との交流 |                  |
| 15:00-15:20 | 移動(休憩)  |                  |
| 15:20-15:50 | まとめ   | 文学研究科 伊藤公雄       |
| 15:50-16:00 | 休憩  |                  |
| 16:00-17:00 | 入試に関する質疑応答  | 教育推進・学生支援部 入試企画課 |

## 講師・グループ・会場

| G | 氏名     | 所属           | 研究分野                      | 会場             |
|---|--------|--------------|---------------------------|----------------|
| 1 | 伊藤 公雄  | 文学研究科        | 文化社会学、メディア研究、ジェンダー論       | G棟2F セミナー室 CD  |
|   | 竹内 里欧  | 教育学研究科       | 教育社会学、文化社会学、歴史社会学         |                |
| 2 | 木村 敦子  | 法学研究科        | 民法（とくに家族法）                | 芝蘭別館1F 和室      |
|   | 木元 小百合 | 経営管理研究部      | 地盤力学                      |                |
| 3 | 常見 俊直  | 理学研究科        | 理学と社会交流、科学コミュニケーション、社会連携  | G棟2F セミナー室 B   |
|   | 浅井 歩   | 宇宙総合学研究ユニット  | 太陽面爆発現象（フレア）の観測的研究、宇宙天気研究 |                |
| 4 | 船曳 康子  | 人間・環境学研究科    | こころの発達                    | G棟2F セミナー室 A   |
|   | 飯間 麻美  | 白眉センター・医学研究科 | 放射線診断学                    |                |
| 5 | 任 和子   | 医学研究科        | 生活習慣病看護学                  | G棟2F セミナー室 A   |
| 6 | 矢野 育子  | 薬学研究科        | 臨床薬学教育                    | 先端棟1F 小セミナー室   |
| 7 | 杉野 未奈  | 工学研究科        | 耐震構造工学                    | 芝蘭別館2F<br>研修室1 |
|   | 山末 英嗣  | エネルギー科学研究科   | 材料科学及び産業エコロジー             |                |
| 8 | 中谷 加奈  | 農学研究科        | 砂防学                       | 芝蘭別館2F<br>研修室2 |
|   | 赤松 美紀  | 農学研究科        | 農薬化学（農薬などの人や環境に対する影響）     |                |
| 9 | 幡野 恭子  | 人間・環境学研究科    | 植物細胞生物学、藻類学               | 芝蘭別館地下会議室      |

## 学生スタッフ

| G | 氏名     | 所属   | G | 氏名    | 所属  | G | 氏名    | 所属         |
|---|--------|------|---|-------|-----|---|-------|------------|
| 1 | 鈴木 慎介  | 文学部  | 4 | 西尾 周朗 | 医学部 | 7 | 林 洋平  | 工学部        |
|   | 田村 明日香 | 教育学部 |   | 向平 妃沙 | 医学部 |   | 村田 政弥 | 工学部        |
| 2 | 改森 実奈  | 法学部  | 5 | 藤川 詩織 | 医学部 | 8 | 香月 和敬 | 農学研究科      |
|   | 副島 大知  | 経済学部 |   | 勝島 倫子 | 医学部 |   | 林川 晴大 | 農学部        |
| 3 | 磯田 珠奈子 | 理学部  | 6 | 加藤 夏己 | 薬学部 | 9 | 小川 岳史 | 総合人間学部（理系） |
|   | 安井 円香  | 理学部  |   |       |     |   | 伊藤 香奈 | 総合人間学部（文系） |

## 京都大学を知ろう 研究者と語ろう

12月26日(土)、京都大学にて「女子高生・車座フォーラム2015」を開催しました。このフォーラムは、男女共同参画推進センターが中心となり、女子高校生に京都大学の研究者や科学者の仕事を知ってもらおうという企画で、今回で10回目の



開催となります。

山末英嗣 男女共同参画推進センター広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ 主査の司会進行のもと、稲葉カヨ 理事・副学長より開会の挨拶がありました。京都大学

が女性の活躍を推進するために取り組んでいる男女共同参画アクションプランや WINDOW 構想についての説明があり、また、試験勉強に励む高校生に対し、挑戦した結果の後悔は挑戦しない後悔よりもはるかに小さい、何事にも自信を持って対応してほしいと激励しました。最後に、この車座フォーラムが皆にとって有意義なものになることを願い、開会の挨拶を締めくくりました。



次に、川添信介 理事・副学長より、京都大学の概要についての説明がありました。京都大学の学風として「対話を根幹とした自学自習」、「自由の学風」を挙げ、京都大学は創立以来、人とのつながりの中で学ぶが、あくまでも一人で学ぶということを大事にしていると説明がありました。また、今回のフォーラムで、自分の本当にやりたいことが志望している学部でできるかどうか確かめてほしいと述べました。最後に、山極総長が京都大学をおもしろい大学と言われていることに因み、おもしろいことを探しに是非とも我々の仲間になっていただければ有難いと締めくくりました。



続いて、教育推進・学生支援部 入試企画課より、平成 28



年度学生募集要項、平成 28 年度から実施する特色入試選抜の概要など、入試に関する説明がありました。

その後、宇宙総合学研究ユニットの浅井歩 特定准教授が「太陽研究の最前線」と題し、講演を行いました。

浅井先生は京都に生まれ育ち、中学高校は剣道に打ち込んでいましたが、理科が好きで漠然と宇宙に興味があったことから、宇宙について学びたいと京都大学理



学部へ入学しました。入学後、太陽物理学を知り太陽研究を始め、京都大学大学院に進学、博士課程終了後、国立天文台の観測所などを経て2010年に京都大学に着任しました。

京都大学は太陽を観測するのに適した望遠鏡を持っており、天文台が2つあります。京都市山科区にある花山天文台では、先生自身も観測した太陽のデータを解析し論文にしたことがあるそうです。もうひとつは、岐阜県高山市にある飛騨天文台で、最近はその環境などから観測の拠点をこちらに移しており、太陽専門の望遠鏡で最先端の研究を行っているとのこと。このような設備のある京都大学は、世界的に見ても太陽研究をするのに大変恵まれているとのこと。

先生は宇宙総合学研究ユニットに在籍していますが、このユニットは天文学に強い理学、宇宙工学に強い工学、宇宙倫理学や人類学などの人文社会学系まで、幅広い分野が連携する学際的な研究ユニットだということです。

先生は京都大学へ入学するまで、太陽については400年もの研究の歴史があり、すでに何もかも調べつくされているもの



だと思っていたそうです。ところが、京都大学に入り太陽についてはまだわからないことがたくさんあるのだと知り、また、太陽の黒点の映像を見たときになんと複雑なのか、とそのダイナミックさに魅せられ、もっと太陽について知りたいという思いが太陽研究を始めるひとつのきっかけとなったそうです。先生は「このフレアは私の大好きなフレアです。」ととても楽しそうに太陽について説明をしながら、観測衛星が撮影した黒点の動画や太陽フレアの様子を紹介し、参加した高校生と保護者は大変興味深い様子で聞き入っていました。

京都大学の理学部は入ってから細かく自分の分野を選ぶそうですが、先生は入学後、太陽研究に興味を持ち、宇宙物理学教室で太陽をやりたいと思ったそうで、入学してから自分の分野を決めるというのが、先生にとってはよかったとのこと。宇宙物理学教室は大変人気の狭き門だということで、先生も、もし入れなかった場合のことを考えて他の分野の勉強もされていたそうです。結果、宇宙物理学教室に入ることができ、今日まで楽しく太陽研究を進めることができたとのこと。

先生が研究者として今思うことは、太陽の爆発現象は物理的にそのメカニズムだけが面白いのではないということです。研究を進めるうちに、実は、我々の文明生活にも影響を及ぼしている可能性があるということがわかり、太陽の研究を突き詰めることが私たちの生活に繋がっている、ということが今大変やりがいになっているそうです。また、先生が恵まれていると思うことは、総合大学である京都大学ならではの広い分野を研究できるということだそうです。太陽研究が宇宙天気という広い分野の中で社会に繋がり、新しい研究を通じて他分野の方たちと繋がり、共同研究ができていることに恵まれていると感じるとのことです。

昼休憩後、講師の紹介、グループワークの説明があり、その後、高校生は希望学部別にグループ会場へ移動し、グル

ープワークを行いました。グループワークでは、講師と学生スタッフが研究者の仕事や研究分野、学部選択や学生生活、就職などについて高校生の質問をもとに自身の経験を交えて話し、和気あいあいとした雰囲気の中、行われました。その間、保護者は稲葉理事の挨拶の後、京大生との交流会に参加しました。



グループワーク終了後は再び全員で集まり、まとめの会を行いました。伊藤公雄 男女共同参画推進本部支援室長の司会で、グループワークで聞くことができなかった学部を超えた質問などに講師が答えました。「総合人間学部はどんなことをするのですか」「教育学部、総合人間学部、文学部の心理学は何が違うのですか。」「具体的な就職先はどこですか。」「専攻はいつ頃決めますか。」「NASA や JAXA で働くには理学部の物理学でしか学ばませんか。」などたくさんの質問があり、それぞれの分野の講師が回答しました。また、質問の多かった女性研究者としての立場や留学についても、それぞれの講師の経験や意見を語ってもらいました。最後に、女性研究者支援のために男女共同参画推進センターで行っている取り組みを紹介し、今後も支援する体制を充実させ、皆さんの入学を待っていますと締めくくりました。



その後、入試企画課より入試に関する質疑応答を行い、プログラムを終了しました。

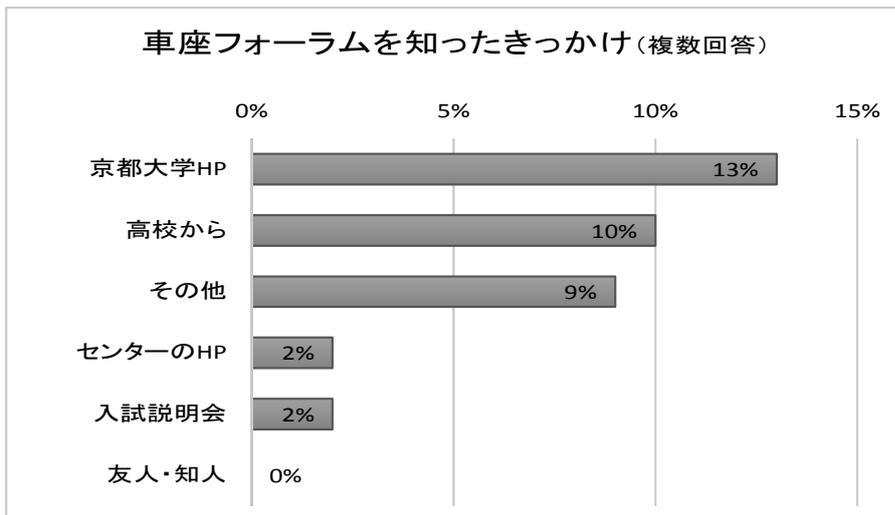


## グループワークの様子

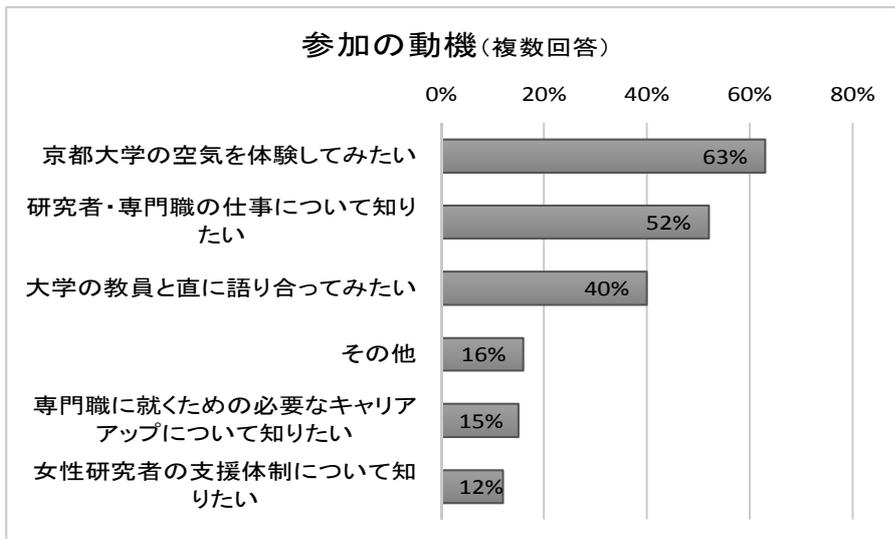


■参加者アンケートより

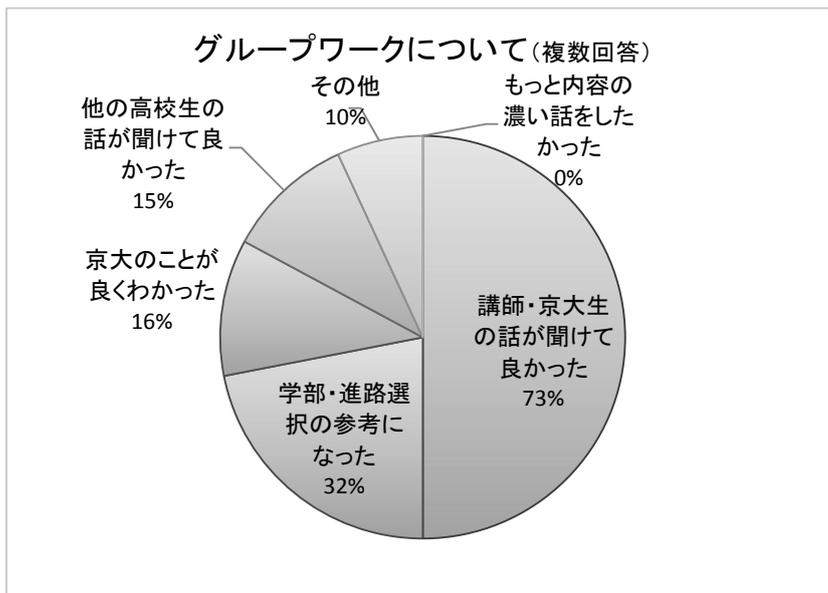
参加した高校生が「車座フォーラム」を知ったきっかけは、42%が「ポスター」、26%が「学校の先生」、15%が「京都大学のHP」と回答しています。



参加の動機では、「京大の空気を体験してみたい」が、63%、「研究者・専門職の仕事について知りたい」が、52%と多い。続いて「大学の教員と直に語り合ってみたい」(40%)となっています。



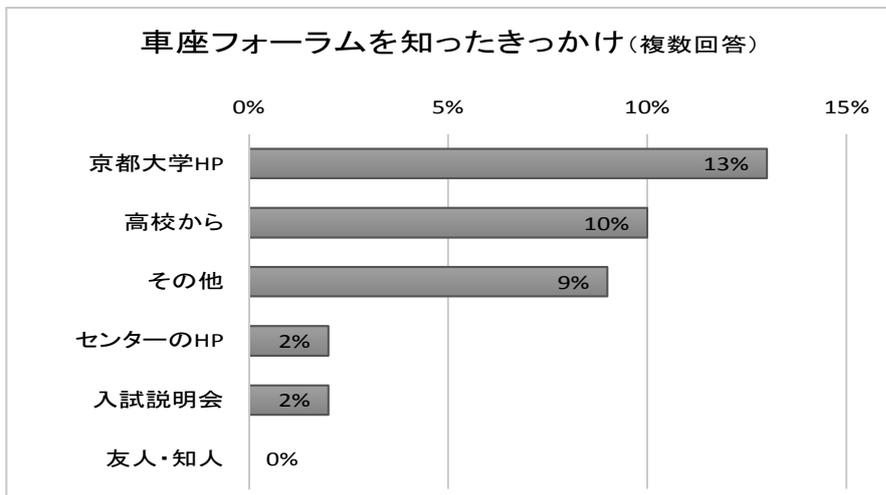
グループワークについては、「講師・京大生の話が聞けて良かった」(73%)という感想が最も多く、続いて、「学部・進路選択の参考になった」(32%)、「京大のことが良くわかった」(16%)、「他の高校生の話が聞けて良かった」(15%)となっています。



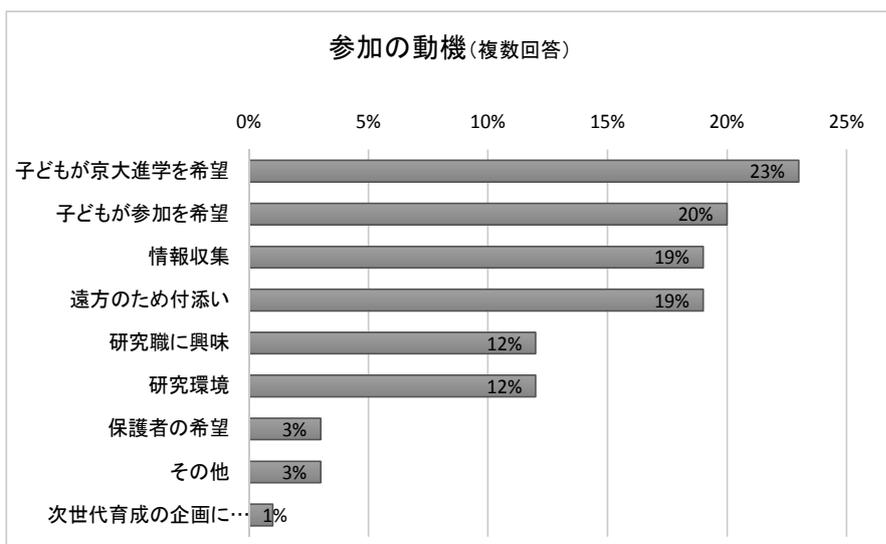
フォーラム全体に関しては、充実した時間を過ごせた、全体のまとめの際に他の学部や女性研究者について知ることができた、研究職につきたいという想いが一層強くなりましたという感想が寄せられました。また、グループワークの時間を増やしてほしい、集まった生徒同士でも話す機会があればという意見もありました。

## ■保護者アンケート

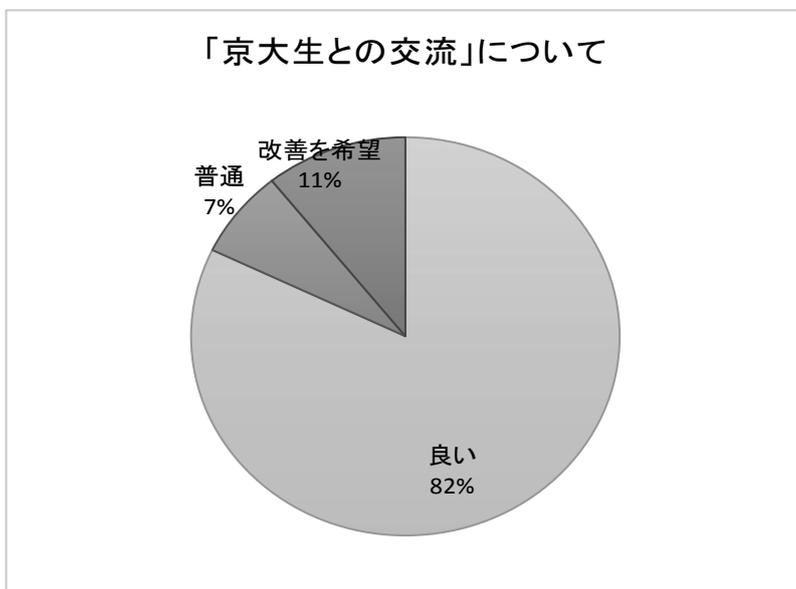
保護者が「車座フォーラム」を知ったきっかけは、「京都大学ホームページ」(13%)、「高校から」(10%)、「その他」(9%)となっています。



参加の動機では、「子どもが京大進学を希望」(23%)、「子どもが参加を希望」(20%)、「情報収集」(19%)となっており、「遠方のため付添い」(19%)という回答も多く寄せられました。



保護者向け企画「京大生と保護者の交流会」については、82%が「良い」と回答しましたが、「改善を希望」(11%)もありました。改善希望点としては、交流時間が短い、いくつか話す内容をあらかじめ数点決めて皆に話してもらおうと学部間の比較も出来るなどの意見が寄せられました。



フォーラム全体に関する感想では、京都大学の魅力が分かった、先生方のお話に感動した、勉強法や進路選択の参考になった、学生から生の声がきけたことが良かったという感想が多く寄せられました。また、一般的によくある説明会とは違い、車座の名のとおり、時間をかけて先生方とお話させていただける機会は貴重であるという意見もありました。

## 第10回女子中高生のための関西科学塾

# 第10回

# 女子中高生のための 関西科学塾

独立行政法人科学技術振興機構  
女子中高生の理系進路選択支援プログラム

<http://kagaku-juku.jp/>



理系大好き女子はもちろん、文・理の進路で迷っている人も大歓迎！好きなプログラムを選んで申し込みを。

分子生命科学の准教授、  
企業の研究者、  
素粒子物理学の大学院生  
など

**A** 2015年 **7月26日** (日)  
12:00-17:00

開校式。大学や企業の研究者、  
科学塾OGの大学院生などによる講演会、  
大学院生や大学生との交流会など。  
in 神戸大学  
身近なロールモデルと気軽に話そう！

**B** 2015年 **8月3日** (月)  
13:30-17:15

練習船「深江丸」で体験クルージング。  
船を使った実験の解説、  
海事科学部の女子大生との交流など。  
in 神戸大学  
大海原に飛び出そう！

**C** 2015年 **10月18日** (日)  
午後

実験（実験テーマは裏面参照）  
in 大阪大学（高校生）、奈良女子大学（中学生）  
大学での実験を体験！

**D** 2015年 **11月15日** (日)  
午後

実験（実験テーマは裏面参照）  
in 京都大学（高校生）、大阪府立大学（中学生）  
大学での実験を体験！

**E** 2016年 **1月10日** (日)  
午後

コンピュータシミュレーションによる  
3次元可視化システム見学会、研究者との交流など。  
in 神戸大学 計算科学教育センター（ポートアイランド）  
計算科学技術の世界って！

**F** 2016年 **3月20日** (日) **21日** (月祝)

実験から、結果の整理、考察、発表準備、発表まで。  
1泊2日の充実の2日間。閉校式もあります。  
in 神戸大学、神戸しあわせの村  
実験の背景にある原理現象を理解！

こんなに本格的な実験は初めて（高2）。**やっぱり理系はかっこいい！（中1）**。  
細胞がきれいだと感動した（高2）。学校では絶対にできない実験ばかり（高2）。不思議に思  
うことにたくさん出会えた（高1）。最先端の理科を学ぶことができて幸せ（高2）。見たこ  
とも**使ったこともない実験装置がいっぱいで興奮した（高2）**。議論・発  
表準備・発表とこれほど本格的なことは初めて（高2）。先輩方の話はとても  
刺激的で将来あんなふうになりたいと思った（高1）。理系には色々な種類  
があると知ってびっくり（中1）。大学の様子などがよくわかった（中2）。  
**自分の将来へのヒントが見つかった（中3）**。  
具体的なおもしろい話が聞けてよかった（中2）。同じく  
らの年の人がどのように考えているかが色々わかった  
ので役に立った（中3）。（過去のアンケートより）



### 参加申し込みと問い合わせ

ホームページ、メール、郵送にて受け付けます。

E-mail: [kagakujuku2015@org.kobe-u.ac.jp](mailto:kagakujuku2015@org.kobe-u.ac.jp)

URL: <http://kagaku-juku.jp/>

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

国立大学法人 神戸大学 男女共同参画推進室内  
第10回女子中高生のための関西科学塾事務局

### 申込締切 2015年6月22日(月) 必着

定員：120名

保護者・引率教員：参加可能。Bでは別メニュー（懇親会も予定）

参加費：A～Eは無料

Fのみ5000円（宿泊・食費など）

●参加者確定後、日程や場所の詳細をご連絡します。

主催：神戸大学

共催：大阪大学男女共同参画推進オフィス、奈良女子大学男女共同参画推進機構、奈良  
女子大学理系女性教育開発共同機構、京都大学男女共同参画推進センター、京都  
大学大学院理学研究科、大阪府立大学、一般社団法人日本物理学会

協力：男女共同参画協会連絡会、日本分子生物学会、日本遺伝学会、日本鉄鋼協会、日本金属学会  
後援：兵庫県教育委員会など申請中

\* 本事業は独立行政法人科学技術振興機構 女子中高生の理系進路選択支援プログラムの受託事業です

## 女子中高生のための関西科学塾 JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラム

女子中高生のための関西科学塾は、科学技術振興機構(JST)の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の一環として、関西の大学が提携し、女子中高生を対象に講演会や実験などを行う企画です。第10回目となる今回は、神戸大学が中心となり、神戸大学、大阪大学、大阪府立大学、奈良女子大学、京都大学などで開催されました。

京都大学では、11月15日(日)に高校生79名、同伴者9名の参加のもと、様々な実験講座が開催されました。



### ■京都大学での実験一覧

|   | テーマ                                     | 部局            | 講師        |
|---|---|---------------|-----------|
| 1 | 目にみえない放射線を測る                            | 理学研究科         | 川畑貴裕      |
| 2 | DNA・タンパク質1分子を実際に見てみよう!                  | 物質-細胞統合システム拠点 | 原田慶恵      |
| 3 | DNAとはなにか-DNAに関する基礎実験                    | 理学研究科         | 朴昭映       |
| 4 | カオス・フラクタルの世界を知る                         | 情報学研究科        | 宮崎修次      |
| 5 | にじいろを見よう                                | 理学研究科         | 馬場正昭      |
| 6 | 地下を“掘らず”に探ってみよう!                        | 工学研究科         | 後藤忠徳      |
| 7 | 高温超伝導の不思議                               | 理学研究科         | 吉村一良      |
| 8 | 畑の土を調べる                                 | 農学研究科         | 間藤徹・落合久美子 |
| 9 | あれっ!こんなところにも核が?!!<br>~DNAに起こった異常を観察しよう~ | 理学研究科         | 秋山(張)秋梅   |

## 出前講義

4月25日(土)京都女子高等学校の「大学進路講演会」にて、学際融合教育研究推進センター 浅井 歩 特定准教授が「母なる星『太陽』と宇宙の天気」と題し、出前講義を行いました。

天文台で撮影した太陽の表面の写真や動画、解析結果などを使用し、太陽フレアの与える影響や宇宙天気予報について講義を行い、講義後は学生や保護者の方からたくさんの質問が寄せられました。



2月12日(金)滋賀医科大学にて男女共同参画推進のための講演会が開催され、理事・副学長 男女共同参画推進センター長・生命科学研究科教授の稲葉カヨ先生が「男女共同参画の現状と課題～女性研究者支援を通じて～」をテーマに講演を行いました。



3月11日(金)京都府立洛北高等学校での特別講義を行いました。講師は、理事・副学長 男女共同参画推進センター長・生命科学研究科教授の稲葉カヨ先生で、テーマは「”免疫”味方？ それとも 敵？」です。

# 冊子「未来に繋がる青いリボンのエトセトラ」

冊子「未来に繋がる青いリボンのエトセトラ」では、京都大学を目指す学生に向けて、さまざまな学問分野で活躍する本大学の女性研究者を紹介しています。

## Vol.1

奈良女子大学理学部卒業。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。京都大学理学部助教授（女性初）、同大学院理学研究科助教授を経て同生命科学研究所教授に就任、生命科学研究所長（女性初）を務めた。米ロッキーフエラー大学連携教授を併任。免疫システムにおける樹状細胞の主要な役割の解明に貢献し、2014年「ロレアル・ユネスコ女性科学賞」を受賞。



副学長  
男女共同参画推進センター長  
生命科学研究所 教授  
稲葉 カヨ

## Girls, be Ambitious!

研究の魅力は、自分で仮説を立て、実験や観察、調査をして、正しいかどうか自分で確かめられるところにあります。好きなことや興味があることでなければ続きませんが、それを継続させる力も必要です。そのためには、好きなことを見つけて、いろんなことにチャレンジし、自分の力を蓄えていくことが大事です。チャレンジしないで「やってあげよかった」と後悔するよりも、やってみてダメだった後悔の方がまし。チャレンジして失敗しても、それは経験になるので、また挑戦すればいいのです。失敗してもめげない、落ち込まないことも大切。それができる人はチャレンジを続けることができます。

研究者になろうと思うても、高校生や学部生のうちはまだ漠然としたイメージしか湧かないでしょう。大学で学び、研究を進めていくなかで、向き合いたい研究対象が変わってくることもあるし、その人の能力や、向き不向きもあります。また、研究はいろんな人の進み合わせのなかで行われていきます。研究テーマを探す際も、その研究テーマのなかで、どういう人たちと、どう繋がるかが大きくかわってきます。

自分が置かれた場でできると、その先に見えることに対して、精一杯、取り組んでください。

延興佳子 p.3 何にでも興味を持って、おもしろいと感じたら、その気持ちを大切にしてください。いろんなことに関心を持ちながら、いい出会いがあったときに発揮できるよう、今、力をつけておいてほしい。

鳥田裕子 p.4 大切なのは、楽しく勉強すること。あまり難しいことを考えずに、「勉強したいから研究者」という道もあります。

永友文子 p.5 「好きこそものの上手なれ」ですね。好きだったら苦事なことも困難も乗り越えていけると思うので、好きという気持ちを大切にしてください。

吉永直子 p.6

未来の研究者たちへ…京都大学の女性研究者から一言  
Message for you!

金光桂子 p.7 生きて感性が豊かにならねば、ジャンルにとらわれず、たくさん本を読んだり、いろんな体験をしてほしい。文学というのは、人間のいろんな行いや考えを書いたもので、それなりの体験を積んでいないと理解できないこともあります。

小林志保 p.11 自然現象や身近なできごとについて不思議に感じるとき、「何でかな？」と考えることが好きであれば、苦手な科目があっても気はせずに、挑戦してみてください。必要な知識や手法は後からでも勉強できるので、そんなに困ることはありません。

北村恭子 p.13 工学部は女子学生が少なそう…とためらっていませんか？ 京都大学は、常にまわりを羨望の人たちがいて、絶対満足できる環境だと思います。研究してみたいと思ったらぜひ、どんな分野でも挑戦してほしい。

山田真澄 p.12 やりたいことをやればいい、やりたければ努力する、モチベーションも上がります。人があふれる、こうすると言うのではなく、自分がやりたいことをやる方が良いと思います。

飯間麻美 p.14 今は興味の湧かない科目でも、避けて勉強してほしい。そうすることで、進路や研究対象の選択肢が増えます。興味ある分野に「こうなりたい」というロールモデルがなくても、自分自身で道切り開いていけるように。

## Vol.2

### 好きなものを土台にして 技術や考えを繋ぐことが大切

現在の学術研究は、さまざまな分野で個々には深く掘り下げられているものの、それぞれがバラバラに孤立しています。実験や観察、調査を通して1つのことを追求するのは重要ですが、今後それらを繋ぐことも大切です。

例えば、今や人間のゲノム（全遺伝子情報）は簡単に読めるようになりましたが、ゲノムを解読する人、そのデータを解析する人、病気の原因を臨床の立場で研究する人が一緒に協力して初めて、病気と遺伝子の関係が明らかになります。1つの分野だけを見るのではなく、いろいろな技術や考え方を繋ぎ、研究の視野を広げていくべき時代になりました。

みなさんは、大学に入ったらまず、おもしろいと感じるもの、興味を持って続けられるものを自分で見つけてください。それを足がかりとして、そこから繋がる全体像を俯瞰できるようになることが大切です。



副学長  
男女共同参画・国際・広報推進センター長  
生命科学研究所 教授  
稲葉 カヨ

奈良女子大学理学部卒業。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。京都大学理学部助教授（女性初）、同大学院理学研究科助教授を経て、生命科学研究所教授に就任。生命科学研究所長（女性初）を務めた。米ロッキーフエラー大学連携教授を併任。免疫システムにおける樹状細胞の主要な役割の解明に貢献し、2014年「ロレアル・ユネスコ女性科学賞」を受賞。

## Girls, be ambitious

さまざまな学問分野で  
日々研究を続ける京都大学の研究者たち。  
今回もその素顔と生き方を紹介します。  
現代を生きる彼女たちからのメッセージは  
あなたの未来に繋がっているかもしれません。

- はじめての  
はじめての  
はじめての
- |   |  |
|---|--|
|  医学研究科 教授<br>棚田 素子 p. 3            |  法学研究科 准教授<br>木村 敦子 p. 12 |
|  人文科学研究科 助教授<br>宮 紀子 p. 4          |  農学研究科 講師<br>山根 久代 p. 13  |
|  百研センター/数理解析研究所 特定助教<br>鈴木 咲衣 p. 5 |  工学研究科 助教<br>宮川 愛由 p. 14  |
|  理学研究科 助教<br>朴 昭映 p. 6             |  医学研究科 教授<br>木原 正博 p. 15  |
|  教育研究科 教授<br>明和 政子 p. 7            |  医学研究科 教授<br>藤原 隆司 p. 17  |
|  経済学研究科 教授<br>渡辺 純子 p. 8           |  研究女子特別座談会 p. 19          |
|  アジア・アフリカ地域研究研究科 助教<br>近藤 史 p. 11  |  |



# たちばな 京都大学男女共同参画推進センター Gender Equality Promotion Center

## 京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）表彰式

若手の女性研究者の優れた成果を讃える制度である、京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）の第7回表彰式が、3月3日（火）、京都大学 楽友会館2階会議・講演室にて開催されました。

はじめに、選考委員長の稲葉 カヨ理事より開会の挨拶がありました。

続いて、たちばな賞 学生部門受賞者の志達 めぐみ氏（理学研究科 博士課程3年）、研究者部門受賞者の内田 由紀子氏（こころの未来研究センター 特定准教授）に、山極 壽一総長よりそれぞれ表彰状と記念楯が授与され、株式会社ワコールの安原 弘展代表取締役社長から、副賞の「ワコール賞」が授与されました。

次に、優秀女性研究者奨励賞 研究者部門受賞者の大澤 志津江氏（生命科学研究科 講師）、浅井 歩氏（宇宙総合学ユニット 特定准教授）に、山極総長より表彰状が、安原社長より副賞が授与されました。

その後、山極総長、安原社長から受賞者へ祝辞が述べられました。

表彰の後、たちばな賞受賞者の志達氏、内田氏が研究発表を行いました。

最後に、杉万 俊夫理事による閉会の挨拶があり、表彰式は盛会のうちに幕を閉じました。



左から、山極総長、志達氏、内田特定准教授、安原社長



左から、稲葉理事、浅井特定准教授、大澤講師、内田特定准教授、志達氏、杉万理事



左から、山極総長、大澤講師、浅井特定准教授、安原社長

### たちばな賞（優秀女性研究者賞）

| 部門    | 氏名     | 所属・身分（受賞時）            | 研究テーマ                              |
|-------|--------|-----------------------|------------------------------------|
| 学生部門  | 志達 めぐみ | 理学研究科<br>博士課程3年       | ブラックホールの観測的研究                      |
| 研究者部門 | 内田 由紀子 | こころの未来研究センター<br>特定准教授 | 文化と幸福：日本における関係志向的幸福についての文化心理学的実証研究 |

### 優秀女性研究者奨励賞

| 部門    | 氏名     | 所属・身分（受賞時）         | 研究テーマ                        |
|-------|--------|--------------------|------------------------------|
| 研究者部門 | 大澤 志津江 | 生命科学研究科<br>講師      | 細胞間コミュニケーションを介した組織成長制御の遺伝的基盤 |
|       | 浅井 歩   | 宇宙総合学ユニット<br>特定准教授 | 太陽面爆発の観測的研究とそれに基づく宇宙天気研究の推進  |

第七回 京都大学 「たちばな賞」表彰式

日時：2015年3月3日（火）午前10時～11時  
場所：京都大学楽友会館2階会議・講演室

＜受賞者による研究発表＞

たちばな賞 優秀女性研究者賞 受賞者  
学生部門 志達 めぐみ  
（理学研究科 博士課程3年）  
「ブラックホールの観測的研究」

研究者部門 内田 由紀子  
（こころの未来研究センター 特定准教授）  
「文化と幸福：日本における関係志向的幸福についての文化心理学的実証研究」

優秀女性研究者奨励賞 受賞者  
研究者部門 大澤 志津江（生命科学研究科）  
浅井 歩（宇宙総合学ユニット）

プログラム  
9:00～9:05 開会の挨拶 稲葉 佳穂（京都大学理事）  
10:05～10:15 表彰式ワコール賞贈呈  
10:15～10:25 総長挨拶  
10:25～10:35 実演挨拶 安原 弘展（株式会社ワコール代表取締役社長）  
10:35～10:45 研究発表1【学生部門】志達 めぐみ  
10:45～10:55 研究発表2【研究者部門】内田 由紀子  
10:55～11:00 閉会の挨拶 杉万 俊夫（京都大学理事）

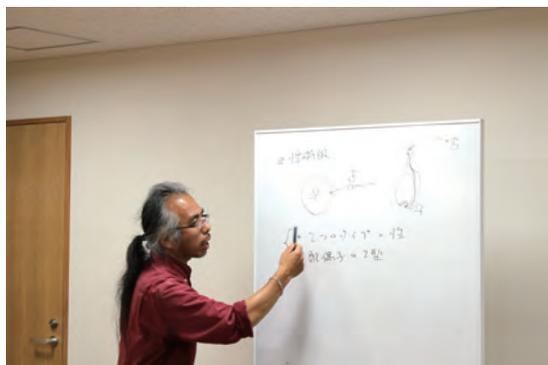
※表彰式・山極総長・山極総長夫人・表彰状と記念楯の授与は行いません。  
※表彰式・山極総長・山極総長夫人・表彰状と記念楯の授与は行いません。  
※表彰式・山極総長・山極総長夫人・表彰状と記念楯の授与は行いません。  
※表彰式・山極総長・山極総長夫人・表彰状と記念楯の授与は行いません。

お問い合わせ先：総務部人事課研究員事務課贈賞係 電話：075-753-2284  
URL: http://www.kyoto-u.ac.jp/ga/research/tema.html

## ポケット・ゼミ「ジェンダーと科学」開講

平成27年度のポケット・ゼミ（前期）「ジェンダーと科学」が開講しました。1回生を対象に、少人数での講義、討論などを通して、ジェンダーについての基礎知

識や考え方を身につけます。講師4名で全13回の講義を予定しています。



### 平成27年度 ポケット・ゼミ（前期）「ジェンダーと科学」講師・テーマ一覧

| 講師                 | テーマ  |
|--------------------|--|
| 伊藤 公雄（文学研究科 教授）    | オリエンテーションーポケゼミの目的と内容について<br>ジェンダーと科学<br>討論とワーク・ショップ<br>まとめ |
| 山内 淳（生態学研究センター 教授） | 性の進化について   |
| 林 晶子（医学研究科 特定准教授）  | 医学とジェンダー   |
| 速水 洋子（東南アジア研究所 教授） | ジェンダーと文化人類学  |

■時間：火曜日 5限（16時30分～18時）

■場所：男女共同参画推進センター 会議室

## 全学共通科目（前期）「ジェンダー論」開講

伊藤 公雄教授の全学共通科目「ジェンダー論」が開講しました。ジェンダーについて、主に人文社会科学の

視点から考察することを通して、ジェンダーに敏感な視点を養うことを目指します。



## 出前講義 京都女子高等学校にて浅井特定准教授が講演

4月25日(土) 京都女子高等学校の「大学進路講演会」にて、京都大学 学際融合教育研究推進センター 浅井 歩 特定准教授が「母なる星『太陽』と宇宙の天気」と題し、出前講義を行いました。

天文台で撮影した太陽の表面の写真や動画、解析結果などを使用し、太陽フレアの与える影響や宇宙天気予報について講義を行い、講義後は、学生や保護者の方からたくさんの質問が寄せられました。



## 冊子「未来に繋がる青いリボンのエトセトラ Vol.2」発行

京都大学を目指す学生に向けて、さまざまな学問分野で活躍する本大学の女性研究者を紹介する冊子「未来に繋がる青いリボンのエトセトラ」のVol.2を発行しました。研究テーマを選んだきっかけや、研究の面白み、研究する上で大切にしていることなど、それぞれの研究者の考えや想いが詰まっています。

男女共同参画推進センターにて冊子を配布しておりますので、ご入用の方はセンターまでご連絡ください。また、ホームページからPDF版をダウンロードできます。

### 男女共同参画推進センター

メールアドレス: w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

Web: <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp>

好きなものを土台にして  
技術や考えを繋ぐことが大切

現在の学術研究は、さまざまな分野で個々には深く掘り下げられているもの、それぞれがバラバラに孤立しています。実験や観察、調査を通して1つのことを追求するのは重要ですが、今後それらを繋ぐことも大切です。

例えば、今や人間のゲノム(全遺伝子情報)は簡単に読めるようになりましたが、ゲノムを解読する人、そのデータを解析する人、病気の原因を臨床の立場で研究する人が一緒に協力して初めて、病気と遺伝子の関係が明らかになります。1つの分野だけを見るのではなく、いろいろな技術や考え方を繋ぎ、研究の視野を広げていくべき時代になりました。

みなさんは、大学に入ったらまず、おもしろいと感じるもの、興味を持って続けられるものを自分で見つけてください。それを足がかりとして、そこから繋がる全体像を俯瞰できるようなることが大切です。

さまざまな学問分野で

日々研究を続ける京都大学の研究者たち。

今回もその素顔と生き方を紹介します。

現代を生きる彼女たちからのメッセージは  
あなたの未来に繋がっているかもしれません。



*Girls, be ambitious*

稲葉 カヨ  
副学長  
男女共同参画推進センター長  
生命科学研究所教授

奈良女子大学理学部卒業。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。京都大学理学部助教授(女性初)、同大学院理学研究科助教授を経て、生命科学研究所教授に就任。生命科学研究所長(女性初)を務めた。米国ロックフェラー大学連携教授を併任。免疫システムにおける樹状細胞の主要な役割の解明に貢献し、2014年「ロレアル・ユネスコ女性科学賞」を受賞。

|  |                                     |  |  |
|--|-------------------------------------|--|--|
|  | 医学研究科 教授<br>柳田 素子 p.3               |  | 法学研究科 准教授<br>木村 敦子 p.12                |
|  | 人文科学研究科 助教授<br>宮 紀子 p.4             |  | 農学研究科 講師<br>山根 久代 p.13                 |
|  | 白眉センター<br>数理情報研究所 特定助教<br>鈴木 咲衣 p.5 |  | 工学研究科 助教<br>宮川 愛由 p.14                 |
|  | 理学研究科 助教<br>林 昭映 p.6                |  | 医学研究科 教授 木原 正博<br>医学研究科 准教授 木原 雅子 p.15 |
|  | 教育学研究科 教授<br>明和 政子 p.7              |  | 医学研究科 教授 篠原 隆司<br>医学研究科 准教授 篠原 美都 p.17 |
|  | 経済学研究科 教授<br>渡辺 純子 p.8              |  | 研究女子特別座談会 p.19                         |
|  | アジア・アフリカ地域研究科 助教<br>近藤 史 p.11       |  |  |

## 日仏討論会「労働市場における男女間の不平等 袋小路から抜け出るには？」

5月9日（土）芝蘭会館（稲盛ホール）にて、日仏討論会「労働市場における男女間の不平等 袋小路から抜け出るには？」を開催しました。

この討論会は、「男女間の不平等との闘い 袋小路を抜け出すためのイニシアティブとは？」をテーマに、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、上智学院男女共同参画推進室、京都大学が共同で開催した討論会のひとつです。

竹村 登茂子氏（読売新聞）の司会進行で、はじめに、稲葉 カヨ理事より、この討論会がフランスと日本のジェンダー平等をさらに加速、促進することを祈念して開会の辞が述べられました。



開会の辞 稲葉理事

続いて、パネリストのフランソワーズ・ミレウスキ氏（パリ政治学院教授）、橘木 俊詔氏（京都大学名誉教授）、小酒部 さやか氏（マタハラ Net 代表）、小笠原 隆裕氏（アクサ生命保険株式会社 執行役）、ダニエル・ブスケ氏（フランス男女平等推進委員会会長）が各々のテーマに沿って冒頭発表の後、日本で女性が働く上での問題点や、それに対するフランスの現状などについて意見交換をし、今後日本が進むべき道筋について議論しました。

最後に、横山 美夏教授による総括の辞で、盛況のうちに討論会を締めくくりました。



総括の辞 横山教授



討論会の様子



Gender Equality Promotion Center

〒 606-8303 京都市左京区吉田橘町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

# たろばな 京都大学男女共同参画推進センター Gender Equality Promotion Center

## 平成 27 年度 2 期研究・実験補助者雇用制度の 利用者が決定しました。

平成 27 年度 2 期研究・実験補助者雇用制度の利用者は、16 名（女性 14 名、男性 2 名）の方に決まりました。

### 研究・実験補助者雇用制度とは

出産・育児・介護等で、十分な研究・実験時間がとれない研究者に対し、研究又は実験業務（注：教育関係の

業務は支援対象外）を補助する者の雇用経費を負担します。募集は、年 2 回（6 月、12 月）です。本事業は、女性研究者に限らず、男性研究者も対象となります。また、研究分野の文系・理系は問いません。補助者未定でも申請できます。

## 女子高生・車座フォーラム 2015 が 12 月 26 日（土）に 開催されます。

京都大学男女共同参画推進センターでは、京都大学の研究者や科学者の仕事を知ってもらおうと「京都大学を知ろう・研究者と語ろう」を企画しました。フォーラムでは、理系・文系それぞれにどんな研究分野や領域があるのか、なぜ今の分野を選んだのかといった大学進学に関わる話をはじめ、研究の面白さや苦労、専門職や研究職など大学卒業後の将来設計のための心得、あるいはまた、具体的に、たとえば子育てと研究生活の両立方法、研究論文の執筆や学会発表といった研究者の仕事内容など、さまざまなテーマについて、教員や大学院生、学生が疑問にお答えします。

京都大学がどんなところなのか、大学ではどんな勉強や研究をするのか、また大学卒業後の進路にはどんなものがあるのか、などなど、色々な疑問をお持ちのみなさん、京都大学の企画する「女子高生・車座フォーラム 2015」にいらっしやいませんか？

保護者の方々の参加も募集します。どうぞ奮ってご参加ください。



日 時 2015 年 12 月 26 日（土）10 時～ 17 時  
会 場 京都大学医学部第一臨床講堂、他  
参 加 費 無料  
募 集 定 員 女子高校生 80 名程度（先着順）  
保護者 40 名程度  
申込方法 男女共同参画推進センターホームページ  
を閲覧いただき、お申込みください。  
ホームページアドレス  
<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>  
申込期間 2015 年 9 月 25 日（金）  
～ 11 月 25 日（水）

Gender Equality Promotion Center

〒 606-8303 京都市左京区吉田橋町  
電話 075 (753) 2437  
FAX 075 (753) 2436  
E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp  
HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

男女共同参画推進センターでは、子育てと仕事や研究の両立支援を目的とした様々な取り組みを行っています。詳細、利用方法については、センターホームページをご覧ください。[http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/hoiku\\_kaigo](http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/hoiku_kaigo)

## 病児保育室「こもも」

「京都大学男女共同参画推進センター病児保育室」は、京都大学教職員・学生の子どもが、病中・病後のため幼稚園・保育園・学校へ登園・登校できない時、親が仕事や研究を休むことなく、子どもの保育ができる環境を提供する施設です。京大病児保育室では、京都大学医学部附属病院と連携し、看護師・保育士が常駐する安心できる環境において、病児の保育を行います。



|      |   |
|------|---|
| 保育場所 | 京都大学医学部附属病院 外来棟 5階<br>※東玄関（東大路通沿い）から入ってすぐ右にあるエレベーターで5階です。 |
| 対象者  | 生後6ヶ月～小学校3年生までの病中・病後の子ども                                  |
| 利用資格 | 京都大学教職員及び学生   |
| 定員   | 5名（隔離室を含む）  |

|      |  |
|------|--|
| 開室日  | 月曜日～金曜日  |
| 開室時間 | 8:15～19:00   |
| 利用料金 | 子ども1人につき、1時間あたり500円<br>（昼食・おやつ代を含みます）<br>※保護者が学生の場合は、保育料金の半額を大学が負担します。 |
| 保育体制 | 看護師、保育士  |

## おむかえ保育

「決まった曜日だけ子どもを保育園に迎えに行けない。」「急遽夕方に打合せが入り、保育園のお迎えに間に合わない……」などで、困っていませんか。そんな研究者・学生のために、男女共同参画推進センターでは「おむかえ保育」を実施しています。運営は、民間企業に委

託して実施しています。保護者に代わり、センターが委託している企業から派遣された保育者（シッター）が子どもを保育機関などに迎えに行き、男女共同参画推進センターで一時保育を行うものです。

|      |   |
|------|---|
| 保育場所 | 京都大学男女共同参画推進センター保育室                     |
| 対象者  | 生後2ヶ月～小学校3年生までの子ども                      |
| 利用資格 | 京都大学に所属する学生・研究等に携わる教職員（日本学術振興会特別研究員を含む） |
| 定員   | 5名程度（兄弟姉妹、年齢構成により異なる場合がある）              |

|      |  |
|------|--|
| 開室日  | 月曜日～金曜日  |
| 開室時間 | 17:00～22:00  |
| 利用料金 | 保育料金は、920円～1,360円/30分（税込）<br>*時間帯により異なる<br>・利用は2時間以上、30分単位で受け付け<br>・子ども1人についての料金です。<br>・学生は保育料金のみ、大学が半額を負担します。<br>・交通費・夕食等は別途実費が必要です。<br>・状況により、その他利用手数料が必要です。 |

## ベビーシッター利用育児支援

京都大学男女共同参画推進本部では、本学における教職員の仕事と子育ての両立支援を目的として、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッター事業者が提供するサービスを利用した場合に、その利用料金の一部を助成しています。

対象事業は以下の3つです。

- ① ベビーシッター派遣事業
- ② 双生児等多胎児家庭育児支援事業
- ③ 産前産後休業時育児支援事業



## 保育園入園待機乳児保育室

「平成 27 年度保育園入園待機乳児のための保育施設」は利用を希望される方が多く、現時点で定員に迫るたくさんのお申し込みをいただいています。

京都大学男女共同参画推進センターでは、学生及び研究等に携わる教職員の研究と育児の両立を支援することを目的とし、男女共同参画推進センター内に、「平成 27 年度保育園入園待機乳児のための保育施設」を設けています。この保育施設は、自治体に保育園入園申請をおこなったが、入園待ちを余儀なくされている研究者等を対象とします。



|      |   |
|------|---|
| 保育場所 | 京都大学男女共同参画推進センター保育室   |
| 開室期間 | 平成 27 年 4 月 6 日～平成 28 年 3 月 31 日  |
| 対象者  | 原則として生後 9 週目～ 15 ヶ月未満の健康な乳児（15 ヶ月になる月の前月まで利用できます。）<br>例：2014 年 12 月 10 日生まれのお子さんの場合、2016 年 2 月末まで利用可能 |

|      |   |
|------|---|
| 利用資格 | 京都大学に所属する学生・研究等に携わる教職員（日本学術振興会特別研究員を含む）                 |
| 開室日  | 月曜日～金曜日   |
| 開室時間 | 9：00～18：00<br>（時間外保育は、8 時～9 時及び 18 時～20 時までとし、別途利用料が必要） |

## 育児・介護ワーキンググループ

## 主査 山肩先生より 退任のご挨拶



情報学研究科  
特定准教授 山肩 洋子

私は 2011 年 4 月から 4 年間、男女共同参画推進センター（旧 女性研究者支援センター）育児・介護 WG の主査として、主に待機乳児保育室の運営に携わってきました。待機乳児保育室は、京大に所属する女子学生や常勤の女性研究者の方々を主な対象として、認可保育所に入所できなかった 15 ヶ月未満のお子さんをお預かりする施設です。京大本部キャンパス周辺の認可保育園はまだまだ入園が困難な状況で、復帰のタイミングによっては入園不許可となるケースが頻発しています。そんな中、この保育室によって勉強や研究の場に復帰できた方々が沢山いたことは大変喜ばしいことですが、一方で本当に遺憾ながら、利用申請をお断りしなければならない場面も数多くありました。生後 9 週目からお預かりする当保育室では、安全に保育できる環境を用意することは必須であり、場所の問題から、やむを得ず人数制限を設

けています。どこまで利用を許可出来るかは、その年の申請状況によって変わりますが、私も子を持つ研究者の一人として、預けられるかどうか分からないのは本当に困ります。一方で、運営側の立場として、安全の確保は必須であり、定員をどこまでも増やそうとは言えず、まさに板挟みなつらさを味わいました。しかしながら昨年からは新しい環境に移設したことにより定員が 18 名まで拡充され、これまでお断りすることが多かった男子学生・男性教員や医員方々にもご利用いただける可能性が広がりました。また、昨年度まで 9 月以降の半年開室だったものが、今年度から通年開室となったことも大きな進展でした。今後も京大で子供を産み育てながら勉強や研究に励むことのできる環境が益々整っていくことを心から期待しています。育児・介護 WG のもう一つの大きな柱である介護事業は、昨年度から WG のメンバーに、がん看護専門看護師でおられる医学研究科の田村恵子教授が加わってくださったことにより、新たな発展を迎えることが出来ました。今後益々高齢化する社会において、京大が介護しながら勉強や仕事に携われる大学となることを願っています。

## 連載：研究者になる！－第52回－

### 興味に素直に従って

生命科学研究所・講師 大澤 志津江

執筆のお話を頂いたとき、正直なところ戸惑った。振り返ると、行き当たりばったりの人生で、ロールモデルになるような生き方をしていない。ただ、行き当たりばったりながらも、自分の興味が根底にあって、出会った方々から影響を受け、また支えられながら進む生き方もあるということを知り、若くは学生さんに感じてもらえればと思い、筆を取らせていただきました。

中学の頃から、モノの変化、たとえば、「卵から個体へと発生する際に見られるダイナミクス」や化学実験において体験した「色や状態変化を伴う化学反応」に強く惹かれていた。なかでも、具体的な化合物は忘れたが、スチレン系の化合物からゴムを作る化学実験で、溶液から湧き出てくるゴムを夢中になって引っ張りだし、大感動したのが今でも忘れられない。目の前で起こる化学現象や顕微鏡を通して観察できる生命現象を理解したいと漠然と考えて、化学・生物の双方が学べる東北大理学部化学科に進学した。

ただ当時は、研究者になろうという気は毛頭なく、これもまた漠然とはあったが、修士課程まで進学して、その後、製薬会社あたりに就職するものだと考えていた。自分が研究者に向いているのかも分からなかったし、化学科は特に、修士からの就職口が多いと聞いていたのもあり、自然と「修士修了後は就職」との考えに至っていた。だから、学部3年の後期に研究室を選択するにあたって念頭にあったのは、就職するまでの3年間で学びたいことを学ぶということ。より興味をもった生物系の研究室に進み、さらに修士課程において三浦正幸先生（理化学研究所・脳科学総合センター；現・東京大学大学院薬学研究所・教授）の研究室の門を叩いたことが、その後の人生を大きく変えるなどということを実際は想像もしなかった。

三浦正幸先生は、細胞死を実行する「カスパーゼ」を哺乳類で初めて同定した先生。ちょうどその頃、細胞死に関わる遺伝子が次々と同定され、細胞死の分子機構の研究がさかに行われていた時期だった。死ぬという、一見消極的な現象にメカニズムがある（積極的に細胞を殺す仕組みがある）、そしてそれが生物の発生過程で大量に起きているということに興味を持って三浦研に入室し、いただいたのは、「マウス神経系発生過程で、いつ、どこで、なぜ細胞が死ぬのかを解析する」というテーマ。胎生期から生後のマウスの脳を解剖し、ひたすら切片を作成して死細胞を免疫組織染色により検出する、この泥臭い作業にすぐにのめり込んだ。第一に、発生期のマウスの脳の美しさ、なかでも神経細胞が長い軸索を特定のところに伸ばす様子の美しさたるや、何時間眺めても飽きない。第二に、実は死んでいく細胞を検出するというのはきわめて難しいのだが、わずかに検出された死細胞が組織上で数個並んで観察されたり、細胞分裂直後に死んだのであろう細胞があったり、予想外で、かつ何となく意味がありそうな現象に出会うことがあり、そのときに感じる楽しさがたまらない。何より、顕微鏡越しに眺めた現象に対し、一緒に

興奮し、関連論文を頻繁に持ってきて下さる三浦先生の存在も大きかった。また当時の三浦研には、博士課程の学生であった井垣達史先生（現在の所属研究室の教授）、研究員であった嘉糠洋陸先生（現・慈恵医大・教授）をはじめ、いわゆる研究のプロが多く在籍していて、日々一緒に昼・夜ご飯を食べに行かせていただき、ディスカッションをそばで聞かせていただいているうちに、研究自体が生活そのものになり、勢いで博士課程に進学した。

修士・博士課程は、投稿した論文が9連続でリジェクトされたり、決して平坦な道のりではなかった。ただ、反骨精神も働いたのかもしれないが、わくわくしながら顕微鏡を覗く気持ちがブレることはなく、観察した現象を追究したいという気持ちが揺らぐこともなく、研究員としてでも、技官としてでも、どのような立場であっても研究を続けたいと考えられるようになった。そして学位取得後は、組織を構成している細胞集団のなかで、どうやって死にゆく細胞が選ばれ、また死にゆく細胞が周りにどのような影響を及ぼすのかを、ショウジョウバエをモデル生物として解析したいと考え、井垣研究室（当時、神戸大学医学研究科）に研究員として移籍、現在に至る。

井垣研に移籍して、はや7年にもなる。2年前にラボが神戸大から京大に移転してからは特に、学生さんと一緒に研究を進めるスタンスとなり、実際に自分で手を動かしていたときは大幅に生活が変わった。自分自身で顕微鏡を覗く機会が減った寂しさがある一方で、やれることが増えた楽しさもある。また最近、数理生物・工学・数学分野の研究者達と共同研究を行う機会に恵まれ、それにより、自分一人では到達し得ない研究に挑戦できるようにもなって、今までとは違った研究の楽しさが見えてきた。現在は、学生の頃からずっと対象としてきている「細胞死」に加え、ショウジョウバエを含めた昆虫の外骨格形態（翅や肢、角など）を構築する原理を、実験・理論との融合研究により明らかにするという、学生の頃には思いもしなかったプロジェクトにも夢中になっている。こうして書いてみると、これまでずっと、きわめて恵まれた環境で、出会った方々に支えて頂きながら研究を満喫し（思うように研究が進まなかったことも含め）、気持ちに任せて生きてきているように思う。

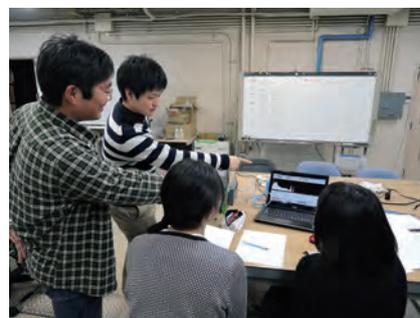
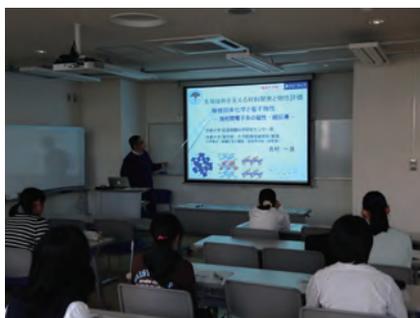
今後について悩みがないかという、そんなことは決してない。この先どのように研究を展開していくのか等、考えなければならないことは山積みである。ただ、一つだけ思うのは、同じ研究者であっても、生き方進み方は千差万別ということ。正解などどこにもない。悩みながらであっても進んできた道で、やれることを精一杯全力で頑張る、そして何より、生命現象の美しさ・不思議さへの興味を大事に、それだけは、忘れぬようにしたいと思っている。



## 女子中高生のための関西科学塾 JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラム

女子中高生のための関西科学塾は、科学技術振興機構（JST）の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の一環として、関西の大学が提携し、女子中高生を対象に講演会や実験などを行う企画です。第10回目となる今回は、神戸大学が中心となり、神戸大学、大阪大学、大阪府立大学、奈良女子大学、京都大学などで開催されました。

京都大学では、11月15日（日）に高校生79名、同伴者9名の参加のもと、様々な実験講座が開催されました。



### ■京都大学での実験一覧

|   | テ ー マ                                   | 部 局           | 講 師       |
|---|---|---------------|-----------|
| 1 | 目にみえない放射線を測る                            | 理学研究科         | 川畑貴裕      |
| 2 | DNA・タンパク質1分子を実際に見てみよう！                  | 物質—細胞統合システム拠点 | 原田慶恵      |
| 3 | DNAとはなにか — DNAに関する基礎実験                  | 理学研究科         | 朴昭映       |
| 4 | カオス・フラクタルの世界を知る                         | 情報学研究科        | 宮崎修次      |
| 5 | にじいろを見よう                                | 理学研究科         | 馬場正昭      |
| 6 | 地下を“掘らず”に探ってみよう！                        | 工学研究科         | 後藤忠徳      |
| 7 | 高温超伝導の不思議                               | 理学研究科         | 吉村一良      |
| 8 | 畑の土を調べる                                 | 農学研究科         | 間藤徹・落合久美子 |
| 9 | あれっ！こんなところにも核が?!!<br>～DNAに起こった異常を観察しよう～ | 理学研究科         | 秋山（張）秋梅   |

## 待機乳児保育室 保護者懇談会



11月25日（水）12時～13時に、「保育園入園待機乳児のための保育室」の利用者を対象に、保護者懇談会を行いました。

育児・介護支援事業 WG 主査 小西先生の司会進行で、昼食を食べながら、保育室で撮影した写真のスライドを流し、保育士さんにお子さんの保育室での様子をお話してもらいました。その後、保育士さんが子どもたちに人気の「きらきらぼし」「大きな太鼓、小さな太鼓」

「パンダ、ウサギ、コアラ」の3つの手遊びを紹介し、保護者の方と一緒にやってみました。その後、質疑応答の時間には、離乳食についての質問に、保護者の方がそれぞれよく作るものや工夫していることなどをお話され、外国人研究者より、海外と日本の食事や文化の違いなどについて話が及ぶと、皆さん興味深く聞き入っておられました。終了後も、育児について周りの方とお話され、短い時間でしたが、保護者同士の交流を深めました。



## 会議室で気分転換

「保育園入園待機乳児のための保育室」では、9週目～15ヶ月までのお子さんが一緒に生活しています。生活リズムもそれぞれなので、ときには、すやすや眠るお子さんの横で、元気いっぱい遊びまわったり、大きな声で泣き出してしまったりすることがあります。そんなときには、会議室へ行き気分転換。会議室はマットをひき、トンネルの遊具を置いて、保育室として利用できるようにしています。いつもと違うお部屋を興味深く眺める子、ハイハイでトンネルをくぐって行ったり来たりする子、自由に歩きまわる子、みんなのびのびと遊んでいます。





## 連載：研究者になる！－第53回－

「Sample ID: kyoko151204」

工学研究科・助教 名村 今日子

私はまだ研究者としての経歴は短く、家庭を持っているわけでもありません。それでも、私が生きてきた人生を他の誰も生きてはいないので、参考にならなくとも一例にはなれると思います、この記事を書かせていただくことにしました。

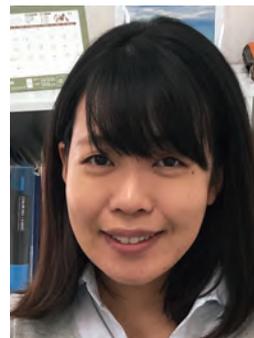
### 研究者として

本当に研究だけに限って言えば、女性であることが支障になったことはありません。結婚や出産などプライベートとの兼ね合いは別です。他の方も書かれているように、研究成果は論文や発表の件数などいい意味で数値化されており男女平等に評価されます。とはいえなぜあえて研究者なのでしょう。

私が研究者になろうと思ったのは小学生のころです。将来の夢に「研究者」と書きました。早々に決めた理由は、小さい頃から父母や親戚が数々の自然科学系の実験を一緒にやってくれたことだと思います。昆虫採集から草木染め、顕微鏡観察や電子工作など挙げだすときりがありません。一番のポイントは、いつも私をほったらかして周りが楽しんでいてくれたことです。その様子を見ながら一緒にやってみると、本当に楽しい（気がしてくる）のです。そして部屋に戻ると本棚には図鑑や写真集など様々な本がそと本棚に並べてありました。自然と興味がわき、ページを何度もめくりました。こうしてうまく自然科学系の実技と座学を自発的にやるように洗脳されていきました。幼少期をあえて書いたのは、この時の経験が今も私の中で生きていると思うからです。

そのまま研究者になることについて何の疑いもなく、大学に入りました。今もずっとお世話になっている研究室の門を叩いたきっかけは、廊下にかけてあった鈴木基史先生のポスターです。そこにはカラフルな薄膜の写真とその薄膜の電子顕微鏡像——目には見えない面白い形の構造を撮影した写真がいくつも並んでいました。直感で「ここで研究がしたい」と思いました。さすがに研究室に入ってから、結果が長らくでなかったり論文がなかなか通らなかったり、苦しい時期もありました。それでも続けている理由は、幼少期と同じように研究の楽しさを人と共有した瞬間があるからです。詳しくは書きま

せんが、私は熱を使って流体を駆動する実験を行っております。なかなか駆動されない流体を相手に試行錯誤を繰り返していた中で、ある日突然急激なマイクロ回転流が発生しました。うれしいのか何なのかふわふわした気分のまま、現象の再現性を確かめて鈴木先生に報告しました。結果をみるなり「これはめっちゃ面白いです！」ととても喜んでくださいました。その瞬間に楽しさの実感が湧きました。あの感覚は今でも研究の励みになっています。簡単な科学実験ならともかく、大学の研究ともなれば時間と手間がかかる分、楽しさを見失いがちです。先生にさせていただいたように、自分も研究の楽しい瞬間を捉え、なるべく学生を巻き込んでその感覚を共有できるようにしたいと思っています。



### 女性として

ここまでで私が研究を楽しんでいることは伝わったと思います。それでは女性であることが全くこれまで気にならなかったか。答えは否です。絶望的な男女比（女性3%程度）に気づいたのは大学入学後でした。大学院進学以降はほとんどいつでも女性は自分一人という環境でした。女友達とずっと一緒に居たい方ではないですが、周りの学生との性別・年の差が少しずつ広がる中で、たまに孤独を感じることもありました。

そんな時にちょうど「JSPS 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」と「工学研究科馬詰研究奨励賞」の受賞によって海外行きの切符を手に入れました。合計3ヶ月間、スウェーデンのウプサラ大学のGranqvist先生の研究室に滞在させていただきました。そこには10名以上の博士課程の学生がおり、その内半分くらいが女性でした。同じ分野にいる女性研究者仲間がたくさんできたことで、女性研究者として生きることが特別なことではない、という気楽さが生まれました。この経験のおかげで今日も楽しく研究に打ちこめています。

以上、私の今までというものを書き連ねました。結局のところ、今、私はただの研究者です。いつか女性研究者として生きる日が来たら、もう少しみなさんの役に立つことをどこかで書きたいと思っています。

Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

### 女子高生・車座フォーラム 2015

12月26日(土)、京都大学にて「女子高生・車座フォーラム2015」を開催しました。このフォーラムは、男女共同参画推進センターが中心となり、女子高校生に京都大学の研究者や科学者の仕事を知ってもらおうという企画で、今回で10回目の開催となります。



山末英嗣 男女共同参画推進センター広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ 主査の司会進行のもと、稲葉カヨ 理事・副学長より開会の挨拶がありました。京都大学が女性の活躍を推進するために取り組んでいる男女共同

参画アクションプランやWINDOW構想についての説明があり、また、試験勉強に励む高校生に対し、挑戦した結果の後悔は挑戦しない後悔よりもはるかに小さい、何事にも自信を持って対応してほしいと激励しました。最後に、この車座フォーラムが皆にとって有意義なものになることを願い、開会の挨拶を締めくくりました。



次に、川添信介 理事・副学長より、京都大学の概要についての説明がありました。京都大学の学風として「対話を根幹とした自学自習」、「自由の学風」を挙げ、京都大学は創立以来、人とのつながりの中で学ぶが、あくまでも一人で学ぶということを大事にしていると説明がありました。また、今回のフォーラムで、自分の本当にやりたいことが志望している学部でできるかどうか確かめてほしいと述べました。最後に、山極総長が京都大学をおもしろい大学と言われていることに因み、おもしろいことを探しに是非とも我々の仲間になっていただければ有難いと締めくくりました。



続いて、教育推進・学生支援部 入試企画課より、平成28年度学生募集要項、平成28年度から実施する特



色入試選抜の概要など、入試に関する説明がありました。

その後、宇宙総合学研究ユニットの浅井歩 特定准教授が「太陽研究の最前線」と題し、講演を行いました。

浅井先生は京都に生まれ育ち、中学高校は剣道に打ち込んでいましたが、理科が好きで漠然と宇宙に興味があったことから、宇宙について学びたいと京都大学理学部へ入学しました。入学後、



太陽物理学を知り太陽研究を始め、京都大学大学院に進学、博士課程終了後、国立天文台の観測所などを経て2010年に京都大学に着任しました。

京都大学は太陽を観測するのに適した望遠鏡を持っており、天文台が2つあります。京都市山科区にある花山天文台では、先生自身も観測した太陽のデータを解析し論文にしたことがあるそうです。もうひとつは、岐阜県高山市にある飛騨天文台で、最近は空気環境などから観測の拠点をこちらに移しており、太陽専門の望遠鏡で最先端の研究を行っているとのこと。このような設備のある京都大学は、世界的に見ても太陽研究するのに大変恵まれているとのこと。

先生は宇宙総合学研究ユニットに在籍していますが、このユニットは天文学に強い理学、宇宙工学に強い工学、宇宙倫理学や人類学などの人文社会学系まで、幅広い分野が連携する学際的な研究ユニットだということです。

先生は京都大学へ入学するまで、太陽については400年もの研究の歴史があり、すでに何もかも調べつ

## 京都大学を知ろう 研究者と語ろう

くされているものだと思っていたそうです。ところが、京都大学に入り太陽についてはまだわからないことがたくさんあるのだと知り、また、太陽の黒点の映像を見たときになんと複雑なのか、とそのダイナミックさに魅せられ、もっと太陽について知りたいという思いが太陽研究を始めるひとつのきっかけとなったそうです。先生は「このフレアは私の大好きなフレアです。」ととても楽しそうに太陽について説明をしながら、観測衛星が撮影した黒点の動画や太陽フレアの様子を紹介し、参加した高校生と保護者は大変興味深い様子で聞き入っていました。

京都大学の理学部は入ってから細かく自分の分野を選ぶそうですが、先生は入学後、太陽研究に興味を持ち、宇宙物理学教室で太陽をやりたいと思ったそうで、入学してから自分の分野を決めるというのが、先生にとってはよかったとのこと。宇宙物理学教室は大変人気の狭き門だということで、先生も、もし入れなかった場合のことを考えて他の分野の勉強もされていたそうです。結果、宇宙物理学教室に入ることができ、今日まで楽しく太陽研究を進めることができたとのこと。

先生が研究者として今思うことは、太陽の爆発現象は物理的にそのメカニズムだけが面白いのではないということです。研究を進めるうちに、実は、我々の文明生活にも影響を及ぼしている可能性があるということがわかり、太陽の研究を突き詰めることが私たちの生活に繋がっている、ということが今大変やりがいになっているそうです。また、先生が恵まれていると思うことは、総合大学である京都大学ならではの広い分野を研究できるということだそうです。太陽研究が宇宙天気という広い分野の中で社会に繋がり、新しい研究を通じて他分野の



方たちと繋がり、共同研究ができていることに恵まれていると感じるとのことです。

昼休憩後、講師の紹介、グループワークの説明があり、その後、高校生は希望学部別にグループ会場へ移動し、グループワークを行いました。グループワークでは、講師と学生スタッフが研究者の仕事や研究分野、学部選択や学生生活、就職などについて高校生の質問をもとに自身の経験を交えて話し、和気あいあいとした雰囲気の中、行われました。その間、保護者は稲葉理事の挨拶の後、京大生との交流会に参加しました。

グループワーク終了後は再び全員で集まり、まとめの会を行いました。伊藤公雄 男女共同参画推進本部支援室長の司会で、グループワークで聞くことができなかった学部を超えた質問などに講師が答えました。「総合人間学部はどんなことをするのですか」「教育学部、総合人間学部、文学部の心理学は何が違うのですか。」「具体的な就職先はどこですか。」「専攻はいつ頃決めますか。」「NASA や JAXA で働くには理学部の物理学でしか学べませんか。」などたくさんの質問があり、それぞれの分野の講師が回答しました。また、質問の多かった女性研



## 2015年12月26日（土）京都大学医学部第一臨床講堂、他

究者としての立場や留学についても、それぞれの講師の経験や意見を語ってもらいました。最後に、女性研究者支援のために男女共同参画推進センターで行っている取り組みを紹介し、今後も支援する体制を充実させ、皆さんの入学を待っていますと締めくくりました。

その後、入試企画課より入試に関する質疑応答を行い、プログラムを終了しました。



### 講師・グループ・会場

|   | 氏名     | 所属           | 研究分野                      | 会場                        |
|---|--------|--------------|---------------------------|---------------------------|
| 1 | 伊藤 公雄  | 文学研究科        | 文化社会学、メディア研究、ジェンダー論       | 医学部 G 棟 2F<br>セミナー室 CD    |
|   | 竹内 里欧  | 教育学研究科       | 教育社会学、文化社会学、歴史社会学         |                           |
| 2 | 木村 敦子  | 法学研究科        | 民法（とくに家族法）                | 芝蘭別館 1F 和室                |
|   | 木元 小百合 | 経営管理研究部      | 地盤力学                      |                           |
| 3 | 常見 俊直  | 理学研究科        | 理学と社会交流、科学コミュニケーション、社会連携  | 医学部 G 棟 2F セミナー室 B        |
|   | 浅井 歩   | 宇宙総合学研究ユニット  | 太陽面爆発現象（フレア）の観測的研究、宇宙天気研究 |                           |
| 4 | 船曳 康子  | 人間・環境学研究科    | こころの発達                    | 医学部 G 棟 2F セミナー室 A        |
|   | 飯間 麻美  | 白眉センター・医学研究科 | 放射線診断学                    |                           |
| 5 | 任 和子   | 医学研究科        | 生活習慣病看護学                  | 医学部 G 棟 2F セミナー室 A        |
| 6 | 矢野 育子  | 薬学研究科        | 臨床薬学教育                    | 医学部構内先端科学研究棟 1F<br>小セミナー室 |
| 7 | 杉野 未奈  | 工学研究科        | 耐震構造工学                    | 芝蘭別館 2F 研修室 1             |
|   | 山末 英嗣  | エネルギー科学研究科   | 材料科学及び産業エコロジー             |                           |
| 8 | 中谷 加奈  | 農学研究科        | 砂防学                       | 芝蘭別館 2F 研修室 2             |
|   | 赤松 美紀  | 農学研究科        | 農薬化学（農薬などの人や環境に対する影響）     |                           |
| 9 | 幡野 恭子  | 人間・環境学研究科    | 植物細胞生物学、藻類学               | 芝蘭別館地下 会議室                |

### 学生スタッフ

|   | 氏名     | 所属         |
|---|--------|------------|
| 1 | 鈴木 慎介  | 文学部        |
|   | 田村 明日香 | 教育学部       |
| 2 | 改森 実奈  | 法学部        |
|   | 副島 大知  | 経済学部       |
| 3 | 磯田 珠奈子 | 理学部        |
|   | 安井 円香  | 理学部        |
| 4 | 西尾 周朗  | 医学部        |
|   | 向平 妃沙  | 医学部        |
|   | 藤川 詩織  | 医学部        |
| 5 | 勝島 倫子  | 医学部        |
| 6 | 加藤 夏己  | 薬学部        |
| 7 | 林 洋平   | 工学部        |
|   | 村田 政弥  | 工学部        |
| 8 | 香月 和敬  | 農学研究科      |
|   | 林川 晴大  | 農学部        |
| 9 | 小川 岳史  | 総合人間学部（理系） |
|   | 伊藤 香奈  | 総合人間学部（文系） |

### プログラム

|             |  |
|-------------|--|
| 10:00-10:30 | 京都大学医学部第一臨床講堂 受付   |
| 10:30-10:35 | 開会の挨拶 (理事・副学長 稲葉カヨ)  |
| 10:35-10:55 | 京都大学の紹介 (理事・副学長 川添信介)                                      |
| 10:55-11:10 | 入試に関する説明 (教育推進・学生支援部 入試企画課)                                |
| 11:10-11:30 | 女性研究者の講演「太陽研究の最前線」<br>(宇宙総合学研究ユニット 浅井歩)                    |
| 11:30-13:00 | 昼休憩  |
| 13:00-13:30 | 講師紹介・グループワークの説明<br>(広報・相談・社会連携事業 WG 主査 山末英嗣)               |
| 13:30-13:50 | 移動 (休憩)  |
| 13:50-15:00 | グループワーク「車座になって話そう」<br>【高校生】講師・京大生とのグループワーク<br>【保護者】京大生との交流 |
| 15:00-15:20 | 移動 (休憩)  |
| 15:20-15:50 | まとめ (男女共同参画推進本部支援室長 伊藤公雄)                                  |
| 15:50-16:00 | 休憩   |
| 16:00-17:00 | 入試に関する質疑応答 (教育推進・学生支援部 入試企画課)                              |

## 連載：研究者になる！－第54回－

### 感謝と初心を忘れずに

地球環境学堂・准教授 古川 愛子

工学部地球工学科の土木工学コースを卒業し、地震工学に関する研究に携わっています。

小さいときから理数科目が好きで、小学校5年生のときに既に、私は理系だな、とっていました。旅先で経験した1994年北海道東方沖地震と、その3か月後の1995年兵庫県南部地震の2つの地震をきっかけに、地震のことに興味を持ち、地球工学科を志望しました。4回生のときに、希望していた地震工学の研究室に入ることができたときは嬉しかったです。しかし、最初から研究者を目指していたわけではありませんでした。

工学部の学生のほとんどは大学院に進学します。しかし私は、家族の勧めもあって、地元の役所に就職しました。公務員試験の準備を進めていたころ、研究室教授の土岐憲三先生から、大学院に進学して、博士課程まで進んで、研究者になるという選択肢もある、そのほうが、あなたにとってはハッピーではないか、とのお言葉を頂きました。研究に興味がありましたので、お言葉を頂いて気持ちが揺れましたが、役所への就職を選びました。

しかし役所に入って、ここは自分の居場所ではない、大学院に行って研究をしたい、という気持ちが日に日に強くなり、思い切って院試を受け直し、同級生に1年遅れで大学院修士課程に進学しました。

私は研究者になるのに一年遠回りをしましたが、その遠回りがよかったと思っています。自分と向き合い、本当にやりたいことが分かったからです。今は自分の居場所が見つかり、好きな研究をさせて頂いている、という感謝の気持ちでおります。研究者の道を勧めてください、再び温かく迎えてくださった土岐先生には感謝しています。

大学院に進学してからは、学外の研究委員会に参加する機会を頂いて、研究室の外に世界が広がりました。他大学の先生や院生との交流を通して、地震工学には様々な研究分野（地震動、構造物、地盤、防災、等々）があることを知りました。少しずつ知識が身につく、議論に参加できることに喜びを感じながら、充実した日々を過ごしました。

博士課程の途中で、九州大学の塚久哲先生の研究室

で助教としてお世話になることになりました。民間企業との共同研究が盛んな研究室で、技術者の方とお仕事をされる機会に恵まれ、実務のことを広く勉強させて頂きました。自分の学位論文の研究に取り組みつつ、学生指導や、委員会活動、共同研究などに参加させて頂きました。また、夏休み期間に2か月ほど、イギリスのケンブリッジ大学に留学する機会も与えていただいた塚先生には大変お世話になりました。

そうこうしているうちに、京大に異動することになりました。1年目は、小池武先生、五十嵐晃先生の研究室でお世話になり、好きな研究に専念させて頂きました。小池先生と五十嵐先生の、研究に対する真摯な姿勢に触れたこの頃から、浅く広い研究でなく、研究テーマを絞って、深く詳しい研究をしていきたいと思うようになりました。

2年目、現在所属する清野純史先生の研究室に異動となりました。清野先生は、学生時代からお世話になっている、強くて優しく包容力のある先生です。研究室は、清野先生の人柄に惹かれて集まってくる学生や共同研究者で活気に満ちています。毎日研究室で楽しく過ごすことが出来ているのは、ひとえに清野先生のお人柄のおかげと感謝しています。

これまでを時系列で振り返ってみて、改めて、自分は恵まれた環境で周りの方に支えられてこれまでやってこられたと、感謝の気持ちでいっぱいです。これからは、自分が与えていく側になって、恩返しをしていきたいと思っています。そして今年は、2011年の東北地方太平洋沖地震から5年目となります。当時、津波被害の映像を見て、被害の大きさに言葉を失ったことが思い出されます。兵庫県南部地震以降、土木構造物の耐震設計は大きく進歩しましたが、東北地方太平洋沖地震を経験して、新たな課題が多数見つけられました。地震工学者が取り組むべき研究課題は、まだまだたくさんあります。自分の研究成果が、問題解決に少しでも貢献できるように、自分のペースで、精一杯、研究に精進していきたいと思っています。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/

## “Women and Wish” フォーラム 2 男女共同参画推進センターの実験研究補助者制度を利用して

2月22日（月）、芝蘭会館別館研修室2にて“Women and Wish”フォーラム第2回「男女共同参画推進センターの実験研究補助者制度を利用して」を開催しました。

始めに、山末 英嗣広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ主査の司会で、稲葉 カヨ理事・副学長より開会の挨拶がありました。



次に、東樹 宏和先生（人間・環境学研究科）が「『男の器量』と育休：父として、教員として、夫として」と題し、講演を行いました。



東樹先生は1ヶ月間育児休暇を取得しましたが、直近2年での男性の育休利用としては唯一の利用者だったとのことで、育休だけが全てではないがもっと取得率が上がってほしいと述べました。

育児を通して家事、育児、仕事の両立の大変さを実感し、父親が育児をすることに行政やマスメディアを含めた世間の意識の低さなどを感じたそうで、感じたことなどは個人の情報に留めずに周囲に発信するようにしているとのこと。体のつくりの違いで母親にはどうしてもかなわない部分があることは確かなので、父性をどう積極的に利用するか考え、育休取得など個人の行動を介して社会の未来を変えていく努力をすることや、子供の思春期以降に社会との関わり方を伝える役目をしたいと語りました。また、子を持つ一



人の科学者として子供たちに安心して暮らせる世界を残すための研究や活動に一層取り組みたいと話しました。また、京都大学には学生を社会に送り出す大学だからこそ先頭に立ってやってほしい、その際、トップダウンとボトムアップをうまくかみ合わせての活動が重要だとの見解を示しました。



次に、佐藤 亨就労支援事業ワーキンググループ主査より、実験補助者制度の現状について説明がありました。費用の限度があり、支給額を下げすぎではいけないと思うと採択数を絞らざるを得ない状況で、採択数は応募の6割くらいの年30件ほどになっています。

一時は、申請書類の準備が大変なこともあり、申請自体を諦めてしまう方がいたことは大変残念ですが、少しは改善してきており、国立大学のおかれる厳しい状況の中で頑張っています、と現状を説明し、今回は率直な意見をお聞きしたいと述べました。

その後、実験研究補助者制度の利用者を代表し、小石 かつら先生（白眉センター／人文科学研究所）と竹之内 沙弥香先生（医学研究科）より、お話がありました。



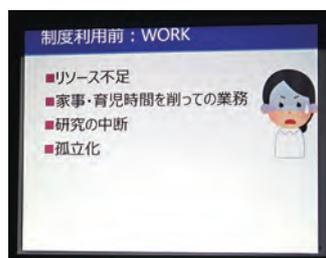
小石先生は、ある男性研究員の奥様が研究者を辞め、専業主婦になったお話を例に出し、本人や周囲も気づいていないかもしれないが、研究者として仕事を続けていく上で、いろいろな障害に心が折

れてしまうということも考えられると話されました。先生も実験研究補助者制度の申請の際は、ここまでしないといけないうらやめたらいいじゃないか、という気持ちになったそうです。研究者を続けることでパートナーに制限をかけてしまう、迷惑をかけてしまう、保育所が見つからない、一方で私が仕事をしなくても周囲に反対する人はいない、制度を使うわけでもない、迷惑をかけるわけでもない、研究さえやめれば問題は解決してしまう。研究者として消えることにハードルはないが、続けることに関してはハードルがたくさんある。その中で、実験補助者制度はただ助かるという意味以上に、自分の研究に価値があると思直させてくれる、研究者としての存在そのものを支えてもらえる精神的にも有難いものであったし、今後も続けていってもらいたいと述べました。ただ、採択率6割の現状は悲しいことであると、諦めて申請しない人の気持ちもわかるので申請に対するサポートがあればいいと意見を述べました。



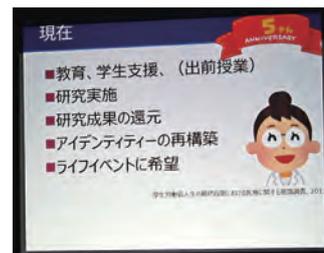
竹之内先生は、5年前に育児と介護に苦労しながら実験補助者雇用制度に応募したものの、初めて応募した際は不採択だったそうです。申請書類を記入していると、このような大変な状況

で働いても良いのかと辛い気持ちになったそうで、申請してもだめだろうと2回目の申請は諦めていたそうです。ところが、上司に推薦してもらい応募したところ採択され、以降3期に渡り利用されているとのこと。制度を利用する前は、育児や家事の時間を削って研究活動にしても大幅に遅れるような状況、自分や家族の体調不良、周りに同じような状況で相談できる人もおらず、家族に大きく負担をかけ、常に罪悪感があり、母として、教員として、妻として、娘として、全ての立場で自分



はダメだと感じ、自尊心が著しく低下していたと思返されました。一転、制度を利用してからはデータ収集を補助者の方をお願いしたことで、

保育園のお迎えはほぼ定刻通りに行け、家族の時間が持てるようになり、子供、家族のストレスや負担も減りうまく回るようになったそうです。研究も「これでいいのだ」とアイデンティティを再構築でき、効率的に教育や研究に取り組むことができるようになったとのことで、この制度なくして今の私はないというほどこの制度は大変な難かったとのことです。一方、経験から感じたこととして、搾乳場所がなくトイレで搾乳をした経験から環境がもっと整えばと感じたこと、教育と研究では研究が重視されるが、教育とバランスよく評価してほしいと思うこと、子育て中の方と繋がるネットワークがあればいいと思うこと、どれだけ説明しても実際に経験した人でないと理解してもらうことが難しいと感じること、ワークライフバランスを考慮した働き方の事例の紹介があればいいと思うこと、ワークライフバランスをとりながら頑張っている女性研究者が本制度や表彰のように、何らかの形で認めてもらえる機会が増えればさらに良いのではないかなど意見を述べました。



その後、女性教員懇話会を代表し、豊島 文子先生（ウイルス研究所）が懇話会について説明し、楯谷 智子先生（白眉センター）が懇話会からの実験研究補助者制度についての意見を述べました。「応募期間が短い」「申請書類を半年ごとに用意するのが大変」「雇用期間6ヶ月では短すぎて人を雇いにくい」「選考基準の明確化」「男性も利用しやすいようにホームページなどイラストや色など配慮してほしい」などの意見がありました。次に、王 柳蘭先生、鈴木 咲衣先生（白眉センター）が女



性研究員の生きづらさを集めたボードを紹介し、意見にならない生きづらさの声に寄り添う制度作り、空気作りに活かしてほしいと述べました。

続いて、伊藤 公雄推進本部支援室長の進行で、山極 壽一総長からお話がありました。山極総長は日本社会の問題は、育児と家庭の問題は「その家庭の問題」としてしまうことだと述べ、公的に、地域社会、職場が口を出していかなければいけないのではないかと考えを示しました。総長も研究室で子育て中の女性と一緒に長らく働いていたそうですが、彼女にしかできないことがある

から続けてもらわないと困ると思ったし、彼女も周囲の期待があったから決心した。周囲がそのように持っていないといけないと述べました。また、育児中には責任のある仕事を任せられないというが、責任ある仕事を責任持ってやるという社会のコンセンサスがあればサポート体制もできていこうし、本人も仕事を続けられると思うと述べました。また、伝統的な常識を変えるには生物学的な特性を補いながらいろんなモデルを作って、個性からある程度の普遍性へと舵を切らないといけないと語りました。そして、制度を変えていくためには個別的な意見をいっぱい集めてこれはできる、これはできないとしたほうがうまくいくと思うので、今回のフォーラムは具体的な事例や要望を知る大変いい機会であると述べました。その後、参加者から多くの質問や意見を頂き、回答しました。

最後に、伊藤推進本部支援室長が、男女共同参画推進センターを活用してもらい、個別の事例やいろいろな課題を共有するしくみができればいいと思いますと締めくくり、フォーラムを終了しました。



## 平成 28 年度 1 期研究・実験補助者雇用制度の利用者が決定しました。

平成 28 年度 1 期研究・実験補助者雇用制度の利用者は、18 名（女性 12 名、男性 6 名）の方に決まりました。

### 研究・実験補助者雇用制度とは

出産・育児・介護等で、十分な研究・実験時間がとれない研究者に対し、研究又は実験業務（注：教育関係の業務は支援対象外）を補助する者の雇用経費を負担します。募集は、年 2 回（6 月、12 月）です。本事業は、女性研究者に限らず、男性研究者も対象となります。また、研究分野の文系・理系は問いません。補助者未定でも申請できます。

## 連載：研究者になる！－第55回－

さよならイキイキ・モデル

人文科学研究所・准教授 石井 美保

女性研究者への応援冊子ともいうべき『たちばな』という媒体に、「研究者になる！」という連載タイトル。この条件での執筆となると、何とはなしに、「研究も家事も育児も、大変だけど毎日充実しています！」という、ポジティブでエネルギー溢れる文章を書かなくてはならないような気がしてくる。こうした模範的なイメージを、ここでは仮に「イキイキ・モデル」と名づけた。仕事と家庭生活を両立し、イキイキと輝いている女性研究者像である。

でも待てよ、と思いとどまる。この冊子の主な読者層が若手の女性研究者だとしたら、そうしたモデルを提示されるのは、ちょっと息苦しくなることではないか。ちょうど、「女性が輝く日本！」といった上からの掛け声に、息苦しさを感ずると同じように。切れ目のないキャリア、自己点検・評価、論文執筆に学会発表。家事に育児に介護。私たちの周りはずでに、身動きのできないほどの「マスト」項目で埋まっている。この小さなエッセイの中でまで、イキイキ・モデルを奨励しなくてもよいだろう、と思うことにする。

私の専門は文化人類学である。女性研究者のおかれる状況は、理系か文系かによって随分変わってくると思うが、文系の中でも文化人類学は、長期のフィールドワークが必須という点で特殊だといえる。大抵の学生は、博士課程在籍時に一年ほどの現地調査を経験する。私の場合、2000年前後に通算15ヶ月間ほど、ガーナの農村で調査を行った。研究テーマは精霊祭祀や呪術といった地域の在来宗教と、多民族社会における人々の関係性である。精霊を祀る司祭の家に居候させてもらい、宗教実践に関する調査を進める傍ら、村人の生活を知るために農地や森の中を歩き回った。

大学院博士課程といえば、年の頃は26歳前後。同年輩の友人知人はそろそろ結婚していくお年頃である。電気や水道のない村で、ときにスクールに叩かれ、マラリヤ熱に罹りつつ、呪術や儀礼について学び続ける日々。そんな私の元に、「私たち結婚しました！」という、幸せいっぱいの写真付きハガキ（日本から転送されてき

た）が何枚となく舞い込んでくる。これはなかなか、シュールといおうか、哀愁を誘うといおうか、「私って一体…」という気持ちになる経験である。

そんな私もどうにか博士論文を提出し、学振PDの身分でアムステルダム大学に留学することになった。ここで私にとっての大問題は、留学期間が妊娠・出産時期とまるきり重なってしまったことである。おまけに、やはり人類学者である夫も同時期にインド留学が決まってしまった。仕方がないので、夫にはインドとオランダを往復してもらうことにして、オランダで出産してみることにした。結果としては、留学というよりも「産みに行った」というほうが相応しいオランダ滞在ではあったが、その中でも印象深い出会いはあった。アムステルダム大でポスドクをしていたマリーンは、私と同じくガーナ研究者。まだ1歳に満たない娘を研究会に連れてきて、ガーナ人の旦那さんと交替であやしていた。当時40歳にして既に著名な研究者であったビルギットは、9歳の息子の母であり、持病を抱えながらの研究生活。息子の誕生日に大掛かりなパーティを催したことを嬉しそうに話した後、ほっと息をついて、「でも大変よ」と呟いていた。おそらくは妊婦の身だったからこそ、研究という枠組みを離れて何か通じ合えたように感じた瞬間を、今もときどき思い出す。

オランダで長女を出産し、その6年後に日本で次女を出産。この十年ほど、二人の娘を調査地に連れていく「子連れフィールドワーク」を敢行中である。というと、調査地でも仕事と育児をこなす超イキイキ・ライフを実践しているようであるが、そうではない。何かと抜けている母を心配する子らに「ついてきてもらっている」というのが実情である。こんな風に、ときにジタバタ、ときにヨロヨロと過ごしているうちに、定年を迎えることになるのだろうか。いずれにしても私にとって、「キャリアも家庭も！」という無限のループからしばし逃れて、何者でもない自分のあり方を見直せるのは、やはりフィールドにいるときなのかもしれない。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

## Ⅱ 「育児・介護支援」事業

## 育児・介護支援事業ワーキンググループ活動報告

当ワーキンググループは京都大学構成員の育児と介護に関する支援活動を行っている。  
今年度は待機乳児保育室を2015年4月6日に開室した。ここでは認可保育所に入所できなかった乳児をお預かりしているが、利用希望者は少なくなく、3月の利用者は定員18名を超える見込みである。11月25日には保護者懇談会を開き、保育士や保護者の間の交流をはかった。昨年度からの変更点として、女性研究者だけでなく男性研究者も利用可能になったことが挙げられる。またこれまで9月だった開室を4月とした。男性利用者は5名、4月から8月の利用者は6名だった。



育児・介護支援事業 WG 主査 小西由紀子

### ■H27 活動記録

- ・4月6日(月) 平成27年度保育園待機乳児保育室を開室
- ・11月25日(水) 待機乳児保育室利用者の懇談会

## 京都大学男女共同参画推進センター 平成 27 年度「保育園入園待機乳児のための保育施設」利用案内

京都大学男女共同参画推進センターでは、学生、研究者の研究と育児の両立を支援することを目的とし、男女共同参画推進センター内に、「保育園入園待機乳児のための保育施設」を設けます。この保育施設は、現在、保育園の入園待ちを余儀なくされている研究者等を対象とします。運営については、民間企業に委託し、大学が一部費用を負担して実施します。

### ◇保育施設の概要

施設の名称: 京都大学男女共同参画推進センター保育園  
入園待機乳児保育室

施設の所在地: 京都市左京区吉田橋町 京都大学男女共同参画推進センター内

受入定員: 4 月～5 月: 3 名、6 月～8 月: 6 名、9 月～翌 3 月: 18 名

### ◇保育の概要

開室期間: 平成 27 年 4 月 6 日から平成 28 年 3 月 31 日  
開室日: 月曜日～金曜日 (国民の祝日に関する法律に定める休日、大学の創立記念日、大学が定める夏季・冬季休業期間を除きます。また、京都大学男女共同参画推進センター長がやむを得ない事情により必要と認めるときは、臨時に休室することがあります。)

開室時間: 9 時～18 時

時間外保育は、8 時～9 時及び 18 時～20 時までとし、別途利用料が必要です。

対象乳児: 原則として入室時生後 9 週目～平成 21 年 3 月末時点で 15 ヶ月未満の健康な乳児 (15 カ月になる月の前月まで利用できます。)

運営体制: 運営を保育業者に委託します。

### ◇利用条件

利用資格: 京都大学に所属する学生・研究等に携わる教職員 (日本学術振興会特別研究員を含む)

## 京都大学 保育園入園待機乳児 保育室

2015年4月6日開室 愛称: ゆりかご



★開室期間: 平成27年4月6日～平成28年3月31日  
★開室日時: 月曜日～金曜日 午前9時～午後6時  
(時間外保育は、午前8時から9時/午後6時から8時)

★保育場所: 京都大学男女共同参画推進センター  
★利用資格: 京都大学に所属する学生、研究等に携わる教職員  
(日本学術振興会特別研究員を含む)

★対象乳児: 生後9週目～15ヶ月未満(退室時)の健康な乳児  
★定員: 4月～5月: 3名、6月～8月: 6名、9月～翌3月: 18名  
※平成27年度新入学生・新進研究者、及び離事情により自治体の保育所の4月入所に申し込めなかった方を優先します。  
詳細は男女共同参画推進センターのホームページで!  
<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/index.php>

利用料金(税込、乳児 1 人あたり):

週5日利用: 50,000 円/月、学生 40,000 円/月

週3日利用: 35,000 円/月、学生 28,000 円/月

週2日利用: 25,000 円/月、学生 20,000 円/月

※1) 週3日、週2日の利用は、あらかじめ曜日を指定して、利用するものとします。

※2) 月の途中の入・退室は日割り(1 日 2,500 円/学生 2,000 円(税込))計算も可能です。

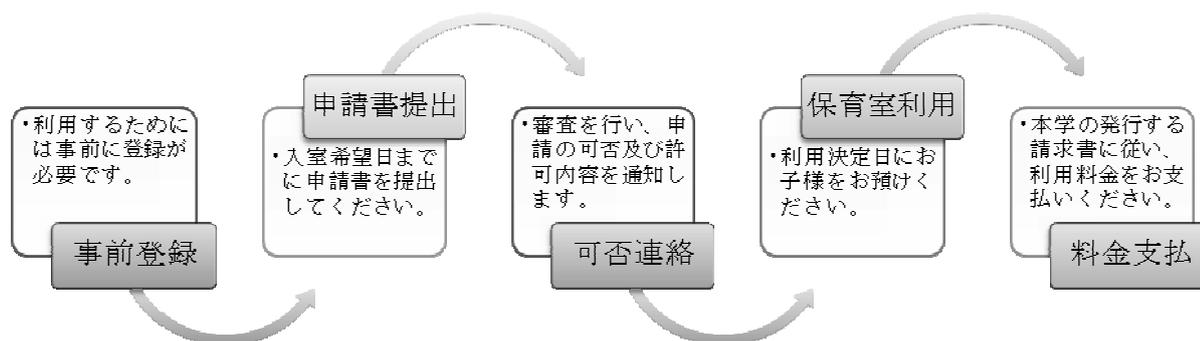
※3) 時間外保育料金は、30 分 1,000 円/学生 800 円(税込、乳児 1 人あたり)です。

※4) 紙おむつ、ミルク、おやつ、食事等は利用料金に含まれませんので保護者が持参してください。

※5) 双子等の複数の乳児が利用する場合の利用料金は、乳児1人当たりについて、所定の利用料金に 80/100 を乗じた額とします。

入室申込: 1 ヶ月単位での申込みとします。但し、入・退室の月はこの限りではありません。

## ◇利用方法



### 1. 事前登録

利用希望の方は、別紙 1「事前登録票」に必要事項を記入のうえ、事前登録を行ってください。事前登録票は、ホームページ (<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp>) からダウンロードし、メールで送付することもできます。

送付先:京都市左京区吉田橋町

京都大学男女共同参画推進センター保育室利用係

メールアドレス:w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

### 2. 保育室利用申請書提出

原則として、入室希望日の 1 ヶ月前までに、別紙 2「利用申請書」・別紙 4「健康・身体状況伺い書」を提出してください。送付先・方法は事前登録と同様です。ただし、特別な事由のある場合は、事前登録票と合わせて、入室希望日の 1 ヶ月以内の提出も受け付けます。なお、申請事項に変更が生じた場合は、別紙 3「利用変更申請書」に変更内容を記載し提出してください。

なお、保育室入室までに自治体が発行する利用不可通知の控えを提出する必要があります。

### 3. 申請結果通知書の交付

受入の可否については書類審査を行って決定し、男女共

同参画推進センターから申請者に「申請結果通知書」によりお知らせします。

### 4. 保育室の利用

保育室の利用については、「保育室利用の手引き」及び「京都大学男女共同参画推進センター保育園入園待機乳児保育室利用規程」を遵守し、利用してください。

### 5. 料金の支払い

利用者は、所定の方法で定められた期日までに、本学が発行する請求書によりお支払いください。

\*利用登録・申請において得た個人に関わる各種情報は、保育室の各業務及びそれらの業務に関する連絡・問い合わせのために利用します。

### 別紙一覧(省略)

別紙 1:「保育園入園待機乳児保育室」利用の事前登録票

別紙 2:「保育園入園待機乳児保育室」利用申請書

別紙 3:「保育園入園待機乳児保育室」利用変更申請書

別紙 4:「保育園入園待機乳児保育室」健康・身体状況伺い書

## ■保護者懇談会

2015年11月25日

保育園入園待機乳児のための保育室を利用している保護者の懇談会を行いました。育児・介護支援事業WG主査 小西由紀子先生の司会進行で、昼食を食べながら、子どもたちの保育室での様子をスライドで見たり、保育士さんから手遊びを教えてもらうなどして、保護者同士の交流を深めました。



## おむかえ保育

### ■利用案内

決まった曜日だけ子どもを保育園に迎えに行けない。急遽夕方に打合せが入り、保育園のお迎えに間に合わない…などで、困っていませんか。そんな研究者・学生のために、男女共同参画推進センターでは「おむかえ保育」を開設します。この保育は、研究等仕事の都合で子どもを保育機関に迎えに行けない保護者に代わり、保育者が子どもを迎えに行き、男女共同参画推進センターで一時保育を行うものです。運営については、保育業者に委託して実施します。ご利用を希望される方は、下記の内容を熟読のうえ、お申し込みください。

### ◇利用条件

利用資格:

京都大学に所属する学生・研究等に携わる教職員(日本学術振興会特別研究員を含む)

保育対象:

生後2カ月から小学3年生までの利用資格者の子ども

利用定員:

子ども5人程度(兄弟、年齢構成により異なる場合がある)

利用料金:

①保育料金920円(税込)/30分～1,360円(税込)/30分(時間帯により異なる)

\* 子ども1人についての料金です。

\* 利用は2時間以上、30分単位で受け付けます。

\* 学生は保育料金のみ、大学が半額を負担します。

②その他利用手数料(状況により異なる)

※交通費・夕食等は別途実費が必要です。

※詳細については別紙3「おむかえ保育利用料金表」をご覧ください。

#### 1. 事前登録(無料)

別紙1「おむかえ保育事前登録票」に必要事項を記入のうえ、利用希望日の2日前の15時までに事前登録を行ってください。登録事項に変更が生じた場合は、再提出してください。

#### 2. 利用方法

##### (1)利用申込(FAX)

利用希望日の2日前の15時までに、別紙2「おむかえ保育申込票」を、センターにFAX(075-753-2436)にて申込みをしてください。

事前登録票を2日前までに提出済みで、特別な事由のある場合は、利用希望当日の15時まで申込を受け付けます。ただし、利用希望当日の申込みの場合は、保育者手配の都合によりご希望に添えない場合がありますのであらかじめご了承ください。



おむかえに行く

男女共同参画推進センターで保育します

子どもを保育機関に迎えに行くことのできない研究者に代わって、シッターが子どもを迎えに行き、センターの保育室にて保育を行います。

利用日時: 日曜日から金曜日 午後5時から10時  
利用資格: 本学に所属する学生、研究等に携わる教職員  
利用定員: 生後2ヶ月目～小学3年生までの子ども、5名

登録と申込が必修です。有料です。(学部学生・院生は半額補助があります。)

詳細は、男女共同参画推進センターのホームページを参照してください。  
(URL) <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp> (TEL) 753-2437

おむかえ保育

##### (2)利用申込受付連絡

別紙2の申込票の受信を確認後、センターから、指定された連絡先に受付確認の連絡をします。

##### (3)利用可否連絡

申込日の翌開室日に、センターから利用の可否を電話連絡します。当日申込の場合は、16:30 までに利用の可否を電話連絡します。

##### (4)保育者との打合せ

保育者手配が可能な場合、利用前日(当日申込の場合は当日)に保育者から保護者に電話がありますので、迎えに行く保育園の場所、方法、夕食の有無、実費支払いの金額等について、トラブルにならないよう詳細に打ち合わせを行ってください。

子どもの夕食は、保護者が用意するか、保育者に購入を希望する場合は、コンビニエンスストア等で購入できるもの(おにぎ

り、パン等簡易なものに限る)を指定してください。

乳児のミルク、離乳食(レトルト食品など)、哺乳瓶、おむつ、着替え等は保護者が用意してください。

#### (5)利用

利用にあたっては、「京都大学男女共同参画推進センターおむかえ保育利用規程」を遵守してください。

お子様が当日熱のある場合や、伝染病疾病の疑いのある場合は利用できません。この場合、キャンセル料が発生しますので、あらかじめご了承ください。

### 3. 料金の支払い

保護者は、所定の方法で定められた期日までに、本学が発行する請求書によりお支払いください。振込手数料は、保護者負担となります。

利用料金①、②に掲げる以外の料金(交通費、夕食費等)については、子どもをセンターに迎えに行った際、実費額を保育者へお支払いください。

#### ◇保育について

保育場所：京都市左京区吉田橋町 京都大学男女共同参画推進センター保育室

#### ◇補償制度について

万一の事故の場合には、施設に起因する損害は国立大学法人総合損害保険、業務に起因する損害は保育委託業者の賠償責任保険が適用されます。

○事前登録票、申込票は、ホームページ

(<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp>)からダウンロードできます。

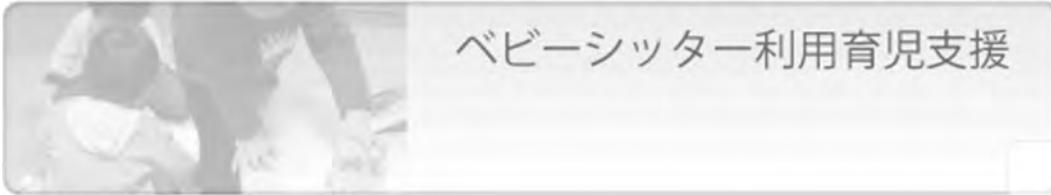
○事前登録及び利用申込において得た個人に関わる各種情報は、おむかえ保育の各業務及びそれらの業務に関する連絡・問い合わせのために利用します。

別紙一覧(省略)

別紙1:「おむかえ保育事前登録票」

別紙2:「おむかえ保育申込票」

別紙3:「おむかえ保育利用料金表」



京都大学男女共同参画推進本部では  
ベビーシッター利用育児支援を行っています。



京都大学男女共同参画推進本部では、本学における教職員の仕事と子育ての両立支援を目的として、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッターによる在宅保育サービス事業を行う者（以下「ベビーシッター事業者」という。）が提供するサービスを利用した場合に、その利用料金の一部を助成しています。

対象事業は以下の3つです。

- ①ベビーシッター派遣事業
- ②双生児等多胎児家庭育児支援事業
- ③産前産後休業時育児支援事業

#### 【注意事項】

○割引券発行枚数の上限は、1家庭につき①：30枚、②：2枚、③：4枚まで。なお、予算の都合上、大学全体の使用状況による1家庭あたりの使用可能枚数の増減があります。

○初回の利用方法

1 ベビーシッター事業者（webサイト）もしくは別紙に掲載されている「割引券取扱事業者」から選んだベビーシッター事業者と事前に請負契約をする。

2 下記の必要書類を人事課職員掛まで直接お持ちいただくか、学内便等でお送りください。

- 1) ベビーシッター利用育児支援事業初回利用申込書
- 2) ベビーシッター事業者との利用契約書（請負契約書）の写し

※以下のことが明記されているかご確認ください。

- ・ベビーシッター事業者の住所・名称・代表者氏名
- ・利用者の住所・氏名
- ・サービス内容・料金
- ・その他必要な事項

3) その他必要書類

①については、配偶者の在職証明書等（配偶者が本学教職員の場合にはその旨を申告）

②については、子供の年齢・人数がわかる書類（扶養に入っている場合にはその旨を申告）

③については、産前・産後休暇中であることがわかる書類

3 学内便等で割引券が届きましたら、利用者記入欄に記入の上、利用時にベビーシッターに割引券を渡してください。  
ベビーシッターが「報告用半券」を返却しますので、必ず受け取ってください。

4 割引券利用後の「報告用半券」は、翌月5日までに総務部人事課職員掛へ学内便等で提出してください。

○2回目以降の利用方法

1 割引券の発行依頼を E メールにて、人事課職員掛までお送りください。

-----  
ベビーシッター育児支援割引券発行依頼（2回目以降）

所属・職名：氏 名：

利用月：平成 年 月 希望枚数： 枚

-----  
2 割引券が届いた以降は、初回の利用方法3、4と同じです。

○利用するベビーシッター事業者を変更した場合

ベビーシッター事業者変更届を、E メールに添付して、人事課職員掛までお送りください。なお、変更届の提出と割引券の発行依頼を同時に行う場合は、変更届に発行希望枚数等を記載してください。

○制度自体に関しましては、公益社団法人全国保育サービス協会 HP をご覧ください。

担当：男女共同参画推進本部（総務部人事課職員掛）

（内）吉田 2284

E-mail [g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

### Ⅲ 「病児保育」事業

# 病児保育事業ワーキンググループ活動報告

京都大学男女共同参画推進センター・病児保育室「こもも」(以下、病児保育室)は、京都大学に在籍する全ての教職員・学生の子供(生後6ヶ月から小学校3年生)を対象とし、急な疾病により保育園／幼稚園、小学校などに通うことの出来ない病中病後児の保育を行っている。事前登録制による運用で、登録者数はのべ811名、うち平成27年度の新規登録者は79名と年々増加している(平成27年12月末現在)。定員5名(感染隔離室1名を含む)であり、平成27年度は405名の利用があった(平成27年12月末現在)。利用状況は感染症の流行に大きく左右されており、定員を上回る利用希望のために断わらざるを得ない日もしばしばみられるが、利用者の感想としては概ね良好である。また、京大病院オープンホスピタルやホームページ等を通じての広報活動も継続して行った。

保護者からの保育許可基準の引き下げを求める要望を受けて、京都大学医学部附属病院感染制御部の承諾を得て平成27年6月より利用基準を変更したところ、利用率は増加傾向にある。また、予約時間や事前登録方法の見直しも行った結果、より利用しやすくなったという声をいただいている。感染対策上、困難な点もあるが、育児を行いつつ、仕事や学業を継続することの可能な環境を実現するため、今後も引き続きよりよい運営方法を検討する必要がある。



病児保育事業WG主査 足立 壮一

## ■H27 活動記録

- ・10月31日(土) オープンホスピタルにポスター参加

## 病児保育室「こもも」

病児保育室は、2006年2月に附属病院内に開室しました。

2007年3月には、病児保育室登録者に対して利用者の声を聞くためのアンケート調査を行い、その結果出された意見に基づいて、2008年より、学生割引(半額)を導入、病児保育相談窓口の開設、お昼の食事メニューを増やす、ホームページに病児保育室のスタッフの紹介や保育室の紹介を写真入りで行うといった改善を行ってきました。

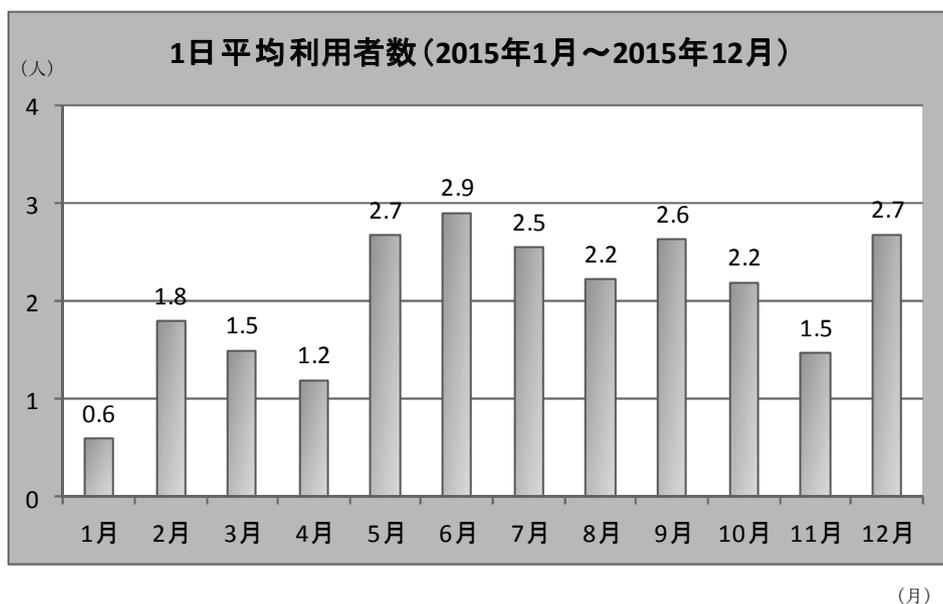
また、2009年2月には、感染隔離室の設置について、アンケートによる学内のニーズ調査を行い、2009年12月に病児保育室内に、感染隔離室を設置しました。

### ■病児保育室利用状況

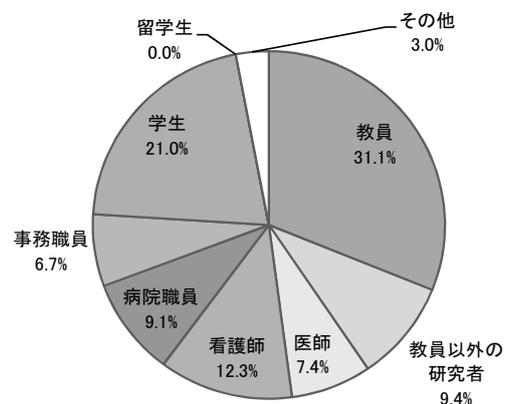
1.利用実績(2015年1月～2015年12月)

1)利用者数

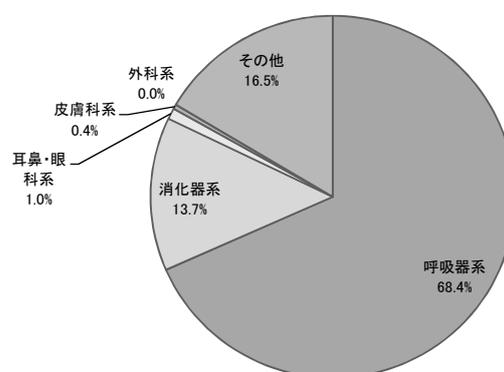
| 月   | 人数 | うち隔離室利用者 |
|-----|----|----------|
| 1月  | 11 | 0        |
| 2月  | 34 | 4        |
| 3月  | 34 | 6        |
| 4月  | 25 | 5        |
| 5月  | 48 | 7        |
| 6月  | 61 | 3        |
| 7月  | 56 | 0        |
| 8月  | 40 | 3        |
| 9月  | 50 | 1        |
| 10月 | 46 | 2        |
| 11月 | 28 | 1        |
| 12月 | 51 | 3        |



2) 利用者の職種別分布



3) 利用疾患別延べ人数



## ■こもも日記

こももの利用基準が変更になりました【こもも日記】(2015年6月29日)



### 病児保育室の利用基準が変わりました。



今まで、お熱が BT38.5℃以上続く場合などご利用出来なかったり、病児保育室で高熱になるとお迎えに来ていただいたりしていましたが、お熱の高さで利用基準を決めるのではなく、子どもさんの症状に応じて受け入れ出来るようになりました。

また、今まで利用できなかった病気、

- ・マイコプラズマ感染症
- ・RSウイルス感染症
- ・溶連菌感染症
- ・ヘルパンギーナ
- ・手足口病
- ・胃腸炎



と診断された場合でも、症状・状態に応じて利用できることになりましたので、利用時ご相談ください。

また、不明な点がある場合は病児保育室に直接ご相談ください。

利用時間・事前登録方法が変更になりました【こもも日記】(2015年7月2日)



### 利用予約時間・事前登録方法が変更になりました。



病児保育室利用の際は、事前登録制（無料）・予約制となっています。

原則、利用希望者は前日 16 時まで「利用登録票」に下記いずれかの証明書を添えて登録していただく必要がありましたが、

前日 16 時まで登録がまだの方でも、事前に病児保育室にご相談ください。

- ・提出していただく証明書

職員証（IC カードは不可）／学生証／共済組合員証／労働条件通知書

利用予約は、今まで前日 16 時 30 分から 19 時でしたが、  
前日 12 時 00 分から 19 時に変更になりました。  
当日は今まで通り、  
当日 8 時から 16 時 30 分までです。

利用の際には、事前にかかりつけ医等で「診察医連絡票」をもらう必要がありますのでよろしくお願いします。

何か不明な点があればいつでもご連絡くださいね。



## 今年の夏 手足口病が大流行しています【こもも日記】(2015 年 7 月 29 日)



### 今年の夏は手足口病が大流行です！！

#### ○ 手足口病とは ○

口の中や手足などに水疱性の発疹が出る、ウイルスの感染によって起こる感染症です。子どもを中心に夏に流行します。

#### 症状

感染してから 3～5 日後に、口の中、手のひら、足底や足背などに 2～3mm の水疱性発疹がでます。

発熱は約 3 分の 1 にみられますが、高熱が続くことはほとんどありません。

数日間に治る病気で殆どの場合自然治癒しますが、まれに無菌性髄膜炎を起こすこともあるので、高熱、頭痛、嘔吐が続いたり意識障害が疑われる場合は早めに受診してください。

#### 感染経路

飛沫感染・接触感染・糞口感染（便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染すること）です。



#### 予防するには..

治った後でも、比較的長い期間（1 ヶ月弱ほど）便などからウイルスが排泄されることがあります。また、感染しても発病はせずウイルスを排泄している場合もあります。

## 予防策

- ☆ 子どもでもしっかりと手洗いをしてください。  
トイレの後は石鹸と流水で丁寧に手を洗います。
- ☆ オムツを交換する時には、お母さんが交換後すぐに石鹸と流水で  
丁寧に手洗いを行ってください。
- ☆ タオルは共有せず、個人使用としましょう。



## 8月になりました【こもも日記】(2015年8月7日)



### 8月になりました



まだまだ夏かぜが流行しています。

夏かぜは、エンテロウイルス属やアデノウイルスが原因であることが多い  
病気です。

夏かぜでは、冬のかぜによくみられる鼻水や咳はあまりみられず、むしろ高熱やのどの痛みを伴うことが多く、腹痛や下  
痢・嘔吐などの胃腸症状がみられることもあります。

夏かぜの代表は、ヘルパンギーナ・手足口病・咽頭結膜熱（プール熱）です。

○高熱に対しては、貼付型の冷却剤や解熱剤を使用し、  
苦痛を和らげてあげてください。

○水分不足は脱水になる危険性を高めますので、少しずつでも水分をとり、  
室温や湿度を調節しながら快適にすごせるようにしてください。

夏は、暑さのために良質の眠りが得られなかったり、食欲が落ちるなど  
体力を落とすことが多いので、体力を維持するよう生活リズムを崩さないようにしりきりしましょうね。





## 秋から冬にかけて、RSウイルス感染症やマイコプラズマ肺炎、インフルエンザが流行してきます。

今回は、RSウイルスについてお話ししたいと思います。



◎ RSウイルス とは。。



少し難しいですが、

RSウイルスのRSは「Respiratory Syncytial (=呼吸器の合胞体)」の略。

ウイルスが感染すると、呼吸器の細胞が腫れて1つになるため、そう名づけられました。少し長い名前ですが、「パラミクソウイルス科ニューモウイルス属」

のウイルスで、喉や気管支などの呼吸器に感染します。

乳幼児がかかると肺炎など重症化のおそれがあります。特に生後6ヶ月以内の赤ちゃんが感染すると、重症化する確率が高くなり場合によっては入院が必要になることがあります。

### 症状

症状はカゼに似ていますが、

一般的な症状：水のような鼻汁      重症化した場合の症状：ひどい咳

咽頭痛

喘鳴

咳

陥没呼吸

発熱

呼吸困難

- 感染経路……飛沫感染、手指を介した接触感染。最初に鼻に感染することが多いです。
- 潜伏期間……感染してから発症するまでの潜伏期間は2~8日。典型的には4~6日。
- 感染期間……ウイルス排泄期間は7~21日と長いので、感染が広がりやすいです。

汚染されたカウンターでは6時間、手についたウイルスは約30分感染する力を持っているため、かなり感染力が強いウイルスと言えます。

## 予防

手洗いやマスクの着用。子どもたちが日常で触れるものを消毒用エタノール、次亜塩素酸ナトリウム、ポビドンヨードなどで消毒、除菌（おもちゃやドアノブなど）する。

家族みんなで予防の意識を持つことが大切です！！



### こももよりお知らせ【こもも日記】(2015年10月9日)



#### だんだんさむくなってきました こももよりお知らせ

秋晴れの心地よいさわやかな季節となりましたが、朝夕はめっきり涼しく少し肌寒くなってきました。

衣類で調節したり、手洗い・うがいで風邪の予防を行っていても、お熱がでたり、鼻水や咳がでたり体調をこわしやすくなりますね。。



さて、病児保育室ではキャンセルの連絡がなくて、他のお友だちが利用できない時が多くなってきています。

キャンセル待ちのお友だちやたくさんのお友だちに利用していただけるように、予約をされた方でキャンセルをされる方は、キャンセルの連絡を8:00~8:15 くらいの間には必ずしてもらいましょう。

体調の悪い時は、みんなで協力しながら、頑張って乗り切り



### インフルエンザが流行る季節になってきました【こもも日記】(2015年11月5日)



#### 子どものインフルエンザ

インフルエンザが流行る季節になってきました。

今回はインフルエンザについて紹介します。



インフルエンザウイルスは感染力がとても強いため、会社や学校などで集団感染する傾向が強いという性質があります。

### 感染経路

主に飛沫感染ですが、接触感染・空気感染経路でも体内に侵入します。

### 潜伏期間

およそ1日～3日で、その後に急に症状が現れます。

### 症状

症状は3日～5日ほど続いた後、治癒に向かいます。

- 38℃以上の高熱（上がらない場合もあります）
- 関節痛・筋肉痛・全身のだるさ・頭痛  
（子どもの場合、症状がはっきりしないこともあります）
- やや遅れて鼻汁・咳、下痢

風邪とは違い、子どもが感染すると重症化したり合併症を引き起こす恐れがあります。

- 熱性けいれん
- 肺炎
- インフルエンザ脳炎・脳症
- 気管支炎
- 中耳炎

### 予防

- 手洗いの実施（特に外出後の手洗い、うがい）
- 流行前のワクチン接種（乳幼児がおられる家族はパパ・ママから感染することがあるのでパパ・ママが積極的に予防接種をうけてください）
- 適度な湿度のコントロール（室温は20℃前後、湿度は50～60%）
- 人ごみや繁華街への外出を控える
- 規則正しい生活リズムを心がける

インフルエンザにかからないように心がけることが大切です。

赤ちゃんは家族から感染するケースが多いため、家族みんなで予防策を実施しましょうね。

## おもちゃ紹介① ～アンパンマンのジュース屋さん～



「こもも」にあるおもちゃを  
紹介していきたいと思います。

まず最初は登場回数ナンバーワン  
の「アンパンマンのジュース屋  
さん」です。

下は1歳から上は小学生まで  
ほとんどの年齢の子に人気のある  
おもちゃです。

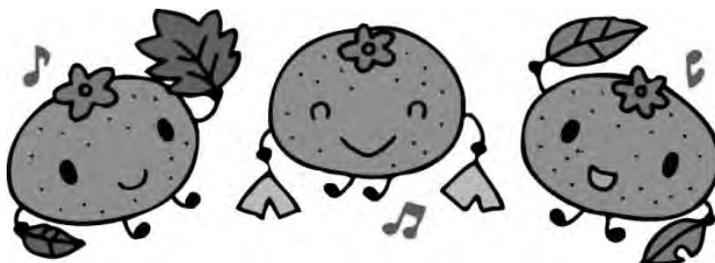


小さなコインを右の入り口から入れ  
好きなジュースのレバーを下げたら  
下の取りだし口からジュースが出て  
くる・・・というそれだけのおもちゃですが、よく遊んでくれます。

「コインを入れる→ジュースが出てくる」という、その運動性がいいのかもしれないね。

1歳の子はコインを持ち入り口にいれる・・・ところから一苦労なのですが、それで満足する子もあり、ジュースが出る時のアンパンマンの声を喜ぶ子もあり、できたジュースを飲むまねをして喜ぶ子もあり・・・いろいろな姿がみられます。

アンパンマンシリーズの中でも一押しのおもちゃですが、残念ながら同じタイプはもう発売されていないようです。



## おもちゃ紹介② ～ビー玉ころがし～

「こもも」にあるおもちゃを  
紹介していきたいと思います。

2回目の紹介は今年度新しく購入してもらった、ビー玉転がし「クアド  
リラ」です。小学生や幼児にはもちろん人気がありますが、小さい子ども  
たちも看護師や保育士と一緒に組み立ててビー玉を転がしたり、その様子  
を見たり、とても楽しんでます。

(誤飲を防ぐ為、乳児だけのときは出さない。また幼児が遊んだ後のビー  
玉の数の確認を徹底しています。)

このビー玉転がしは、8種類のブロックとレールの組み合わせでいろん  
なコースが作れます。とても楽しめるおもちゃだったので、先日もう一つ、  
ビー玉が通ると鉄琴パーツのソ・ラ・シ・ド・レ・ミ・の音が出る、サウ  
ンドレールセットを買い足して、また遊びの幅が広がりました。



一緒にビー玉の数を数えようね」とおかつげも楽しいです。



シンプルなくり返し遊びに思えますが、遊びの中に子どもたち  
が夢中になる要素がたくさんあります。次はこうしてみよう、この  
パーツを使いたいなど、大きい子たちは、自由自在に自分で形を考  
えていきます。「もっとやりたい」「おやつの後もやりたい」と繰り返  
し楽しんでます。

小さい子どもたちは、ビー玉を集めてさわることだけでも楽し  
いのですが、幼児や保育士と一緒にビー玉を入れること、その動き  
を目で追ったり、鉄琴のきれいな音色を楽しんでいます。

次にまた病児保育室に来た時、覚えていて「ビー玉したい」と言  
う子もいて、「小さい子たちが、口に入れない



ように一

## 「おなかのかぜ」急性胃腸炎とは。。。

感染性の胃腸炎には、「ウイルス性胃腸炎」と「細菌性胃腸炎」がありますが、  
秋から冬にかけて子どもに流行する感染性胃腸炎のほとんどがウイルス性です。

ロタウイルス・ノロウイルス・アデノウイルスによる急性胃腸炎が主です。





食事について



急性胃腸炎時の水分摂取・食事



嘔吐が続いている時は、1時間くらい食事は控え胃腸を休める時間を作りましょう。

脱水症が心配になったり、子どもさんが水分を欲しがるので直ぐにでも水分を与えてあげたくなりますが、胃腸の消化吸収能力が悪くなっている状態では水分を摂取してもあふれるように嘔吐してしまいます。

そこで。。

対応として、嘔吐した場合、まずは様子を見ながら少量ずつ経口補液（市販では経口補水液やイオン飲料など）をしていきましょう。しかし、嘔気・嘔吐が強く経口で飲むことが困難な場合は、胃腸の働きを良くする吐き気止めの座薬を使用し、30分から1時間は胃腸を休め、その後、少量頻回の経口補液をしていきましょう。

嘔吐や下痢が続くと、体の中から大量の水分と塩分を失います。

また、糖分を入れることで吸収効率がよくなるので、経口補液には、塩分・糖分が含まれている水分を摂取しましょう。

水分摂取の飲ませ方ですが、飲みたいだけ飲ませるのではなく、まずは1回量をティースプーン1杯ずつ、1口与えたらしばらく休憩して吐かなければまた1杯と根気よく時間をかけて飲ませてあげてください。

水分を摂取しても嘔吐しなければ、固形物（お米・パン・うどんなどの穀類）を補給しましょう。しかし、胃腸の働きはまだ完全に回復していないので、少量ずつ頻回摂取にしてください。

それでも吐き続ける場合は。。

☆脱水症の程度が強くなる為、点滴による水分補給が必要となってきます。

☆ウイルス性胃腸炎以外の病気の可能性があります。

→ 自宅で我慢しないで、医療機関を受診して下さい。



感染予防

- 嘔吐物や便を処理する時は使い捨ての手袋やマスク、エプロンを着用しましょう。ウイルスが含まれる嘔吐物や便に手袋で直接手が触れないように、また空気中に飛び散ったウイルスを吸いこまないようにマスクをして処理します。

- 短時間の処理と汚物を入れたゴミ袋の口を縛る。  
嘔吐物がついた服やシーツ等の布物は、乾燥するとウイルスが飛び散りやすくなるので  
早めに汚れを落として他の洗濯物と分けて洗濯し、塩素系の漂白剤で除菌します。
- 食器を共有しない。
- 手洗い・うがい、マスクは必ずしましょう。
- 手に嘔吐物や便がついた時は、しっかり手洗いしアルコール消毒しましょう

### おもちゃ紹介③【こもも日記】(2016年1月7日)

#### おもちゃ紹介③ ～アンパンマンのパン屋さんとレジスター～



これもアンパンマンシリーズのおもちゃです。

アンパンマンのパン屋さんとお買いもののレジスター。「お買いものごっこ」はいつも子どもたちに人気があります。

パンを並べたり、かまどで焼いたり、ジュースを入れたり。

レジスターはバーコードをかざすと、ピッと音がして「アイスクリーム100えん」「ジュース150えん」と読み上げてくれます。もっと最新のものは、カードでピッとする機能もあるようです！

あまり教えなくてもピッピッと商品をかざしているので、子どもはおとなのすることをよく見ているなあと感じます。

ごっこ遊びの中で、数をかぞえたり物を並べたり、言葉でやりとりしたり、ゆずったりゆずられたり……。いろいろなことを学んでいます。



■オープンホスピタル 2015

10月31日(土)、京大病院でオープンホスピタルが開催され、病児保育室「こもも」がポスター参加しました。



**10:00-16:00** 入場無料 場所/当院外来棟アトリウムホール他

**京大病院長講演**  
「生活習慣病予防に  
関する講演」



開催時間/13:30-14:10  
講演者/稲垣 暢也

**パネル展示**  
場所:外来棟アトリウムホール  
▶各病棟の取り組み ▶各部門の取り組み

**体験コーナー**  
※整理券は当日配布となります。

場所:外来棟アトリウムホール

- ▶医療に活かされる放射線検査と治療  
▶血液型を調べてみよう!  
(整理券制)
- ▶インボディによるメタボチェック  
(整理券制)
- ▶筋力テスト  
あなたの筋力を測定してみませんか?
- ▶医療シミュレーター体験
- ▶一次救命処置法
- ▶ハンドマッサージ(実演)、  
カバメイク(実演)
- ▶キッズナースコーナー  
子供たちも白衣を着てハイポーズ!

**就職案内**

- ▶看護部  
就職相談コーナーの常設、  
病棟見学のご案内
- ▶放射線部  
対象:診療放射線技師学生のみ  
MRI・放射線治療装置・マンモグラフィ  
(乳房撮影装置)の見学  
[1回目]11:00~  
[2回目]13:00~
- ▶検査部  
対象:臨床検査技師を目指す学生  
[1回目]11:00~12:30  
[2回目]14:00~15:30

「**京大病院 寄席**」  
(予約不要)

開催時間/15:00-16:00  
出演者/桂 雀三郎 桂 びらび

「ヨーテル食べ放題」で  
おなじみ、歌う落語家  
手品から落語まで  
何でもやります!!



**ミニコンサート**  
場所:エントランスホール  
開催時間/12:00~12:30  
「かるがも♪あんさんぶる♪」  
京大職員・学生による混声合唱

**販売コーナー**  
場所:ホスピタルストリート  
▶書籍販売コーナー  
▶総長カラーなど京大グッズの販売



国立大学法人[特定機能病院]  
**京都大学医学部附属病院**  
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54 ☎075-751-3005  
<http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp> | 京大病院





# 京都大学男女共同参画推進センター 病児保育室 こもも



## I. 病児保育室とは

「京都大学男女共同参画推進センター病児保育室」(以下、京大病児保育室)は、京都大学教職員・学生の子もが、病中・病後のため幼稚園・保育園・学校へ登園・登校できない時、親が仕事や研究を休むことなく、子どもの保育ができる環境を提供する施設です。京大病児保育室では、京都大学医学部附属病院と連携し、看護師・保育士が常駐する安心できる環境において、病児の保育を行っています。

## II. 病児保育室の利用基準について

今まで、お熱がBT38.5℃以上続く場合などでご利用出来なかったり、病児保育室で高熱になるとお迎えに来ていただいたりしていましたが、今年の6月より、お熱の高さで利用基準を決めるのではなく、子どもさんの症状に応じて受け入れ出来るようになりました。

ただ、病児保育室が病院内に併設されているという環境にあるため院内感染の可能性を考慮すると、下記の感染症と診断された場合は利用許可が変わってきます。

- 麻疹：発疹を伴う発熱が解熱後3日を経過すれば利用可
- 風疹：発疹が消失すれば利用可
- 水痘：全ての水泡が痂皮化すれば利用可
- 流行性耳下腺炎：耳下腺などの腫脹発現後5日を経過すれば利用可
- インフルエンザ感染症：解熱後24時間経過すれば利用可  
(24-48時間は隔離室)
- A型ノロウイルス感染症：発熱/咽頭痛/結膜炎症状が軽減すれば利用可  
(解熱後2日までは隔離室)
- B型ノロウイルス/ノロウイルス性胃腸炎：下痢・嘔吐症状が消失すれば利用可

しかし、今まで利用できなかった病気、

- ・マイコプラズマ感染症
- ・RSウイルス感染症
- ・溶連菌感染症
- ・ヘルパンギーナ
- ・手足口病
- ・胃腸炎

と診断された場合でも、症状・状態に応じて利用できることになりましたので、利用時ご相談ください。

## III. 感染隔離室

保育室には、通常の保育室から隔てられたフィル付き陰圧換気空調と室内に上下水道を整備した隔離室があります。

また、隔離室も入室基準の見直しを行い、隔離室利用基準が変更になりました。

- 変更前→・38.5℃以上の発熱を呈するが、感染症名が確定していない状態  
 ・下痢嘔吐を呈する急性胃腸炎  
 ・咳や咽頭痛があるがマスクの着用が困難な急性上気道炎・気管支炎

変更後→・伝染性疾患罹患後、症状軽快し、登園(校)できるまでの期間。

- ・その他、医師により隔離が必要と判断される場合。  
(子どもの利用が複数で、部屋を分けた方が良いと判断される場合に使用する。  
また、利用中に急な激しい下痢や嘔吐が始まった場合など。)

## IV. 保育について

- 個々の病気の状態に合わせた睡眠・休息・食事で、看護及び保育を提供しています。年齢に応じて遊びの内容を工夫し、楽しく過ごせるように配慮しています。
- スタッフが1対1に近い形で関わることで安心感や信頼関係を早期に築けるように心掛けています。
- 保育室担当医や看護師が常駐している環境のため、体調に変化があった場合は迅速に対応ができます。

## いろいろなおもちゃ



こももハウス

みんなが好きな  
あんぱんまんのおもちゃ



木の電車

こどもが喜んで「こもも」に行きます。具合が悪いと「こももに行く」とかいうんですよ。

というようなうれしい声をいただいています。



小学生から赤ちゃんまで一緒に遊んでいます

## IV 「就労支援」事業

# 就労支援事業ワーキンググループ活動報告

本 WG の主要活動である「研究・実験補助者雇用制度」については、育児や介護期にある研究者の研究継続支援という目的に即して、アンケートなどに示される利用者の声も考慮しながら、毎年、少しずつ改良を加えてきている。本年度中の実績は、第1期で応募者 19 名、利用者 16 名、第2期で応募者 26 名、利用者 16 名と、時期により変動はあるもののここ数年増加傾向にある。予算の制約のなかで、応募者が困難な状況にあることがわかりながら十分な支援ができないケースも増えてきている。また、ここ数回の傾向として、特任教員・研究員など比較的短い任期で京都大学に所属している研究者、特に外国人研究者からの応募が増加している。不安定な雇用、慣れない土地、家族からの援助も望めない、という状況のなかで育児や介護と研究の両立に苦慮されている男女研究者も多い。



雇用形態の変化や教員のダイバーシティ拡大に適応した制度とその運用の見直しも、制度全体の拡充とともに今後の課題である。

就労支援事業WG主査 佐藤 亨

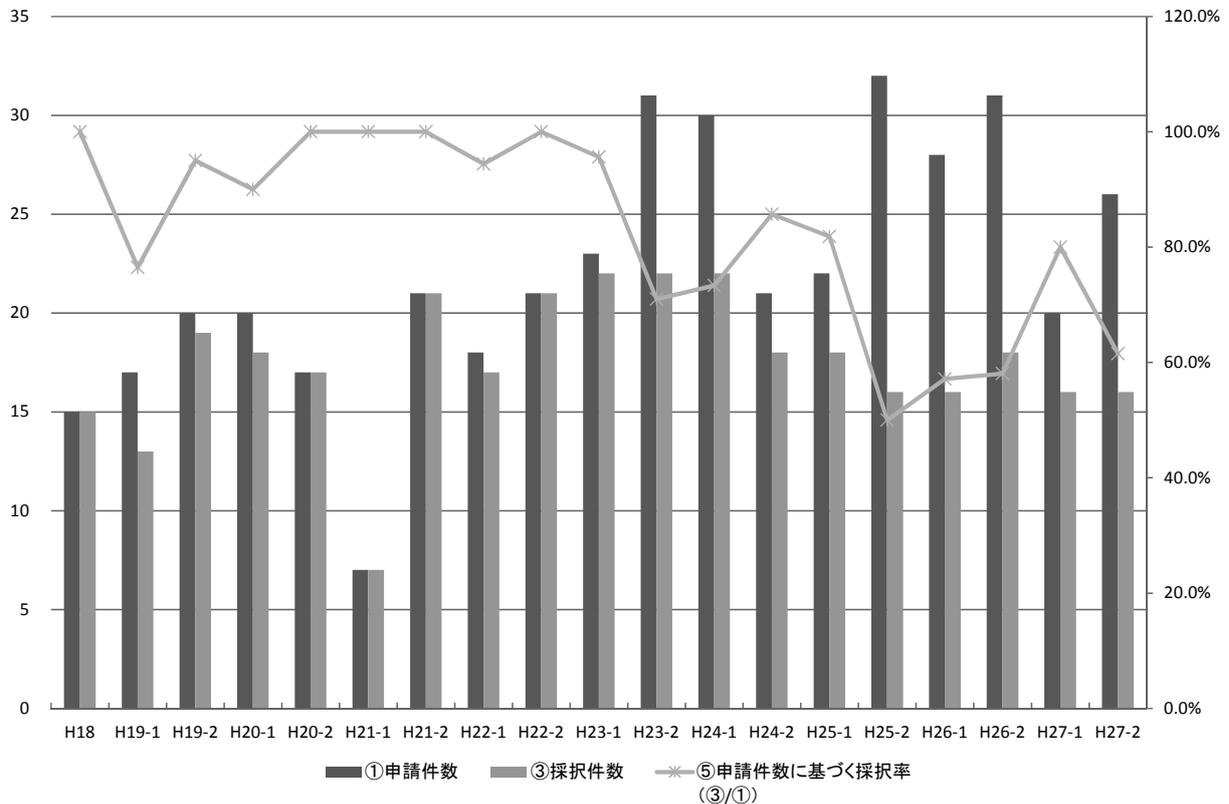
## ■H27 活動記録

- |           |                             |
|-----------|-----------------------------|
| 5月25日(月)  | 第38回就労支援事業ワーキンググループ会議       |
| 6月5日(金)   | 平成27年度2期 就労支援事業による支援希望者募集開始 |
| 7月15日(水)  | 第39回就労支援事業ワーキンググループ会議       |
| 11月20日(月) | 第40回就労支援事業ワーキンググループ会議       |
| 12月15日(火) | 平成28年度1期 就労支援事業による支援希望者募集開始 |
| 2月1日(月)   | 第41回就労支援事業ワーキンググループ会議       |

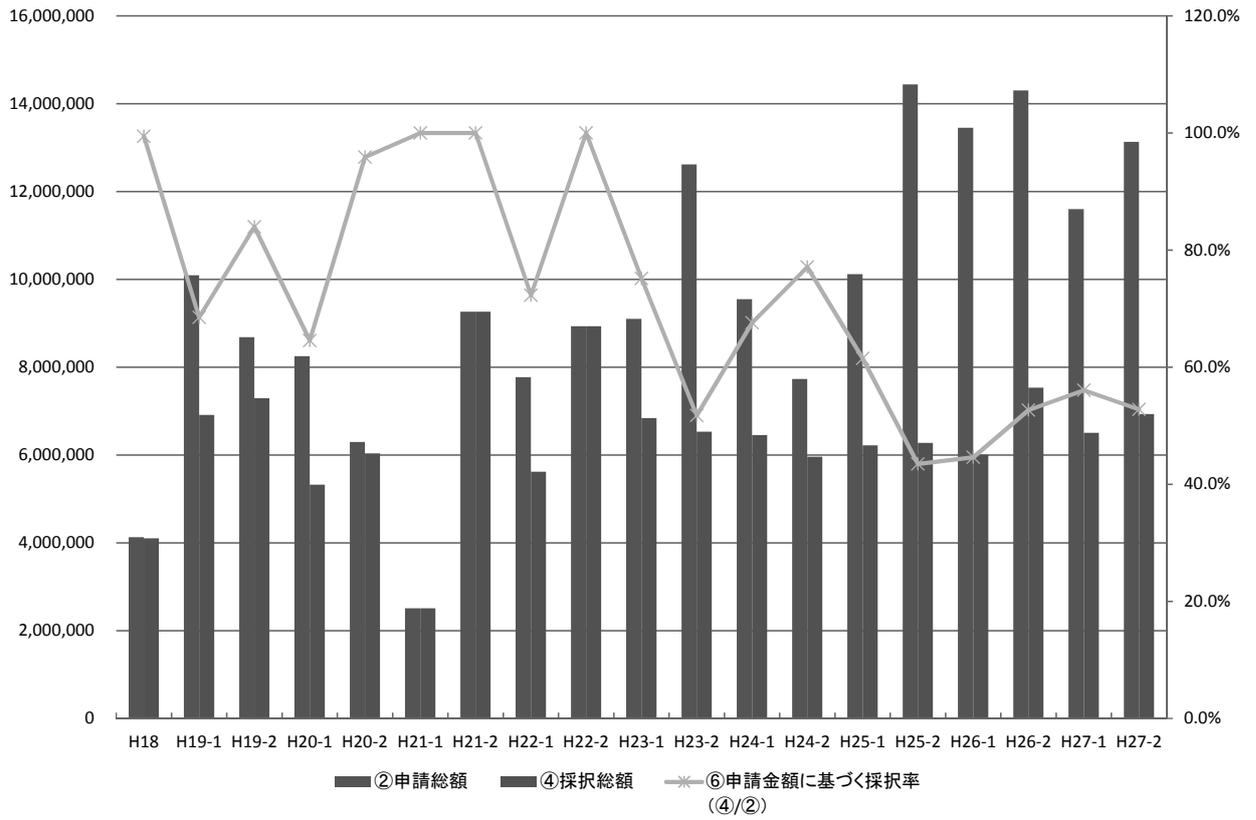
## 研究・実験補助者雇用制度 利用状況

| 期 間   | ①申請件数 | ②申請総額      | ③採択件数 | ④採択総額     | ⑤申請件数に基づく採択率<br>(③/①) | ⑥申請金額に基づく採択率<br>(④/②) |
|-------|-------|------------|-------|-----------|-----------------------|-----------------------|
| H18   | 15    | 4,124,400  | 15    | 4,100,400 | 100.0%                | 99.4%                 |
| H19-1 | 17    | 10,091,600 | 13    | 6,911,800 | 76.5%                 | 68.5%                 |
| H19-2 | 20    | 8,683,500  | 19    | 7,291,000 | 95.0%                 | 84.0%                 |
| H20-1 | 20    | 8,246,400  | 18    | 5,321,200 | 90.0%                 | 64.5%                 |
| H20-2 | 17    | 6,294,300  | 17    | 6,035,100 | 100.0%                | 95.9%                 |
| H21-1 | 7     | 2,505,000  | 7     | 2,505,000 | 100.0%                | 100.0%                |
| H21-2 | 21    | 9,261,000  | 21    | 9,261,000 | 100.0%                | 100.0%                |
| H22-1 | 18    | 7,772,500  | 17    | 5,617,500 | 94.4%                 | 72.3%                 |
| H22-2 | 21    | 8,932,500  | 21    | 8,932,500 | 100.0%                | 100.0%                |
| H23-1 | 23    | 9,100,000  | 22    | 6,837,500 | 95.7%                 | 75.1%                 |
| H23-2 | 31    | 12,617,500 | 22    | 6,530,000 | 71.0%                 | 51.8%                 |
| H24-1 | 30    | 9,545,000  | 22    | 6,450,000 | 73.3%                 | 67.6%                 |
| H24-2 | 21    | 7,729,000  | 18    | 5,957,500 | 85.7%                 | 77.1%                 |
| H25-1 | 22    | 10,115,000 | 18    | 6,219,400 | 81.8%                 | 61.5%                 |
| H25-2 | 32    | 14,440,000 | 16    | 6,275,000 | 50.0%                 | 43.5%                 |
| H26-1 | 28    | 13,452,500 | 16    | 6,002,500 | 57.1%                 | 44.6%                 |
| H26-2 | 31    | 14,300,000 | 18    | 7,528,750 | 58.1%                 | 52.6%                 |
| H27-1 | 20    | 11,600,018 | 16    | 6,503,000 | 80.0%                 | 56.1%                 |
| H27-2 | 26    | 13,128,998 | 16    | 6,931,000 | 61.5%                 | 52.8%                 |

## 研究・実験補助者制度の申請件数等



## 研究・実験補助者制度の申請金額等



## ■研究・実験補助者雇用制度 アンケート報告

対象者:平成 26 年度第 2 期～平成 27 年度第 1 期 研究・実験補助者雇用制度利用者 34 名

形式:実績報告と同時にメールにて依頼。

回答率:100%

### 1. 「研究・実験補助者雇用制度」を利用することで、どのようなことが可能になったか

・神経細胞と妊娠したマウス等の準備をしてもらうことで、安定したマウス海馬の神経細胞培養のための、実施計画を最適化し、神経細胞の表現型の解析の効率化を図ることができました。大変時間と労力のかかる作業ですが、サポートをいただいたことで、滞りなく行うことができました。

・実験補助により、研究に必要な実験と解析を効率的に済ませることができ、おかげで自宅に帰って家族の世話をしてから夜遅くまで研究に時間を割かず済むようになった。自分の研究が加速しただけでなく、自分自身が無理をしなくてよくなった分心身健康になり、研究グループ全体にも良い影響を与えた。

・私は、産後すぐに、研究に復帰致しました。子育てを中心に生活が進んで行くので、その合間に研究を行っていくのは大変でしたが、研究のスピードを落とすことなく進めることができました。また、研究の一端を補助者に託すことで、補助者自身の研究能力向上にも少なからず繋がったのではないかと思います。

・マウスの遺伝子解析、実験の条件検討など実験準備作業を実験補助者に任せられたことで、本番の実験、データ採取・解析・考察などに時間を割けるようになりました。実験補助者の実験手技が安定してからは、実験を分担できるようになったことで、研究の進捗スピードが格段に上がりました。

・育児でなかなか時間の都合がつかず、研究が滞っていたが、補助者に、被験者のリクルート、実験日・時間の調整、実験機器の準備、実験補助をってもらうことで、準備や実験そのものの時間が短縮できた。特に、保育所への迎えの時間に間に合うことができ、とても有難かった。育児・介護で多忙でありながら、短期間で十分なデータが収集できたと共に、論文の準備も進み、研究成果を挙げることができた。

・この度、研究・実験補助者雇用制度を利用させて頂いたことで、申請者の監督あるいは指導にて遂行できる範囲内の作業を担当する研究補助者の多大な支援を得て、与えられた時間内により専門性の高い研究活動に専念することが出来、予定していた研究計画の遂行において大きな後押しとなりました。このことにより、研究の成果を専門分野のみならず社会に還元するための一助となったと言えると思います。

・実験補助者の方には、研究のいろいろな場面で補助いただきましたが、特に助かったのは、まとまった量の実験データを作成していただいたことです。このような作業はある程度のトレーニングが必要で、ルールに従い正確に処理していくことが求め

られますので、信頼できる方を継続して雇用できて本当によかったです。

・利用者の研究では、実験準備として緑藻の培養や特定の細胞の採取に時間がかかります。また解析試料の作製に約3日間の連続した時間を必要とします。定年退職した助手の後任が補充されず時間内の業務が増加し、実父母の世話で平日夜や休日の実験時間の確保も難しかったのですが、実験作業を実験補助者に分担していただき、限られた時間で実験を継続することができました。

・前回も書きましたが、膨大な作業時間を要する単純作業、入力作業等を、一人ではなく補助者の方と一緒にすることで、研究推進にあたってのリズムが生まれました。単独研究をすすめる人文科学研究の分野において、研究ペースが私生活に左右されずに保たれることは、きわめてありがたいことです。研究ペースを規則的かつ確実にすすめていける基盤形成が可能になった点が特筆すべき点です。

・未発表の写本を校訂し、原典校訂本を出版するという課題に向かっている。写本資料(写本を写真撮影したもの)の量は膨大で、読み進めるには大変な時間を要するが、一方で、未発表の写本という貴重な資料の提供を受けている立場として、速やかに成果を出版することが義務である。本制度によって専門の研究補助者を雇用することができ、資料を分担して読み進めて、その成果を合わせて写本校訂を進めている。

・データ解析や入力、実験準備や片付けなどを補助いただくことで、少ない時間を有効に使って、研究を中断することなく、何とか進めることが可能となっている。

・医師としての臨床業務、研究者として基礎研究、そして時には学生指導もといった複数の役割を、本制度によって補助者を得ることで、保育園の開いている時間内に、効率よく進めることができました。臨床研究においては、症例報告を学会発表することができ、その内容を投稿中です。この成果によってすでに糖尿病専門医を有していますが、さらに指導医を申請することが可能となります。また、基礎研究においても成果を論文に執筆中で、来年度には国際学会において発表し、国際誌に投稿する準備をしています。

・臨床研究において複数の研究課題を同時進行する際には、作業量の増加や時間的拘束が研究の進捗を妨げる要因となり得ますが、本制度を利用することで、作業量や時間的拘束の負担が非常に軽減されました。その結果、大型プロジェクトの運営にかかる業務や、研究の実務にも時間がさげ、プロジェクトの成果につながりました。

・子供の送迎のために時間が限られている中で、実験を効率的に進めることができた。特に、今回、BJC に accept される直前、6 週間という短期間で revise の実験をしなければならなかったが、きちんと仕上げるのができたのは実験補助者の力によるところが大きかった。また、実験補助者が実験をしている間に大学院生の指導やほかのスタッフとのディスカッションを行うことができた。

・私は薬用植物の栽培に関するプロジェクト雇用の研究員だったので、研究の遂行には植物の恒常的な維持・管理が必要不可欠でした。産前・産後に本制度を利用し、実験補助者に植物の管理及び実験データの計測をお願いすることで、実験中断期間を最小限にすることができ、年度末には一年間の研究結果を報告書にまとめることができました。

・私は、生物の発生過程の研究を行っているため、生物の発生時間にあわせて実験を進める必要があります。これまで、時間的制約のため、生物の発生時間にあわせて進める必要のある実験ができる曜日は限られていましたが、本制度を利用することにより、より高い頻度で行うことが可能になり、研究をより迅速に進めることができました。

・試薬調製等の下準備に要する時間が短縮され、スムーズに本実験及びデータ解析が行えるようになった。また、作業が分担化されることで 1 日に取得可能なデータ量も増加した。

・この制度を利用することで、昼休みと 15:00 に授乳のため保育園に通い、まとまった実験時間をとることができない中でも、補助者にヘリコバクターの実験を進めてもらうことができました。補助者が実験を担当してくれたおかげで、論文執筆、研究費申請等にも集中できました。利用者自身も麻酔の実験を進めることができ、研究会での発表もできました。

## 2. 「研究・実験補助者雇用制度」を利用した感想

・育児のために実験の時間を十分に取れない私にとって、この制度は非常に便利な制度でした。制度利用期間、私は、実験の設計、また、経験不足による不具合の解決策を見つけることに集中することができました。非常に単純な反復作業ですが、それは必要不可欠であり、私はその過程の補助を受けることができ、この困難な状況の中でも能率的に仕事ことができました。

・京都大学が提供するこのシステムは非常に素晴らしく、助けられた。特に、父親がこの制度を利用することができ、家族の一員として妻をサポートするための時間をとれたことに感謝している。

・子育てと研究・仕事を 100%の形で両立することはなかなか難しいですが、本制度のおかげでどちらも捨てることなく行うことができました。とても助かりました。

・医学部の学部学生が実験補助者だったので、雇用前よりも更に責任を持って実験をしてくれるようになり、かつ仕事が正確で素早くなり、大変助かりました。また、応募する際の申請書類の準備や手続きが煩雑でなかったことも助かりました。

・この制度のお陰で、育児で十分な時間がとれないにも関わらず、研究を遂行することが可能となった。大変有意義な制度であり、とても助かっている。この制度は、育児・介護の必要な女性研究者が研究をあきらめることなく、研究を続け、十分な成果を挙げることを可能にする素晴らしい制度だと思う。今後もぜひ継続してほしい。

・このたびは貴重な機会を頂きましたこと誠にありがとうございました。このようにご配慮を頂きましたことを、日々感謝してこの半年間過ごさせて頂きました。ご厚意にお応えできますよう、より一層研究に尽力させて頂きましたことで、成果を挙げる事ができました。

・我が家は単身赴任で、平日は夫の協力が得られませんので、インフルエンザや腸炎などで長期にわたり出勤できないこともありましたが、そのような時でも実験補助者の方が着実に研究を進めてくださり、実質的にも、また精神的にも本当に助けられました。

・突然、両親の介護が始まり、先が見えず、心身両面で疲労が蓄積するなかで、介護保険サービスや家庭介護を模索しつつ、仕事と介護を続けています。実験補助者雇用制度のおかげで、時間的制約のなかで何とか実験や研究を継続することができ、本当に有り難く思います。

・学生さんといえども、同じ分野の研究者同士。ちょっとした雑談が新たな発見を呼ぶことが多く、とても楽しい時を過ごしました。

・自らの研究費で人を雇うほどの資金はなく、教室としての研究費で雇用するケースが多いが、その場合、自分の仕事をお願いすることは難しい。そのため「自分のための」仕事をしてもらえる人は大変貴重です。余裕のない時間の中で、何とか研究を進められていることは、本当にありがたいと思っています。

・小学五年から保育園年長までの、四人の子供がおり、家事・育児にかかる時間が多く、研究に割ける時間は充分とは言えない。そんな中、専門の研究補助者の協力は、研究を進める上で大きな力となっている。

・制度を利用して頂いて 2 期目になりますが、子どもが小さく時間制限や急な休みがある中で補助者がいることは実質的な面だけでなく気持ちの面でも余裕を持つことができます。半年で結果とまでは難しかったですが、2 期(1 年)に亘って採択されたことで業績を残せるまでに至り、心からこの制度に感謝しています。

・申請者のみならず、補助者にとっても非常にありがたい制度であり、申請者の研究の実務の負担を軽減することに加えて、補助者が研究者としての経験を積む良い機会となっていると思います。

・継続利用させていただいたおかげで、実験補助者も手技に慣れ、教える時間も短くなって、ますます効率が上がった。同僚や上司に対しても、早く帰ることで肩身の狭い思いをしなくてよくなったので大変ありがたいです。

- ・私の場合は、出産後の体力的な大変さは想定範囲内でしたが、精神的な大変さは予想を超えるものでした。産後のただでさえ精神的に不安定なときに、実験結果や報告書作成が気になり、また自分が働けない分を他の人にしてもらって罪悪感があったのです。しかし、実験補助者の存在が仕事面での負担や罪悪感の軽減につながり、本当に助かりました。この制度にとっても感謝しております。

- ・本制度利用者が、同じ研究室に所属する、利用者の研究内容にも詳しい人を実験補助者として雇用することが可能なため、制度利用開始後すぐに効率的に仕事の補助をしてもらうことが可能な点がとても有益だと感じました。

- ・論文の執筆及びそのための文献収集に費やせる時間が多くなり、研究が効率化された。

- ・この制度のおかげで、子どもの成長を楽しみながら研究を続けることができ、本当に感謝しております。子どもと充実した時間を過ごすことができ、研究への意欲とエネルギーとアイデアが湧いてきました。

### 3. この制度を利用する上で、困ったこと、改善した方がよいと思うことがあるか

- ・個人的な意見になってしまい申し訳ありませんが、申請と報告書の記入を英語でも受け付けてもらえたらありがたいと思います。

- ・この制度を利用できる人数を増やしてほしい。

- ・実験補助者に研究の内容をお手伝いしていただくことは難しいので、お願いできるのは、ルールに従ったデータ処理や整理等となります。この類の仕事に教務補佐があります。学生の出席や課題の提出を管理し、補助教材を作ることは、単純ですが非常に時間がかかります。また、ミスが許されない作業のため疲弊します。本実験補助者制度では、このようなお仕事をお願いすることはできない決まりですが、このような内容まで適用範囲を広げていただけると非常にありがたいと思います。

- ・困ったこと、改善した方がよいと思うことは特にありませんが、週20時間程度で勤務していただける適任者を探すのが難しかったです。

- ・事務手続きが簡素化されることを願います。

- ・雇用時間が週20時間までですと、毎日9-16時でお願いをすることができず、少し不便です。30時間分の補助をして頂けることが最もありがたいことですが、それが無理でも、20時間分は補助をいただき、残りの10時間や超勤の分は、研究費などから出せるようになると、もっと利用しやすい制度になると感じます。よろしく願いいたします。

- ・私は幸いなことに研究室の大学院生を補助者として得ることができました。同じ研究分野に精通した補助者ですので、簡単な打ち合わせで実験を補助して頂けることは大きなメリットです。しかし、忙しい大学院生に私のために時間を割いてもらうことはやはり心苦しいこともありましたので、例えば補助者を紹介して

もらえるようなシステムもあれば利用したいと思います。

- ・実験補助者の確保が難しいかもしれないこと。雇用時間が短いので、学生のアルバイトはちょうどよいが、専任の人を雇うのは難しい。ほかの資金と合わせて人件費に使うことが可能なのでしょうか。

- ・交通費を支給できるようにしてほしい。

- ・半期ごとの申請のため、実験補助者の候補をみつけるのに苦労しました。短くとも一度の申請で一年間利用できる制度にしていただけるとよいと思います。

- ・作業内容によっては、補助を要する実験作業の時間帯と補助者が労働可能な時間帯が合わない場合がある。

### 4. この制度の募集情報の入手方法(※複数回答あり)

| 区分            | 人数 |
|---------------|----|
| メール(うち所属部局から) | 11 |
| センターHP        | 2  |
| 指導教官からの情報     | 3  |
| 知人からの情報       | 3  |
| 合計            | 19 |

### 5. その他

- ・今年度、科学研究費補助金 基盤研究(B)を獲得することが出来ました。私の年齢で基盤(B)を獲得できたことは、大きな成果だと思います。これも、実験補助者雇用制度のおかげだと大変感謝しています。

- ・病児保育はよく利用しているが、たいへんありがたい。お迎え保育が気になっているが、保育園や学童保育がセンターから遠いと利用しにくい。

- ・本助成制度によって、本当に助かっています。今後とも、継続をよろしく願いいたします。待機児童の保育が、4月から可能になったのは、とてもありがたいです。(難しいとは思いますが)、病児保育室に関して、感染症での受け入れをお願いできるともっと助かります。

- ・待機児童用保育室の対象が15か月程度までとなっていますが、待機児童である限りは月齢制限無く利用させてもらえたらと思います。また、今後は保育園の待機児童のみでなく学童保育の待機児にも対象を拡大して頂けたらと思います。深夜業務や出張にも対応できるような夜間やお泊り保育の支援もあったら利用したいです。もちろん土日にも行ってほしいです。

- ・この制度がなければ、しばらく研究が停滞してしまったと思いますが、この制度のおかげで研究の進展とともに、研究を続けさせてもらえるという精神的な支えを得ることができました。女性研究者の増加にともない、これから介護問題に直面する研究者が増えてくると思いますので、これからもこの制度が継続することを希望します。自分自身は忙しい日々におわれて、介護についてほとんど何も知らず介護を始めたので、前もって介護問題について把握し、準備をしておくべきだったと、あとで気

づきました。個人情報の問題があったり、ケースバイケースの対応があったりするかもしれませんが、京都大学で研究と介護を両立させるための何らかの情報の共有ができれば、今後、介護問題に取り組む際に役立ちそうに思います。

・お迎え保育や病児保育など育児を補助していただくよりも、研究の方を補助していただけるこの制度の方が、母親としてはありがたいです。遠隔地のため、そもそもお迎え保育や病児保育は使えませんが、あったとしても、保育園の終了時間までには自分で迎えに行きたいですし、子どもが病気の時くらいは自分で看病したいと思います。この制度は本当に素晴らしい制度ですので、今後も多くの人が利用できるよう、拡充していただきたいと思います。

# 資 料

## 男女共同参画推進センター 関係者名簿

2015.10.1 現在

| 役職                    | 氏名     | 所属・職              |
|-----------------------|--------|-------------------|
| センター長                 | 稲葉 カヨ  | 理事・副学長            |
| 男女共同参画推進本部支援室長        | 伊藤 公雄  | 文学研究科・教授          |
| 広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ |        |                   |
| 主査                    | 山末 英嗣  | エネルギー科学研究科・助教     |
| 事業支援員                 | 西村 いくこ | 理学研究科・教授          |
| 事業支援員                 | 高橋 淑子  | 理学研究科・教授          |
| 事業支援員                 | 鈴木 晶子  | 教育学研究科・教授         |
| 事業支援員                 | 松下 佳代  | 高等教育研究開発推進センター・教授 |
| 事業支援員                 | 久家 慶子  | 理学研究科・准教授         |
| 育児・介護支援事業ワーキンググループ    |        |                   |
| 主査                    | 小西 由紀子 | 理学研究科・准教授         |
| 事業支援員                 | 岩崎 奈緒子 | 総合博物館・教授          |
| 事業支援員                 | 神吉 紀世子 | 工学研究科・教授          |
| 事業支援員                 | 田村 恵子  | 医学研究科・教授          |
| 病児保育事業ワーキンググループ       |        |                   |
| 主査                    | 足立 壯一  | 医学研究科・教授          |
| 事業支援員(副病児保育室長)        | 栗屋 智就  | 医学部附属病院・助教        |
| 事業支援員                 | 丹羽 房子  | 医学部附属病院・助教        |
| 事業支援員                 | 長尾 美紀  | 医学部附属病院・講師        |
| 事業支援員                 | 山中 寛恵  | 医学部附属病院・副看護部長     |
| 事業支援員                 | 國友 陵一  | 医学部附属病院・総務課長      |
| 事業支援員                 | 隈村 綾子  | 医学部附属病院・医務課掛長     |
| 就労支援事業ワーキンググループ       |        |                   |
| 主査                    | 佐藤 亨   | 情報学研究科・教授         |
| 事業支援員                 | 鈴木 眞知子 | 医学研究科・教授          |
| 事業支援員                 | 横山 美夏  | 法学研究科・教授          |
| 事業支援員                 | 瀬原 淳子  | 再生医科学研究所・教授       |
| 事業支援員                 | 喜多 恵子  | 農学研究科・教授          |

## 男女共同参画推進委員会会議 議事

### ■推進委員会会議議題と資料

2015年4月13日(月)

#### 【議事】

1. おむかえ保育の利用規程について
2. 男女共同参画推進センターの規程について
3. 関西科学塾協力依頼について

#### 【報告】

1. 5/9 日仏討論会について
2. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

#### 【資料】

1. 男女共同参画推進センター規程
2. 関西科学塾概要
3. 日仏討論会チラシ

5月15日(金)

#### 【議事】

1. おむかえ保育の利用規程の改定について
2. 待機乳児保育の料金設定・利用規程の改定について
3. 女子高生・車座フォーラム 2015 の開催について

#### 【報告】

1. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

#### 【資料】

1. おむかえ保育利用規程
2. 待機乳児保育室利用規程

6月8日(月)

#### 【議事】

1. 女子高生・車座フォーラム 2015 の開催について
2. ベビーシッター派遣事業割引券の導入について
3. 待機乳児保育室 教務補佐員の利用について

#### 【報告】

1. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

#### 【資料】

1. 女子高生・車座フォーラム 2015 プログラム案
2. ベビーシッター派遣事業割引券実施案
3. ニュースレター「たちばな」第63号
4. 病児保育室 HP 改定案

7月13日(月)

#### 【議事】

1. ベビーシッター派遣事業割引券のHP掲載案

#### 【報告】

1. 今年度のジュニアキャンパスへのゼミ提供なし
2. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

**【資料】**

1. ベビーシッター派遣事業割引券 HP 掲載案
2. 女子高生・車座フォーラム 2015 チラシ
3. ニュースレター「たちばな」第 63 号

**9 月 7 日(月)****【議事】**

1. H27 年度 2 期「研究・実験補助者雇用制度」利用者決定について
2. 待機乳児保育室 今後の受入れ方針について

**【報告】**

1. 育児・介護支援事業 WG 主査 10 月より、理学研究科の小西由紀子准教授が着任
2. 認可保育所の申請 優先度判断基準について
3. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

**【資料】**

1. 平成 27 年度 2 期 研究・実験補助者採否結果一覧
2. 待機乳児保育室 利用者登録状況リスト
3. 京都市 保育室利用の優先度判断基準表

**10 月 19 日(月)****【報告】**

1. センターHP の変更予定について
2. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

**【資料】**

1. ニュースレター「たちばな」第 64 号原稿
2. 待機乳児保育室 利用申請書

**11 月 9 日(月)****【報告】**

1. 11/4 第八回京都大学たちばな賞 応募者募集開始
2. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

**【資料】**

1. 第八回強と大学たちばな賞 応募者募集チラシ
2. ニュースレター「たちばな」第 64 号
3. オープンホスピタル 病児保育室ポスター
4. エネルギー科学研究科男女共同参画推進講演会 概要

**12 月 14 日(月)****【報告】**

1. 12/2 第八回京都大学たちばな賞の公募締切
2. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

**【資料】**

1. 平成 27 年度 1 期 研究・実験補助者雇用制度 利用者アンケート集計
2. ニュースレター「たちばな」第 65 号原稿

**1 月 12 日(火)****【議事】**

1. 第 2 回「Women and Wish フォーラム」開催について

2. 平成 28 年度 待機乳児保育室の開室について

**【報告】**

1. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

**【資料】**

1. 第 2 回「Women and Wish フォーラム」概要
2. ニュースレター「たちばな」第 65 号
3. ニュースレター「たちばな」第 66 号原稿

**2 月 8 日(月)**

**【報告】**

1. 平成 27 年度活動報告書作成の経過報告
2. 第 2 回「Women and Wish フォーラム」開催について
3. 平成 28 年度 1 期 研究・実験補助者雇用制度の審査結果
4. 第八回京都大学たちばな賞の受賞者決定
5. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

**【資料】**

1. 平成 27 年度活動報告書目次案
2. 第 2 回「Women and Wish フォーラム」プログラム案
3. 平成 28 年度 1 期 研究・実験補助者雇用制度採否一覧
4. ニュースレター「たちばな」第 66 号

# 京都大学教員数

(平成27年5月1日現在)

| 区分              | 役員 | 教授  |    |       | 准教授 |    |     | 講師  |    |     | 助教  |     |     | 助手 |   |     | 合計    |     |       |
|-----------------|----|-----|----|-------|-----|----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|----|---|-----|-------|-----|-------|
|                 |    | 男   | 女  | 計     | 男   | 女  | 計   | 男   | 女  | 計   | 男   | 女   | 計   | 男  | 女 | 計   | 男     | 女   | 計     |
| 総長              | 1  |     |    |       |     |    |     |     |    |     |     |     |     |    |   | 1   | 0     | 1   |       |
| 理事・監事(非常勤含む)    | 9  |     |    |       |     |    |     |     |    |     |     |     |     |    |   | 9   | 0     | 9   |       |
| 文学研究科           |    | 45  | 7  | 52    | 24  | 3  | 27  | 2   |    | 2   | 4   | 1   | 5   |    |   | 75  | 11    | 86  |       |
| 教育学研究科          |    | 14  | 4  | 18    | 7   | 6  | 13  |     |    |     | 2   | 3   | 5   |    |   | 23  | 13    | 36  |       |
| 法学研究科           |    | 45  | 5  | 50    | 13  | 5  | 18  |     | 1  | 1   |     | 1   | 1   | 1  | 1 | 58  | 13    | 71  |       |
| 経済学研究科          |    | 20  | 1  | 21    | 9   | 1  | 10  | 2   | 3  | 5   | 1   |     | 1   |    |   | 32  | 5     | 37  |       |
| 理学研究科           |    | 83  | 2  | 85    | 71  | 9  | 80  | 11  | 1  | 12  | 79  | 7   | 86  |    |   | 244 | 19    | 263 |       |
| 医学研究科           |    | 67  | 10 | 77    | 60  | 5  | 65  | 47  | 9  | 56  | 36  | 19  | 55  |    |   | 210 | 43    | 253 |       |
| 医学部附属病院         |    | 6   |    | 6     | 13  | 3  | 16  | 10  | 1  | 11  | 123 | 16  | 139 |    |   | 152 | 20    | 172 |       |
| 薬学研究科           |    | 13  |    | 13    | 13  | 3  | 16  | 2   | 1  | 3   | 10  | 1   | 11  |    |   | 38  | 5     | 43  |       |
| 工学研究科           |    | 138 | 1  | 139   | 117 | 3  | 120 | 25  | 1  | 26  | 128 | 7   | 135 |    |   | 408 | 12    | 420 |       |
| 農学研究科           |    | 57  | 4  | 61    | 55  | 2  | 57  | 4   | 2  | 6   | 64  | 8   | 72  |    |   | 180 | 16    | 196 |       |
| 人間・環境学研究科       |    | 64  | 7  | 71    | 26  | 4  | 30  |     | 1  | 1   | 12  | 2   | 14  |    |   | 102 | 14    | 116 |       |
| エネルギー科学研究科      |    | 18  |    | 18    | 17  |    | 17  |     |    |     | 14  |     | 14  |    |   | 49  | 0     | 49  |       |
| アジア・アフリカ地域研究研究科 |    | 14  |    | 14    | 9   | 2  | 11  |     |    |     | 1   | 2   | 3   |    |   | 24  | 4     | 28  |       |
| 情報学研究科          |    | 38  |    | 38    | 23  | 1  | 24  | 9   |    | 9   | 34  | 2   | 36  |    |   | 104 | 3     | 107 |       |
| 生命科学研究科         |    | 17  |    | 17    | 10  |    | 10  | 2   | 1  | 3   | 16  | 4   | 20  |    |   | 45  | 5     | 50  |       |
| 総合生存学館          |    | 7   | 1  | 8     | 4   |    | 4   |     |    |     |     |     |     |    |   | 11  | 1     | 12  |       |
| 地球環境学堂          |    | 18  |    | 18    | 12  | 4  | 16  |     |    |     | 10  | 2   | 12  |    |   | 40  | 6     | 46  |       |
| 公共政策連携研究部       |    | 10  |    | 10    |     |    |     |     |    |     |     |     |     |    |   | 10  | 0     | 10  |       |
| 経営管理研究部         |    | 13  |    | 13    | 4   | 1  | 5   |     |    |     |     |     |     |    |   | 17  | 1     | 18  |       |
| 化学研究所           |    | 26  |    | 26    | 16  | 1  | 17  |     | 1  | 1   | 34  | 3   | 37  |    |   | 76  | 5     | 81  |       |
| 人文科学研究所         |    | 20  | 1  | 21    | 11  | 2  | 13  |     | 1  | 1   | 7   | 5   | 12  | 1  |   | 39  | 9     | 48  |       |
| 再生医科学研究所        |    | 7   | 1  | 8     | 8   | 1  | 9   | 1   |    | 1   | 10  | 1   | 11  |    |   | 26  | 3     | 29  |       |
| エネルギー理工学研究所     |    | 11  |    | 11    | 12  |    | 12  | 2   |    | 2   | 11  |     | 11  |    |   | 36  | 0     | 36  |       |
| 生存圏研究所          |    | 15  |    | 15    | 10  |    | 10  | 1   |    | 1   | 10  | 1   | 11  |    |   | 36  | 1     | 37  |       |
| 防災研究所           |    | 33  | 1  | 34    | 29  | 1  | 30  |     |    |     | 22  | 1   | 23  |    |   | 84  | 3     | 87  |       |
| 基礎物理学研究所        |    | 8   |    | 8     | 9   |    | 9   |     |    |     | 4   |     | 4   |    |   | 21  | 0     | 21  |       |
| ウイルス研究所         |    | 10  | 1  | 11    | 8   |    | 8   | 1   |    | 1   | 13  | 4   | 17  |    |   | 32  | 5     | 37  |       |
| 経済研究所           |    | 13  |    | 13    | 1   |    | 1   |     |    |     | 2   | 1   | 3   |    |   | 16  | 1     | 17  |       |
| 数理解析研究所         |    | 13  |    | 13    | 10  |    | 10  | 3   |    | 3   | 12  |     | 12  |    |   | 38  | 0     | 38  |       |
| 原子炉実験所          |    | 17  | 1  | 18    | 19  | 2  | 21  | 1   |    | 1   | 28  | 4   | 32  |    |   | 65  | 7     | 72  |       |
| 霊長類研究所          |    | 13  |    | 13    | 11  |    | 11  |     |    |     | 8   | 5   | 13  |    |   | 32  | 5     | 37  |       |
| 東南アジア研究所        |    | 7   | 3  | 10    | 9   |    | 9   |     |    |     | 2   | 2   | 4   |    |   | 18  | 5     | 23  |       |
| iPS細胞研究所        |    | 12  |    | 12    | 5   |    | 5   | 4   |    | 4   |     |     |     |    |   | 21  | 0     | 21  |       |
| 附属図書館           |    |     |    |       |     | 1  | 1   |     |    |     |     |     |     |    |   | 0   | 1     | 1   |       |
| 学術情報メディアセンター    |    | 8   |    | 8     | 6   |    | 6   | 1   |    | 1   | 2   |     | 2   |    |   | 17  | 0     | 17  |       |
| 放射線生物研究センター     |    | 2   |    | 2     | 3   |    | 3   | 1   |    | 1   |     |     |     |    |   | 6   | 0     | 6   |       |
| 生態学研究センター       |    | 6   |    | 6     | 3   | 1  | 4   |     |    |     |     |     |     |    |   | 9   | 1     | 10  |       |
| 地域研究統合情報センター    |    | 4   |    | 4     | 3   | 2  | 5   |     |    |     | 3   |     | 3   |    |   | 10  | 2     | 12  |       |
| 野生動物研究センター      |    | 3   | 1  | 4     | 2   |    | 2   |     |    |     |     |     |     |    |   | 5   | 1     | 6   |       |
| 高等教育研究開発推進センター  |    | 2   | 1  | 3     | 2   | 1  | 3   |     |    |     |     |     |     |    |   | 4   | 2     | 6   |       |
| 総合博物館           |    | 2   | 1  | 3     | 2   | 1  | 3   | 1   |    | 1   | 1   |     | 1   |    |   | 6   | 2     | 8   |       |
| 低温物質科学研究センター    |    | 3   |    | 3     | 3   |    | 3   |     |    |     | 1   |     | 1   | 1  | 1 | 8   | 0     | 8   |       |
| フィールド科学教育研究センター |    | 4   | 1  | 5     | 7   |    | 7   | 2   |    | 2   | 5   | 3   | 8   |    |   | 18  | 4     | 22  |       |
| 福井謙一記念研究センター    |    |     |    |       | 1   |    | 1   |     |    |     |     |     |     |    |   | 1   | 0     | 1   |       |
| こころの未来研究センター    |    | 4   | 1  | 5     |     |    |     |     |    |     |     |     |     |    |   | 4   | 1     | 5   |       |
| 文化財総合研究センター     |    |     |    |       | 1   |    | 1   |     |    |     | 4   |     | 4   |    |   | 5   | 0     | 5   |       |
| 学生総合支援センター      |    | 1   |    | 1     |     | 2  | 2   | 2   |    | 2   | 1   |     | 1   |    |   | 4   | 2     | 6   |       |
| 大学文書館           |    | 1   |    | 1     |     |    |     |     |    |     | 1   |     | 1   |    |   | 2   | 0     | 2   |       |
| 学際融合教育研究推進センター  |    | 1   |    | 1     | 1   |    | 1   |     |    |     |     |     |     |    |   | 2   | 0     | 2   |       |
| 国際高等教育院         |    | 20  | 4  | 24    | 10  | 1  | 11  |     |    |     |     |     |     |    |   | 30  | 5     | 35  |       |
| 環境安全保健機構        |    | 4   |    | 4     | 4   |    | 4   |     |    |     | 7   | 2   | 9   |    |   | 15  | 2     | 17  |       |
| 国際交流推進機構        |    | 2   | 1  | 3     | 2   | 3  | 5   |     |    |     |     |     |     |    |   | 4   | 4     | 8   |       |
| 情報環境機構          |    | 4   | 1  | 5     |     |    |     |     |    |     | 1   | 1   | 2   |    |   | 5   | 2     | 7   |       |
| 産官学連携本部         |    |     |    |       | 1   |    | 1   |     |    |     |     |     |     |    |   | 1   | 0     | 1   |       |
| 物質－細胞統合システム拠点   |    | 6   | 2  | 8     | 2   |    | 2   |     |    |     |     |     |     |    |   | 8   | 2     | 10  |       |
| 合計              | 10 | 969 | 63 | 1,032 | 698 | 71 | 769 | 134 | 23 | 157 | 723 | 108 | 831 | 2  | 1 | 3   | 2,536 | 266 | 2,802 |

(注) 育児休業者・退職者、再雇用者は除く

## 京都大学学生数

学部学生数  
(平成27年5月1日現在)

| 区分       | 学生     |       |        | 聴講生 |    |    | 科目等履修生 |    |    | 合計     |       |        |
|----------|--------|-------|--------|-----|----|----|--------|----|----|--------|-------|--------|
|          | 男      | 女     | 計      | 男   | 女  | 計  | 男      | 女  | 計  | 男      | 女     | 計      |
| 総合人間学部   | 420    | 172   | 592    |     |    |    | 9      | 9  | 18 | 429    | 181   | 610    |
| 文学部      | 576    | 433   | 1,009  | 33  | 18 | 51 | 15     | 8  | 23 | 624    | 459   | 1,083  |
| 教育学部     | 178    | 115   | 293    | 4   | 5  | 9  | 3      | 1  | 4  | 185    | 121   | 306    |
| 法学部      | 1,152  | 389   | 1,541  | 2   | 1  | 3  |        | 1  | 1  | 1,154  | 391   | 1,545  |
| 経済学部     | 924    | 222   | 1,146  | 7   | 2  | 9  | 2      | 1  | 3  | 933    | 225   | 1,158  |
| 理学部      | 1,280  | 137   | 1,417  |     |    |    | 13     | 1  | 14 | 1,293  | 138   | 1,431  |
| 医学部(6年制) | 556    | 126   | 682    |     |    |    |        |    |    | 556    | 126   | 682    |
| 医学部(4年制) | 170    | 468   | 638    |     |    |    |        |    |    | 170    | 468   | 638    |
| 薬学部(6年制) | 93     | 94    | 187    |     |    |    |        |    |    | 93     | 94    | 187    |
| 薬学部(4年制) | 184    | 45    | 229    |     |    |    |        |    |    | 184    | 45    | 229    |
| 工学部      | 3,994  | 356   | 4,350  | 1   |    | 1  |        | 1  | 1  | 3,995  | 357   | 4,352  |
| 農学部      | 917    | 416   | 1,333  |     |    |    | 10     | 4  | 14 | 927    | 420   | 1,347  |
| 計        | 10,444 | 2,973 | 13,417 | 47  | 26 | 73 | 52     | 26 | 78 | 10,543 | 3,025 | 13,568 |
|          | (134)  | (88)  | (222)  |     |    |    |        |    |    | (134)  | (88)  | (222)  |

(注)( )内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数。

大学院学生数  
(平成27年5月1日現在)

| 区分              | 修士課程  |       |       | 博士(後期)課程 |       |       | 専門職学位課程 |      |      | 聴講生 |    |    | 科目等履修生 |   |    | 合計    |       |         |
|-----------------|-------|-------|-------|----------|-------|-------|---------|------|------|-----|----|----|--------|---|----|-------|-------|---------|
|                 | 男     | 女     | 計     | 男        | 女     | 計     | 男       | 女    | 計    | 男   | 女  | 計  | 男      | 女 | 計  | 男     | 女     | 計       |
| 文学研究科           | 143   | 95    | 238   | 133      | 82    | 215   |         |      |      | 15  | 13 | 28 |        |   |    | 291   | 190   | 481     |
| 教育学研究科          | 53    | 45    | 98    | 46       | 48    | 94    |         |      |      |     |    |    | 3      | 6 | 9  | 102   | 99    | 201     |
| 法学研究科           | 25    | 14    | 39    | 46       | 25    | 71    | 287     | 72   | 359  |     | 1  | 1  | 3      |   | 3  | 361   | 112   | 473     |
| 経済学研究科          | 63    | 35    | 98    | 113      | 41    | 154   |         |      |      | 4   |    | 4  | 3      |   | 3  | 183   | 76    | 259     |
| 理学研究科           | 522   | 80    | 602   | 417      | 83    | 500   |         |      |      |     |    |    | 3      |   | 3  | 942   | 163   | 1,105   |
| 医学研究科           |       |       |       | 527      | 186   | 713   |         |      |      |     |    |    |        |   |    | 527   | 186   | 713     |
|                 | 79    | 104   | 183   | 56       | 35    | 91    | 33      | 41   | 74   |     |    |    | 1      |   | 1  | 169   | 180   | 349     |
| 薬学研究科           |       |       |       | 24       | 4     | 28    |         |      |      |     |    |    |        |   |    | 24    | 4     | 28      |
|                 | 78    | 37    | 115   | 41       | 17    | 58    |         |      |      |     |    |    |        |   |    | 119   | 54    | 173     |
| 工学研究科           | 1,307 | 173   | 1,480 | 470      | 77    | 547   |         |      |      |     |    |    | 1      |   | 1  | 1,778 | 250   | 2,028   |
| 農学研究科           | 425   | 226   | 651   | 171      | 93    | 264   |         |      |      |     |    |    | 2      | 1 | 3  | 598   | 320   | 918     |
| 人間・環境学研究科       | 212   | 123   | 335   | 144      | 145   | 289   |         |      |      |     |    |    |        |   |    | 356   | 268   | 624     |
| エネルギー科学研究科      | 254   | 21    | 275   | 58       | 17    | 75    |         |      |      |     |    |    |        |   |    | 312   | 38    | 350     |
| アジア・アフリカ地域研究研究科 |       |       |       | 68       | 80    | 148   |         |      |      |     |    |    |        |   |    | 68    | 80    | 148     |
| 情報学研究科          | 375   | 33    | 408   | 117      | 28    | 145   |         |      |      |     |    |    |        |   |    | 492   | 61    | 553     |
| 生命科学研究科         | 85    | 77    | 162   | 60       | 46    | 106   |         |      |      |     |    |    |        |   |    | 145   | 123   | 268     |
| 総合生存学館          |       |       |       | 21       | 13    | 34    |         |      |      |     |    |    |        |   |    | 21    | 13    | 34      |
| 地球環境学舎          | 50    | 39    | 89    | 29       | 37    | 66    |         |      |      |     |    |    |        |   |    | 79    | 76    | 155     |
| 公共政策教育部         |       |       |       |          |       |       | 65      | 16   | 81   | 1   |    | 1  |        |   |    | 66    | 16    | 82      |
| 経営管理教育部         |       |       |       |          |       |       | 133     | 59   | 192  |     |    |    | 8      | 1 | 9  | 141   | 60    | 201     |
| 計               | 3,671 | 1,102 | 4,773 | 2,541    | 1,057 | 3,598 | 518     | 188  | 706  | 20  | 14 | 34 | 24     | 8 | 32 | 6,774 | 2,369 | 9,143   |
|                 | (241) | (198) | (439) | (363)    | (273) | (634) | (48)    | (45) | (93) |     |    |    |        |   |    | (652) | (516) | (1,168) |

(注1)医学研究科・薬学研究科の博士(後期)課程の上段は博士課程(4年制)

(注2)アジア・アフリカ地域研究研究科、総合生存学館は一貫制博士課程

(注3)( )内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数。

# 京都大学の女性研究者・女子学生の状況

## 1. 教員数の経年変化と女性比率

(分析データ：京都大学概要 2015)

2004年までは、保田その氏の作成データ（京都大学女性教員懇話会 2005年度ニュースレターNo.2）による

2015年5月1日現在の京都大学の教員数(助手3名を含む)は、全体で2,792名である。そのうち女性教員は全体の9.5%、数にしてわずか266名である。2006年は7.3%だったので、この9年間で2.2%増加している。女性教員数が目立って増加の傾向を見せてきたのは、2000年頃からである。図1に1952年以来的女性教員の推移を示す。

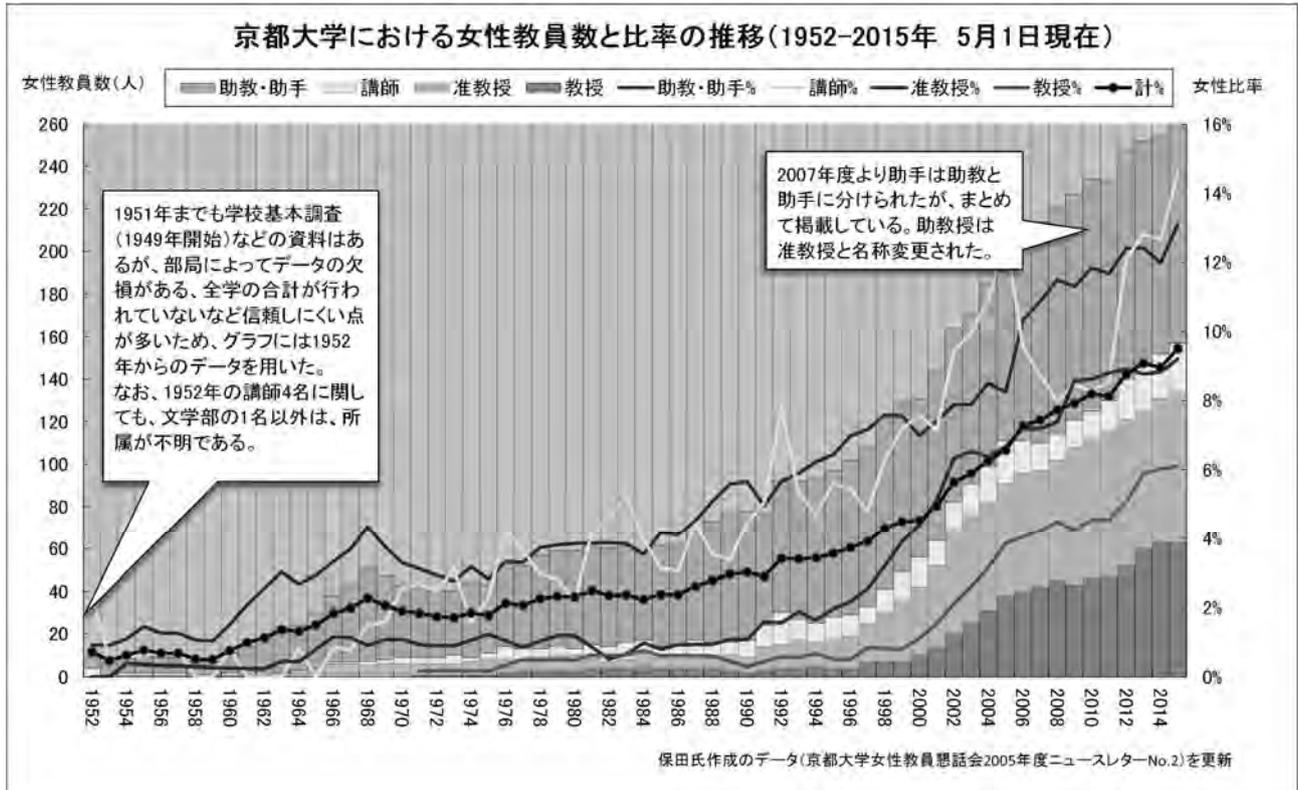


図1：1952年以来的女性教員の推移

職階別に男女比を見ると、女性は総数が少ないのでどのポストでもわずかだが、その中でも、教授ポストの女性比率が特に少なく、6.1%しかない。准教授ポストでは9.2%、講師では14.6%、助教・助手では13.1%が女性である(図2)。

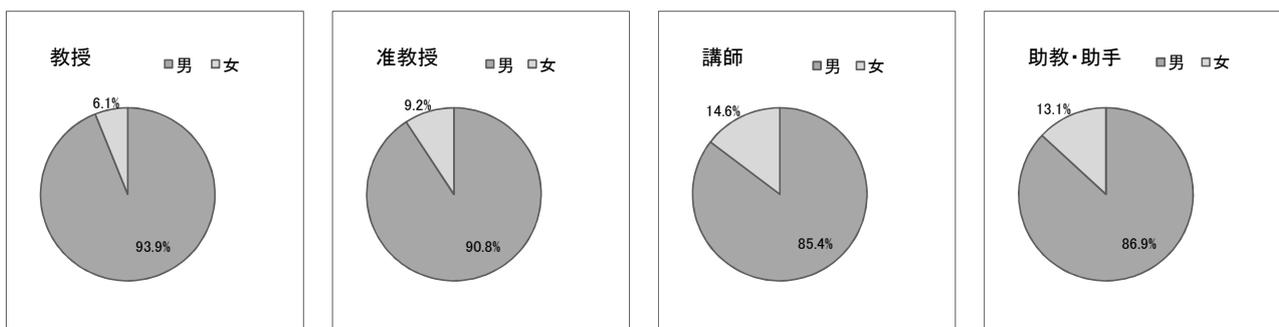


図2 教員の職階毎の男女比(2014年5月1日現在)

図3の職階分布からわかるように、男性では教授(38.4%)が最も多く、女性では助教・助手(41%)が最も多い。

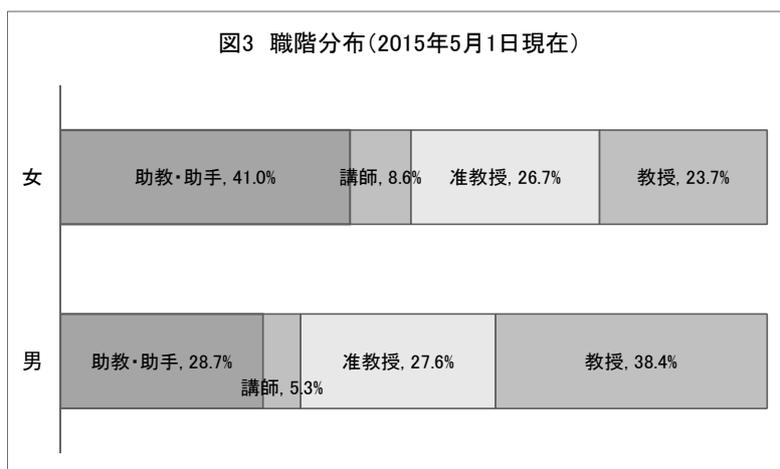


表1に男女別教員数(「定員」)を示す。女性がない部局は載せていないが、総合計は総教員数である。

表1 男女別教員数(「定員」と女性比率(部局別)

| 部局              | 男     | 女   | 計     | 女性比率   |
|-----------------|-------|-----|-------|--------|
| 附属図書館           | 0     | 1   | 1     | 100.0% |
| 国際交流推進機構        | 4     | 4   | 8     | 50.0%  |
| 教育学研究科          | 23    | 13  | 36    | 36.1%  |
| 高等教育研究開発推進センター  | 4     | 2   | 6     | 33.3%  |
| 学生総合支援センター      | 4     | 2   | 6     | 33.3%  |
| 情報環境機構          | 5     | 2   | 7     | 28.6%  |
| 総合博物館           | 6     | 2   | 8     | 25.0%  |
| 東南アジア研究所        | 18    | 5   | 23    | 21.7%  |
| こころの未来研究センター    | 4     | 1   | 5     | 20.0%  |
| 物質-細胞統合システム拠点   | 8     | 2   | 10    | 20.0%  |
| 人文科学研究所         | 39    | 9   | 48    | 18.8%  |
| 法学研究科           | 58    | 13  | 71    | 18.3%  |
| フィールド科学教育研究センター | 18    | 4   | 22    | 18.2%  |
| 医学研究科           | 210   | 43  | 253   | 17.0%  |
| 地域研究統合情報センター    | 10    | 2   | 12    | 16.7%  |
| 野生動物研究センター      | 5     | 1   | 6     | 16.7%  |
| アジア・アフリカ地域研究研究科 | 24    | 4   | 28    | 14.3%  |
| 国際高等教育院         | 30    | 5   | 35    | 14.3%  |
| 経済学研究科          | 32    | 5   | 37    | 13.5%  |
| ウイルス研究所         | 32    | 5   | 37    | 13.5%  |
| 霊長類研究所          | 32    | 5   | 37    | 13.5%  |
| 地球環境学堂          | 40    | 6   | 46    | 13.0%  |
| 文学研究科           | 75    | 11  | 86    | 12.8%  |
| 人間・環境学研究科       | 102   | 14  | 116   | 12.1%  |
| 環境安全保健機構        | 15    | 2   | 17    | 11.8%  |
| 医学部附属病院         | 152   | 20  | 172   | 11.6%  |
| 薬学研究科           | 38    | 5   | 43    | 11.6%  |
| 再生医科学研究所        | 26    | 3   | 29    | 10.3%  |
| 生命科学研究科         | 45    | 5   | 50    | 10.0%  |
| 生態学研究センター       | 9     | 1   | 10    | 10.0%  |
| 原子炉実験所          | 65    | 7   | 72    | 9.7%   |
| 総合生存学館          | 11    | 1   | 12    | 8.3%   |
| 農学研究科           | 180   | 16  | 196   | 8.2%   |
| 理学研究科           | 244   | 19  | 263   | 7.2%   |
| 化学研究所           | 76    | 5   | 81    | 6.2%   |
| 経済研究所           | 16    | 1   | 17    | 5.9%   |
| 経営管理研究部         | 17    | 1   | 18    | 5.6%   |
| 防災研究所           | 84    | 3   | 87    | 3.4%   |
| 工学研究科           | 408   | 12  | 420   | 2.9%   |
| 情報学研究科          | 104   | 3   | 107   | 2.8%   |
| 生存圏研究所          | 36    | 1   | 37    | 2.7%   |
| 総合計             | 2,526 | 266 | 2,792 | 9.5%   |

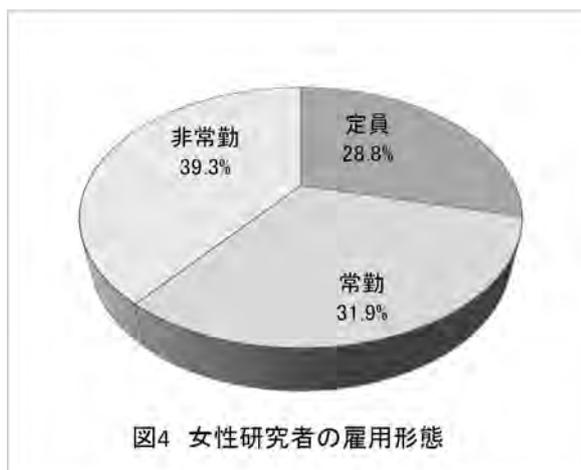
## 2. 女性研究者の雇用形態

(分析データ : 総務部資料 2014年5月1日)

表2に示すように、本学には女性研究者が約936人いる。プロジェクトなどの雇用でない、いわゆる“定員”の教員は269人、残り667人が種々のプロジェクトなどで雇用されている任期付きの研究者である。表2にその職種、職階分布を示した。表2で常勤というのは、勤務形態は定員と同じだが雇用形態が例えば、准教授(産官学連携)というように職名に財源の由来が付いている任期付きのポストを示している。非常勤というのは、勤務形態が非常勤で雇用の財源はいろいろである。例えば「最先端研究」などである。

表2 女性研究者の雇用形態

| 学内の雇用形態 |       | 人数  | %     |
|---------|-------|-----|-------|
| 定員      | 教授    | 65  | 6.9   |
|         | 准教授   | 70  | 7.5   |
|         | 講師    | 23  | 2.5   |
|         | 助教・助手 | 111 | 11.9  |
|         | 合計    | 269 | 28.8  |
| 常勤      | 教授    | 2   | 0.2   |
|         | 准教授   | 32  | 3.4   |
|         | 講師    | 11  | 1.2   |
|         | 助教    | 88  | 9.4   |
|         | 研究員   | 166 | 17.7  |
|         | 合計    | 299 | 31.9  |
| 非常勤     | 研究員   | 264 | 28.2  |
|         | 医員    | 100 | 10.7  |
|         | 教員    | 4   | 0.4   |
|         | 合計    | 368 | 39.3  |
| 総合計     |       | 936 | 100.0 |



### 3. 女性教員の部局別・職階別分布

表3に全部局の職階別女性教員数(2015年5月1日現在)を示す。

表3: 部局別職階別女性教員数(2015年5月1日現在、総務部より)

| 部局              | 定員 |     |    |          |     | 常勤 |     |    |    |     |     | 非常勤 |     |    |     | 総合計 |
|-----------------|----|-----|----|----------|-----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|
|                 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教<br>助手 | 合計  | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 研究員 | 合計  | 研究員 | 医員  | 教員 | 合計  |     |
| 医学研究科           | 10 | 5   | 9  | 19       | 43  | 0  | 11  | 3  | 13 | 23  | 50  | 41  | 0   | 0  | 41  | 134 |
| 医学部附属病院         | 0  | 3   | 1  | 16       | 20  | 0  | 1   | 0  | 23 | 9   | 33  | 18  | 100 | 0  | 118 | 171 |
| iPS細胞研究所        | 0  | 0   | 0  | 0        | 0   | 0  | 1   | 0  | 2  | 43  | 46  | 8   | 0   | 0  | 8   | 54  |
| 農学研究科           | 4  | 2   | 2  | 8        | 16  | 0  | 1   | 0  | 3  | 2   | 6   | 20  | 0   | 0  | 20  | 42  |
| 学際融合教育研究推進センター  | 0  | 0   | 0  | 0        | 0   | 2  | 6   | 3  | 9  | 3   | 23  | 18  | 0   | 0  | 18  | 41  |
| 工学研究科           | 1  | 3   | 1  | 7        | 12  | 0  | 0   | 0  | 2  | 12  | 14  | 21  | 0   | 0  | 21  | 47  |
| 物質-細胞統合システム拠点   | 2  | 0   | 0  | 0        | 2   | 0  | 0   | 0  | 6  | 10  | 16  | 16  | 0   | 0  | 16  | 34  |
| 理学研究科           | 2  | 9   | 1  | 7        | 19  | 0  | 0   | 0  | 0  | 6   | 6   | 7   | 0   | 0  | 7   | 32  |
| 人間・環境学研究科       | 7  | 4   | 1  | 2        | 14  | 0  | 0   | 1  | 0  | 3   | 4   | 6   | 0   | 0  | 6   | 24  |
| 霊長類研究所          | 0  | 0   | 0  | 5        | 5   | 0  | 0   | 0  | 1  | 3   | 4   | 7   | 0   | 1  | 8   | 17  |
| 教育学研究科          | 4  | 6   | 0  | 3        | 13  | 0  | 0   | 0  | 0  | 1   | 1   | 6   | 0   | 0  | 6   | 20  |
| 文学研究科           | 8  | 3   | 0  | 1        | 12  | 0  | 1   | 0  | 0  | 1   | 2   | 3   | 0   | 0  | 3   | 17  |
| 法学研究科           | 5  | 5   | 1  | 2        | 13  | 0  | 0   | 0  | 4  | 0   | 4   | 0   | 0   | 0  | 0   | 17  |
| 産官学連携本部         | 0  | 0   | 0  | 0        | 0   | 0  | 1   | 0  | 0  | 6   | 7   | 6   | 0   | 0  | 6   | 13  |
| 白眉センター          | 0  | 0   | 0  | 0        | 0   | 0  | 4   | 0  | 12 | 0   | 16  | 0   | 0   | 0  | 0   | 16  |
| 化学研究所           | 0  | 1   | 1  | 3        | 5   | 0  | 0   | 0  | 0  | 6   | 6   | 10  | 0   | 0  | 10  | 21  |
| 東南アジア研究所        | 3  | 0   | 0  | 2        | 5   | 0  | 0   | 0  | 0  | 1   | 1   | 5   | 0   | 0  | 5   | 11  |
| 人文科学研究科         | 1  | 2   | 1  | 6        | 10  | 0  | 0   | 0  | 1  | 0   | 1   | 5   | 0   | 0  | 5   | 16  |
| 薬学研究科           | 0  | 3   | 1  | 1        | 5   | 0  | 0   | 1  | 0  | 2   | 3   | 2   | 0   | 0  | 2   | 10  |
| アジア・アフリカ地域研究研究科 | 0  | 2   | 0  | 2        | 4   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 5   | 0   | 0  | 5   | 9   |
| 野生動物研究センター      | 1  | 0   | 0  | 0        | 1   | 0  | 0   | 0  | 3  | 2   | 5   | 8   | 0   | 1  | 9   | 15  |
| ウイルス研究所         | 1  | 0   | 0  | 4        | 5   | 0  | 0   | 0  | 1  | 1   | 2   | 3   | 0   | 0  | 3   | 10  |
| 生存圏研究所          | 0  | 0   | 0  | 2        | 2   | 0  | 0   | 0  | 0  | 4   | 4   | 8   | 0   | 0  | 8   | 14  |
| 生命科学研究科         | 0  | 0   | 1  | 4        | 5   | 0  | 0   | 0  | 0  | 6   | 6   | 6   | 0   | 0  | 6   | 17  |
| 地球環境学堂          | 0  | 4   | 0  | 2        | 6   | 0  | 0   | 0  | 0  | 5   | 5   | 1   | 0   | 0  | 1   | 12  |
| 防災研究所           | 1  | 1   | 0  | 1        | 3   | 0  | 0   | 0  | 0  | 4   | 4   | 3   | 0   | 0  | 3   | 10  |
| 経済学研究科          | 1  | 1   | 3  | 0        | 5   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 1   | 0   | 1  | 2   | 7   |
| 国際高等教育院         | 4  | 1   | 0  | 0        | 5   | 0  | 3   | 2  | 0  | 0   | 5   | 0   | 0   | 0  | 0   | 10  |
| 原子炉実験所          | 1  | 2   | 0  | 4        | 7   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0   | 7   |
| 情報学研究科          | 0  | 1   | 0  | 2        | 3   | 0  | 1   | 0  | 3  | 1   | 5   | 1   | 0   | 0  | 1   | 9   |
| フィールド科学教育研究センター | 1  | 0   | 0  | 3        | 4   | 0  | 0   | 0  | 0  | 1   | 1   | 1   | 0   | 0  | 1   | 6   |
| 再生医学研究所         | 1  | 1   | 0  | 1        | 3   | 0  | 0   | 0  | 0  | 5   | 5   | 4   | 0   | 0  | 4   | 12  |
| こころの未来研究センター    | 1  | 0   | 0  | 0        | 1   | 0  | 1   | 0  | 2  | 0   | 3   | 4   | 0   | 0  | 4   | 8   |
| 生態学研究センター       | 0  | 1   | 0  | 0        | 1   | 0  | 0   | 0  | 0  | 1   | 1   | 5   | 0   | 0  | 5   | 7   |
| アフリカ地域研究資料センター  | 0  | 0   | 0  | 0        | 0   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 3   | 0   | 0  | 3   | 3   |
| 国際交流推進機構        | 2  | 2   | 0  | 0        | 4   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0   | 4   |
| 地域研究統合情報センター    | 0  | 2   | 0  | 0        | 2   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0   | 2   |
| 高等教育研究開発推進センター  | 1  | 1   | 0  | 0        | 2   | 0  | 1   | 0  | 1  | 0   | 2   | 3   | 0   | 0  | 3   | 7   |
| 福井謙一記念研究センター    | 0  | 0   | 0  | 0        | 0   | 0  | 0   | 0  | 0  | 1   | 1   | 0   | 0   | 0  | 0   | 1   |
| 経営管理研究部         | 0  | 1   | 0  | 0        | 1   | 0  | 0   | 1  | 0  | 1   | 2   | 1   | 0   | 1  | 2   | 5   |
| 総合生存学館          | 1  | 0   | 0  | 0        | 1   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0   | 1   |
| 基礎物理学研究所        | 0  | 0   | 0  | 0        | 0   | 0  | 0   | 0  | 1  | 0   | 1   | 1   | 0   | 0  | 1   | 2   |
| 経済研究所           | 0  | 0   | 0  | 1        | 1   | 0  | 0   | 0  | 0  | 1   | 1   | 1   | 0   | 0  | 1   | 3   |
| 総合博物館           | 1  | 1   | 0  | 0        | 2   | 0  | 0   | 0  | 0  | 1   | 1   | 0   | 0   | 0  | 0   | 3   |
| 情報環境機構          | 1  | 0   | 0  | 1        | 2   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0   | 2   |
| 放射線生物研究センター     | 0  | 0   | 0  | 0        | 0   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 2   | 0   | 0  | 2   | 2   |
| 学生総合支援センター      | 0  | 2   | 0  | 0        | 2   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0   | 2   |
| 環境安全保健機構        | 0  | 0   | 0  | 2        | 2   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0   | 2   |
| エネルギー理工学研究所     | 0  | 0   | 0  | 0        | 0   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 3   | 0   | 0  | 3   | 3   |
| 附属図書館           | 0  | 1   | 0  | 0        | 1   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0   | 1   |
| 男女共同参画推進本部      | 0  | 0   | 0  | 0        | 0   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0   | 0   |
| エネルギー科学研究科      | 0  | 0   | 0  | 0        | 0   | 0  | 0   | 0  | 1  | 0   | 1   | 0   | 0   | 0  | 0   | 1   |
| 学術情報メディアセンター    | 0  | 0   | 0  | 0        | 0   | 0  | 0   | 0  | 0  | 1   | 1   | 1   | 0   | 0  | 1   | 2   |
| 合計              | 65 | 70  | 23 | 111      | 269 | 2  | 32  | 11 | 88 | 166 | 299 | 264 | 100 | 4  | 368 | 936 |

#### 4. 女子学生の状況

(分析データ：京都大学概要 2014)

2015年5月1日現在の京都大学の学部生数、大学院生数、女性比率を表4と表5に示す。1946年からの女子学生数とその比率は図5にある。

学部学生の女性比率は全体で22.3%と、教員と比較するとかなり高い。医学部(4年制)では、73.4%、薬学部(6年制)では50.3%、文学部、教育学部は、約40%が女子学生である。工学部は教員と同じく低く、女性比率8.2%である。大学院では、修士課程から博士課程に進むに従って、女性比率が、23.1%から29.4%へと高くなる。しかし、図6に示したように教員への道は細いパイになっている。

表4 学部学生数と女性比率

| 部局       | 学部生             | 女性%  |
|----------|-----------------|------|
| 総合人間学部   | 610             | 29.7 |
| 文学部      | 1,083           | 42.4 |
| 教育学部     | 306             | 39.5 |
| 法学部      | 1,545           | 25.3 |
| 経済学部     | 1,158           | 19.4 |
| 理学部      | 1,431           | 9.6  |
| 医学部(6年制) | 682             | 18.5 |
| 医学部(4年制) | 638             | 73.4 |
| 薬学部(6年制) | 187             | 50.3 |
| 薬学部(4年制) | 229             | 19.7 |
| 工学部      | 4,352           | 8.2  |
| 農学部      | 1,347           | 31.2 |
| 計        | 13,568<br>(222) | 22.3 |

注) ( )内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数

表5 大学院生数と女性比率

| 部局              | 修士課程           | 女性%  | 博士課程           | 女性%  |
|-----------------|----------------|------|----------------|------|
| 文学研究科           | 238            | 39.9 | 215            | 38.1 |
| 教育学研究科          | 98             | 45.9 | 94             | 51.1 |
| 法学研究科           | 39             | 35.9 | 71             | 35.2 |
| 経済学研究科          | 98             | 35.7 | 154            | 26.6 |
| 理学研究科           | 602            | 13.3 | 500            | 16.6 |
| 医学研究科           |                |      | 713            | 26.1 |
|                 | 183            | 56.8 | 91             | 38.5 |
| 薬学研究科           |                |      | 28             | 14.3 |
|                 | 115            | 32.2 | 58             | 29.3 |
| 工学研究科           | 1,480          | 11.7 | 547            | 14.1 |
| 農学研究科           | 651            | 34.7 | 264            | 35.2 |
| 人間・環境学研究科       | 335            | 36.7 | 289            | 50.2 |
| エネルギー科学研究科      | 275            | 7.6  | 75             | 22.7 |
| アジア・アフリカ地域研究研究科 |                |      | 148            | 54.1 |
| 情報学研究科          | 408            | 8.1  | 145            | 19.3 |
| 生命科学研究科         | 162            | 47.5 | 106            | 43.4 |
| 総合生存学館          |                |      | 34             | 38.2 |
| 地球環境学舎          | 89             | 43.8 | 66             | 56.1 |
| 計               | 4,773<br>(439) | 23.1 | 3,598<br>(634) | 29.4 |

(注1)医学研究科博士(後期)課程の上段は博士課程(4年制)

(注2)アジア・アフリカ地域研究研究科、総合生存学館は一貫制博士課程

(注3) ( )内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数

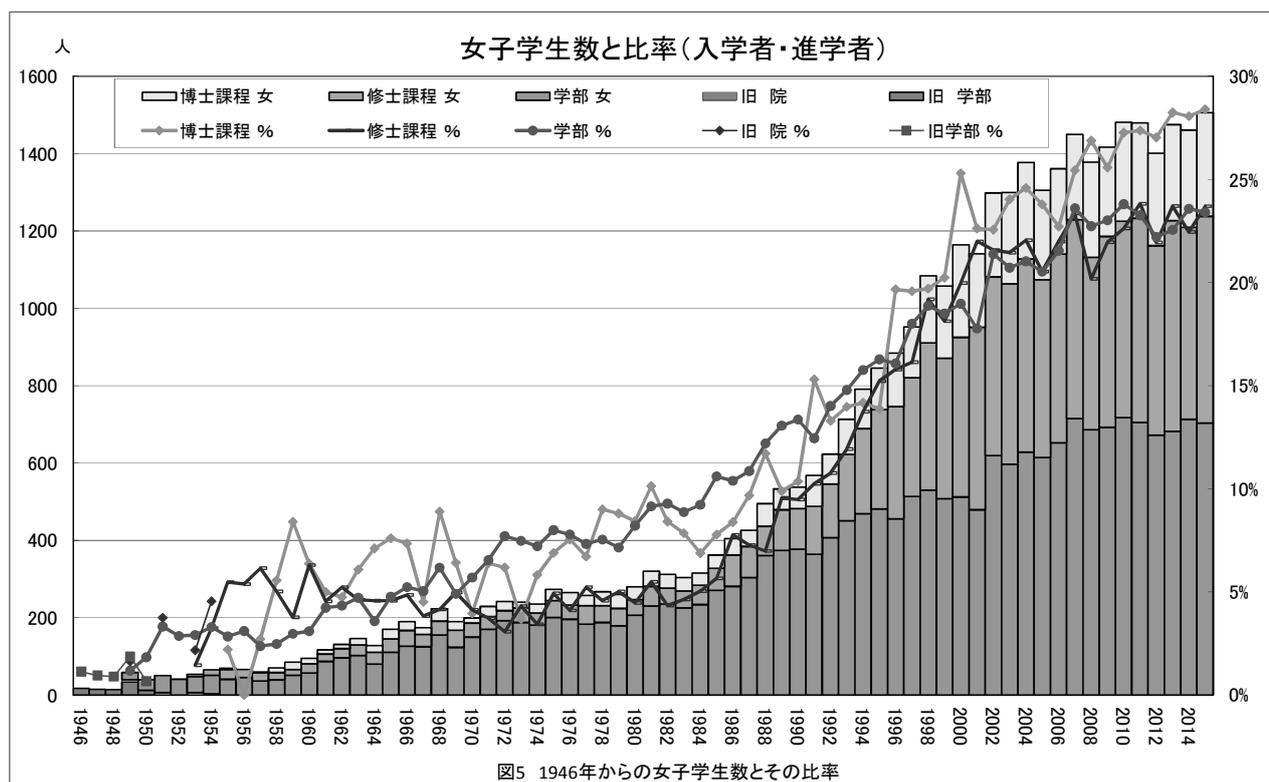


図5 1946年からの女子学生数とその比率

図6 女性の比率の流れ



※ 2.「女性研究者の雇用形態」(表 2、図 4)、3. 「女性教員の部局別・職階別分布」(表 3)は、総務部(2015年5月1日現在)より作成。その他は、京都大学概要 2014(2015年5月1日現在)より作成。総務部データと京都大学概要では、集計上の事情によって女性研究者総数で数名の違いがある。また、作図にあたり四捨五入している。

## 平成27年度 京都大学男女共同参画推進センター報告書

発行日 平成28年3月

発行所 京都大学男女共同参画推進センター

© 京都大学男女共同参画推進センター

